資料No.6-2【報告】

令和７年度
柏崎刈羽原子力発電所周辺
環境放射線監視調査結果

令和８年９月

東京電力ホールディングス株式会社

目　　次

Ⅰ　監視調査結果の概要 …… 1

Ⅱ　監視調査実施機関 …… 4

Ⅲ　監視調査方法 …… 4

1　監視調査項目、監視調査地点及び頻度 …… 4

2　環境試料中の放射能測定試料数 …… 8

3　測定装置及び測定方法 …… 9

4　表示単位及び測定値の取扱い方法 …… 11

Ⅳ　監視調査結果 …… 12

1　空間放射線 …… 12

(1)　空間放射線量率 …… 12

(2)　積算線量 …… 18

2　環境試料中の放射能 …… 22

(1)　浮遊じんの全ベータ放射能 …… 22

(2)　核種分析（機器分析） …… 24

(3)　核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析） …… 24

(4)　核種分析（トリチウムの放射化学分析） …… 24

Ⅴ　参　　考 …… 27

海水放射能モニタによる測定 …… 27

図１　柏崎刈羽原子力発電所の運転保守状況（令和７年度） …… 28

表１　放射性物質の放出状況（令和７年度） …… 32

表２　放射性物質の放出による推定実効線量 …… 33

表３　風向、風速、大気安定度月別記録 …… 33

表４　気温、降雨雪量、最大積雪深月別記録 …… 34

表５　気象要素の観測時間 …… 35

図２　風 配 図 …… 35

添 付 資 料

付表１　空間放射線量率の月別測定結果 …… 39
付表２　空間放射線量率の四半期別測定結果 …… 42
付表３　積算線量の測定結果 …… 44
付表４　積算線量の四半期別測定結果 …… 45
付表５　浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果 …… 48
付表６　浮遊じんの四半期別全ベータ放射能測定結果 …… 50
付表７　環境試料の核種分析結果 …… 52
付表８　環境試料の核種濃度検出下限値 …… 57
付表９　海水放射能モニタの月別測定結果 …… 58
付表 10 モニタリングポスト・環境試料等の地点等変更履歴 …… 61

事 象 報 告

事象報告１　積算線量の測定結果について …… 67
事象報告２　大根の核種分析結果（ストロンチウム 90 について） …… 74
事象報告３　キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90 について） …… 76

参 考 資 料

参考資料１　令和７年度第２四半期の空間放射線量率の測定結果について …… 81
参考資料２　令和７年度第２四半期の積算線量の測定結果について …… 85
参考資料３　令和７年度第２四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について …… 88
参考資料４　令和７年度第４四半期の積算線量の測定結果について …… 91
参考資料５　令和７年度第４四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について …… 97
参考資料６　環境試料中の人工放射性核種濃度の経年変化 …… 106

Ⅰ　監視調査結果の概要

東京電力ホールディングス株式会社柏崎刈羽原子力発電所の令和７年度の運転状況は、以下のとおりである。

１号機は、平成 23 年８月６日から第 16 回定期事業者検査を実施中である。

２号機は、平成 19 年２月 19 日から第 12 回定期事業者検査を実施中である。

３号機は、平成 19 年９月 19 日から第 10 回定期事業者検査を実施中である。

４号機は、平成 20 年２月 11 日から第 10 回定期事業者検査を実施中である。

５号機は、平成 24 年１月 25 日から第 13 回定期事業者検査を実施中である。

６号機は、平成 24 年３月 26 日から第 10 回定期事業者検査を実施していたが、令和８年２月 16 日に発電を開始した。また、令和８年２月 20 日から２月 23 日の間、起動の過程における温度及び圧力の変化や設備の運点による異常の有無等の確認を実施するため、中間停止を行った。

その後、令和８年２月 25 日に発電を再開し、令和８年３月３日から定格熱出力一定運転に移行したが、発電機微少地絡継電器動作警報の発報に伴う調査のため、令和８年３月 13 日に出力降下を開始し、令和８年３月 14 日に発電を停止した。この警報は、発電機と接地装置を繋ぐ接地導体の破損により接地導体への電流が流れなくなり、微少地絡継電器が動作したことで発報したものである。

その後、令和８年３月 22 日に発電を再開し、令和８年３月 27 日から定格熱出力一定運転に移行した。

７号機は、平成 23 年８月 23 日から第 10 回定期事業者検査を実施中である。

令和７年度に実施した柏崎刈羽原子力発電所周辺の環境放射線監視調査結果の概要は、以下のとおりである。

令和７年度の測定結果は、次表に示す２つの対照期間の測定値の範囲と比較して、３つに区分した。

ただし、空間放射線の対照期間の測定値との比較にあたっては、計数誤差を考慮せず、〔超える〕又は〔範囲内〕に区分した。

対照期間	・直　近：直近５カ年（令和２～令和６年度） ・事　前：事前調査期間（調査開始～昭和 59 年 12 月）
区　　分	・超える：測定結果の計数誤差を加味しても対照期間の測定値の上限値を超える場合 ・同程度：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えるが、計数誤差を加味すると対照期間の測定値の上限値と同程度となる場合 ・範囲内：測定結果が対照期間の測定値の上限値を超えない場合

１　空間放射線

(1) 空間放射線量率　<詳細は p12 参照>

発電所敷地境界にほぼ等間隔に設置した９局のモニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション検出器）により連続測定を行った。

各測定地点の年間最高値は、１時間値で 82～97 nGy/h、10 分値で 92～107 nGy/h であり、対照期間の測定値の範囲内であった。

(2) 積算線量 〈詳細はp18及びｐ67事象報告１参照〉

発電所敷地境界のモニタリングポストに併設した９地点及び発電所周辺の９地点に蛍光ガラス線量計を設置し、３か月ごとの積算線量を測定した。

各測定地点の年間積算線量(365日換算)は、0.45～0.52 mGyであり、ＭＰ－９において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

対照期間の測定値の範囲を超えた原因については、当発電所からの影響ではなく雷による影響の可能性が考えられた。

２　環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能 〈詳細はp22参照〉

ＭＰ－１、ＭＰ－５及びＭＰ－８において大気中の浮遊じんをろ紙に６時間集じんし、集じん終了直後及び５時間後にZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器により測定を行った。

各測定地点の集じん終了直後の年間最高値は4.0 Bq/m^3であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了５時間後の年間最高値は0.23 Bq/m^3であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

(2) 核種分析（機器分析） 〈詳細はp24参照〉

採取した全試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータにより測定を行った。

その結果、土壌(陸土)、農産物(米(精米))、指標生物(松葉)、海産物(マダイ、ヒラメ)及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から従来より検出されているセシウム137が検出されたが、検出された値は、対照期間の測定値の範囲内であった。

検出されたセシウム137は、当発電所からの影響ではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。

(3) 核種分析（ストロンチウム90の放射化学分析） 〈詳細はp24、p74事象報告２及びp76事象報告３参照 〉

陸水(飲料水)、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、キャベツ、大根(根部))、海水、海産物(マダイ、サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)について、ストロンチウム90の測定を行った。

その結果、陸水(飲料水)、農産物（キャベツ、大根(根部))、海水及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から同核種が検出され、農産物(キャベツ、大根(根部))については対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

いずれも、検出されたストロンチウム90は、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。

なお、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、大根(根部))、海水、海産物(サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)については平成21年度より、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ)、海産物(マダイ)については令和元年度から測定を開始した。

(4) 核種分析（トリチウムの放射化学分析） <詳細は p24 参照>

陸水(飲料水)及び海水の試料についてトリチウムの測定を行った。

その結果、陸水(飲料水)及び海水から同核種が検出され、検出された値は、陸水(飲料水)については対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

Ⅱ　監視調査実施機関

東京電力ホールディングス株式会社　　柏崎刈羽原子力発電所

Ⅲ　監 視 調 査 方 法

1　監視調査項目、監視調査地点及び頻度

監視調査項目、監視調査地点及び頻度は、表１及び図１のとおりである。

表１　監視調査項目、監視調査地点及び頻度

(1) 空間放射線

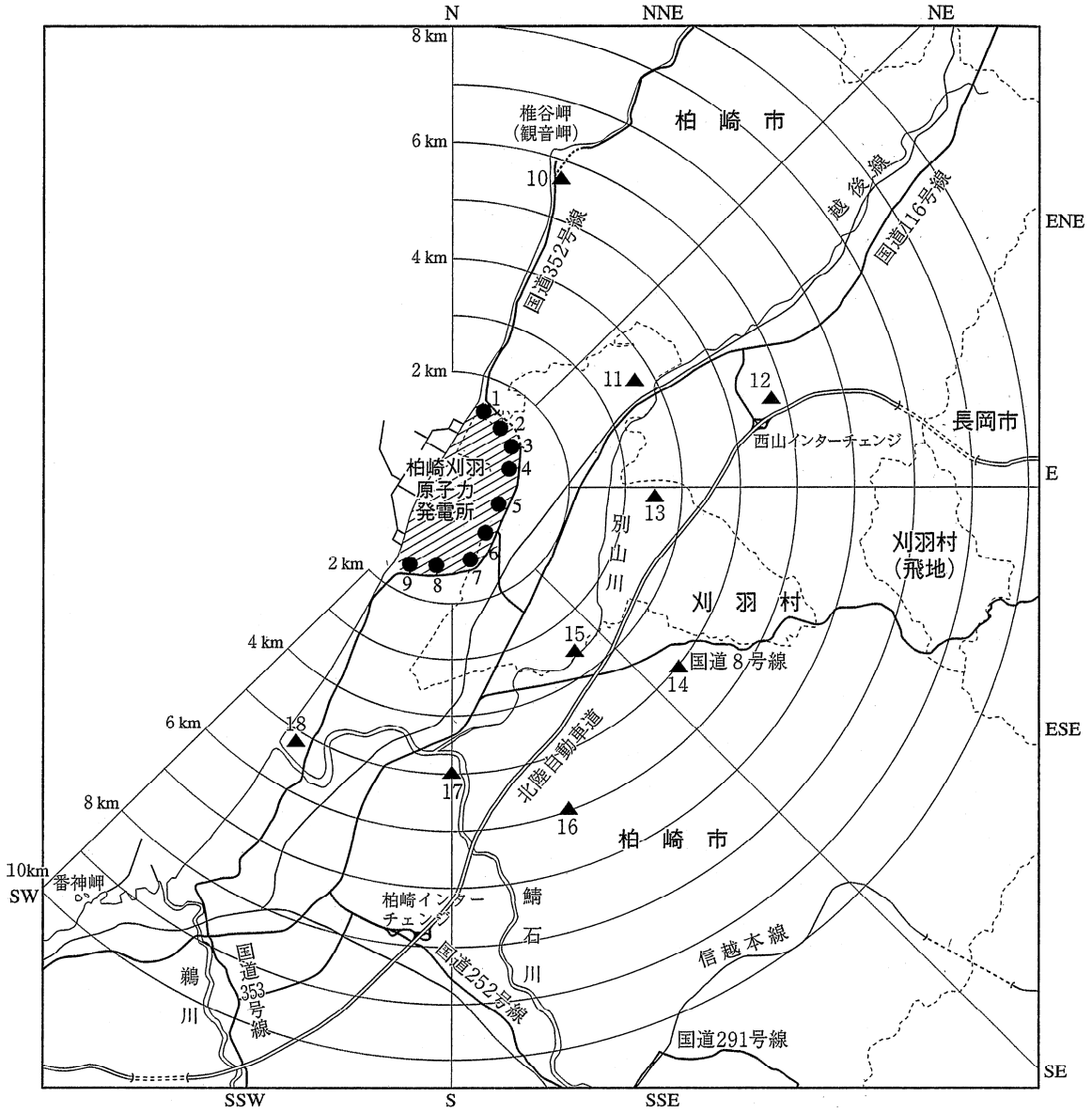
調　査　項　目	調　査　地　点	測　定　機　器	頻　　度	備　　考
空間放射線量率	ＭＰ－１ ～　ＭＰ－９	モニタリングポスト	連　　続 測　　定	
積　算　線　量	ＭＰ－１ ～　ＭＰ－９ 柏崎市　椎谷 刈羽村　滝谷 柏崎市西山町坂田 刈羽村　井岡 柏崎市　曽地 刈羽村　上高町 柏崎市　与三 柏崎市　上原 柏崎市　松波	蛍光ガラス線量計	年　４　回	４～６月、７～９月、 10～12 月、１～３月の ３か月積算線量

(2) 環境試料

試料名			採取地点	頻度	採取月	備考
陸上試料	浮遊じん	6時間集じん	ＭＰ－１ ＭＰ－５ ＭＰ－８	連続	毎月	
		1か月間集じんろ紙		年12回	毎月	
	陸水	飲料水	刈羽村　刈羽 柏崎市　荒浜	年4回	4、7、 10、2月	
	土壌	陸土	敷地内(ＭＰ－２付近) 敷地内(ＭＰ－８付近)	年2回	5、11月	0～5cm
	農産物	米 (精米)	刈羽村　勝山 刈羽村　高町	年1回	10月	
		キャベツ	刈羽村　勝山 刈羽村　高町	年1回	1月	
		大根 (根部)	刈羽村　勝山 刈羽村　高町	年1回	12月	
	指標生物	松葉	敷地内(発電所北側) 敷地内(発電所南側)	年4回	5、8、 11、3月	
海洋試料	海水		放水口(南)付近 放水口(北)付近	年4回	5、7、 10、2月	表層水
	海底土		放水口(南)付近 放水口(北)付近	年2回	5、10月	表層土
	海産物	マダイ	発電所前面海域	年1回／種	5月	
		ヒラメ			5月	
		サザエ	柏崎市　椎谷岬 (観音岬)	年1回	7月	
		ワカメ	放水口(南)付近 放水口(北)付近	年1回	5月	
	指標生物	ホンダワラ類	放水口(南)付近 放水口(北)付近	年4回	5、9、 11、2月	

(注)　核種分析で対象とした核種は、Mn-54、Co-58、Co-60、I-131（キャベツ、ワカメ、ホンダワラ類のみ)、Cs-134、Cs-137、Sr-90（飲料水、陸土、米、キャベツ、大根、海水、マダイ、サザエ、ホンダワラ類のみ）及びH-3（飲料水、海水のみ）である。
なお、参考値として、天然放射性核種のBe-7及びK-40を報告した。

図１(1) 空間放射線調査地点

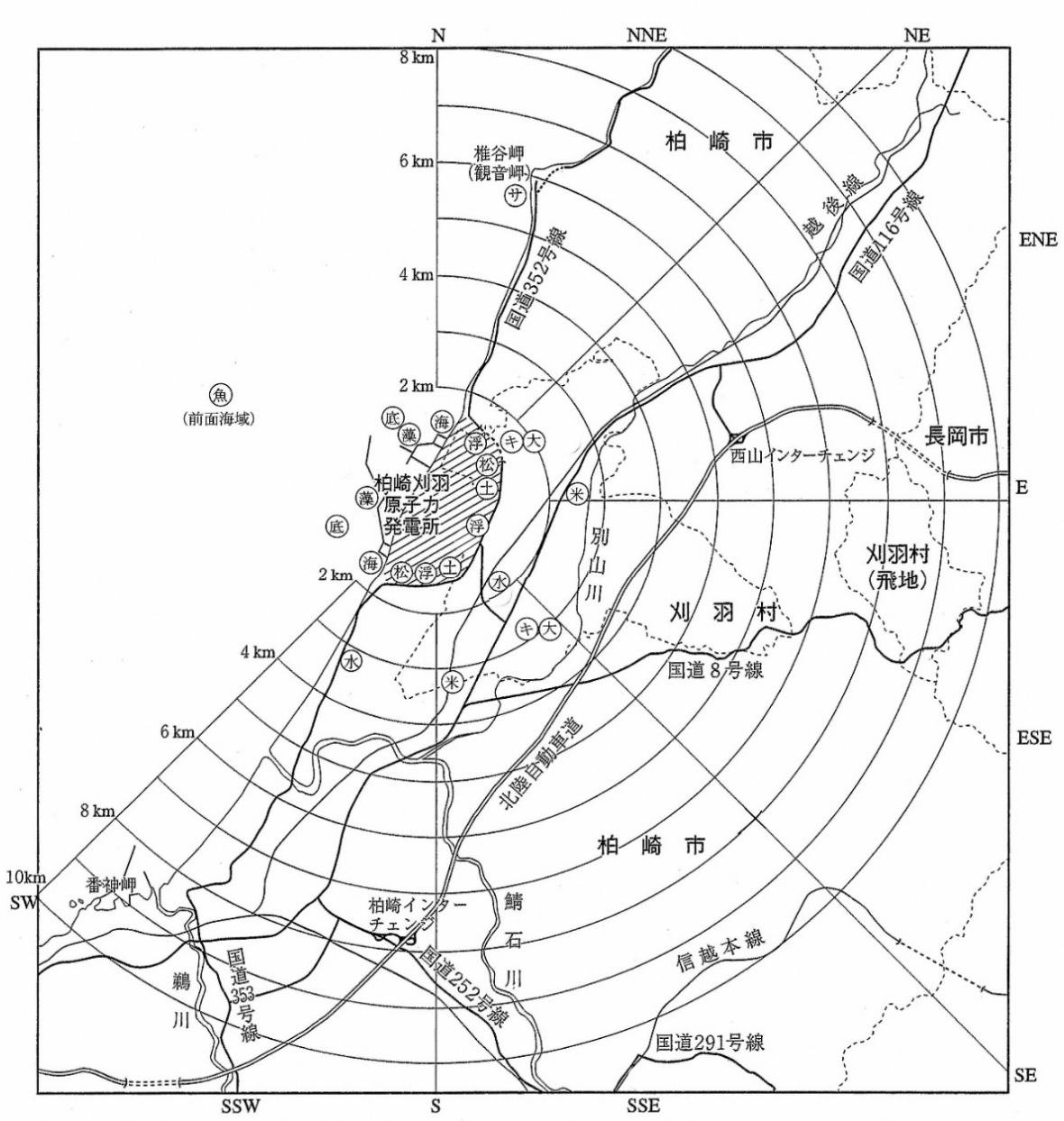


No.	調査地点	方位	距離(km)	No.	調査地点	方位	距離(km)
1	● ＭＰ－１	ＮＮＥ	1.5	10	▲ 柏崎市椎谷	ＮＮＥ	5.3
2	● ＭＰ－２	Ｎ　Ｅ	1.5	11	▲ 刈羽村滝谷	Ｎ　Ｅ	3.4
3	● ＭＰ－３	ＥＮＥ	1.3	12	▲ 柏崎市西山町坂田	ＥＮＥ	5.6
4	● ＭＰ－４	Ｅ	1.1	13	▲ 刈羽村井岡	Ｅ	3.5
5	● ＭＰ－５	ＥＳＥ	0.9	14	▲ 柏崎市曽地	Ｓ　Ｅ	5.0
6	● ＭＰ－６	Ｓ　Ｅ	1.2	15	▲ 刈羽村上高町	Ｓ　Ｅ	3.8
7	● ＭＰ－７	ＳＳＥ	1.4	16	▲ 柏崎市与三	ＳＳＥ	6.0
8	● ＭＰ－８	Ｓ	1.5	17	▲ 柏崎市上原	Ｓ	4.9
9	● ＭＰ－９	ＳＳＷ	1.6	18	▲ 柏崎市松波	ＳＳＷ	5.6

● モニタリングポスト及び蛍光ガラス線量計ポスト

▲ 蛍光ガラス線量計ポスト

図１(2) 環境試料採取地点



記号	環境試料名	採取地点	記号	環境試料名	採取地点
㊊	浮遊じん	ＭＰ－１、ＭＰ－５、ＭＰ－８	㊍	松葉	発電所北側 発電所南側
㊌	飲料水	刈羽村刈羽 柏崎市荒浜	㊓	海水	放水口（南）付近 放水口（北）付近
㊏	陸土	ＭＰ－２付近 ＭＰ－８付近	㊐	海底土	放水口（南）付近 放水口（北）付近
㊋	精米	刈羽村勝山 刈羽村高町	㊎	魚類	発電所前面海域
㊎	キャベツ	刈羽村勝山 刈羽村高町	㊐	サザエ	柏崎市椎谷岬 （観音岬）
㊐	大根	刈羽村勝山 刈羽村高町	㊐	ワカメ、ホンダワラ類	放水口（南）付近 放水口（北）付近

2　環境試料中の放射能測定試料数

環境試料中の放射能測定試料数は、表２のとおりである。

表２　環境試料中の放射能測定試料数

試料名			試料数	核種分析		
				機器分析	ストロンチウム90	トリチウム
陸上試料	浮遊じん		36	36	――	――
	陸水	飲料水	8	8	1	8
	土壌	陸土	4	4	1	――
	農産物	米（精米）	2	2	1	――
		キャベツ	2	2	1	――
		大根（根部）	2	2	1	――
	指標生物	松葉	8	8	――	――
海洋試料	海水		8	8	1	8
	海底土		4	4	――	――
	海産物	マダイ	1	1	1	――
		ヒラメ	1	1	――	――
		サザエ	1	1	1	――
		ワカメ	2	2	――	――
	指標生物	ホンダワラ類	8	8	1	――
計			87	87	9	16

3　測定装置及び測定方法

測定装置及び測定方法は、表３のとおりである。

表３　測定装置及び測定方法

(1) 空間放射線

項　　目	測　定　装　置	測　　定　　方　　法
空間放射線量率	モニタリングポスト ・2″ φ×2″ NaI(Tl) シンチレーション検出器 エネルギー補償方式 温度補償方式 検出器加温装置付	測　定　法: 原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」(平成 29 年改訂) に準拠 測 定 位 置 : 地上 1.5m 校 正 線 源 : Cs-137
積　算　線　量	蛍光ガラス線量計 ・素子主成分 銀活性リン酸塩 蛍光ガラス線量計リーダ	測　定　法: 文部科学省編「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法」(平成 14 年制定) に準拠 測 定 本 数 : １地点につき３素子 積 算 期 間 : ３か月 線量計収納箱 : (材質) 塩化ビニル 測 定 位 置 : 地上 1.5m 校 正 線 源 : Cs-137

(2) 環境試料中の放射能

項　　目	測　定　装　置	測　　定　　方　　法
全ベータ放射能 (浮遊じん)	空気中放射性塵埃測定装置 ・ZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器(50㎜φ) ・遮蔽体	測　定　法 : 原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」(令和４年制定) に準拠 集じん時間 : ６時間集じん (原則として連続) 集じん終了直後に 10 分間、及び ５時間後に 10 分間測定 集じん方式 : 間欠移動式 ろ　　紙 : HE-40T、長尺 吸 引 流 量 : 約 200NL/分 空気吸引口 : 地上約 2m 校 正 線 源 : Cl-36

項　　目	測　定　装　置	測　　定　　方　　法
核　種　分　析 （機器分析）	ゲルマニウム半導体検出装置 ・高純度ゲルマニウム半導体検出器 相対効率 約 35%（I-131） 約 40%（I-131 を除く） 分 解 能　約 1.9keV ・多重波高分析器 ・データ処理装置 ・遮蔽体	測　定　法：原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるガンマ線スペクトロメトリー」（令和２年改訂）に準拠 文部科学省編「ゲルマニウム半導体検出器等を用いる機器分析のための試料の前処理法」（昭和 57 年制定）に準拠 文部科学省編「放射性ヨウ素分析法」（平成８年改訂）に準拠 測定試料形態：浮遊じん：灰化物 １か月分の集じんろ紙を纏めたもの 陸　　水：蒸発残留物 土　　壌：乾燥細土 農 産 物：灰化物 指標生物(松葉)：灰化物 海　　水：リンモリブデン酸アンモニウム-二酸化マンガン共沈法による沈殿物 海 底 土：乾燥細土 海 産 物：灰化物 指標生物(ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類)：灰化物 ただし、I-131 については、乾燥試料で測定 測 定 容 器：Ｕ－８容器 測 定 時 間：80,000 秒
核　種　分　析 （ストロンチウム 90）	低バックグラウンド自動測定装置	測　定　法：文部科学省編「放射性ストロンチウム分析法」（平成 15 年改訂）に準拠 測定試料皿：25 ㎜φステンレススチール皿 測 定 時 間：60 分
核　種　分　析 （トリチウム）	低バックグラウンド液体シンチレーション検出装置	測　定　法：文部科学省編「トリチウム分析法」（令和５年改訂）に準拠 測 定 容 器：145mL テフロンバイアル 測 定 時 間：500 分

４　表示単位及び測定値の取扱い方法

表示単位及び測定値の取扱い方法は、表４のとおりである。

表４　表示単位及び測定値の取扱い方法

(1) 空間放射線

項　　目	表示単位	測　定　値　の　取　扱　い　方　法
空間放射線量率	nGy/h	表示の数値は、10分値及び１時間値である。表示は整数とし、小数第１位を四捨五入してある。 10分値は、10分間の計測値からの１時間換算値である。 １時間値は、正時から次の正時までの１時間の積算値である。 なお、照射線量単位から空気吸収線量単位への換算係数は、JIS Z 4511:2024 による。
積　算　線　量	mGy	３か月積算値は91日に、年間積算値は365日に換算してある。 表示は小数第２位までとし、小数第３位を四捨五入してある。 なお、照射線量単位から空気吸収線量単位への換算係数は、JIS Z 4511:2024 による。

(2) 環境試料中の放射能

区分	試料名	表示単位	測　定　値　の　取　扱　い　方　法
全ベータ放射能	浮遊じん	Bq/m^3	表示は原則として有効数字２桁とし、３桁目を四捨五入する。
核種分析	浮遊じん	Bq/m^3	① 表示は原則として有効数字２桁とし、３桁目を四捨五入する。 ② 検出下限値は、次のとおりとする。 ア 機器分析における検出下限値は、国の方法（※）にならい Cooper の方法により、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差（計数に係る不確かさ）の３倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 (※) 原子力規制庁編「ゲルマニウム半導体検出器によるγ線スペクトロメトリー」（令和２年改訂） イ 放射化学分析法における検出下限値は、放射線計測時の正味の計数値がその計数誤差（計数に係る不確かさ）の３倍に等しくなるときの放射能濃度とする。 ウ 検出下限値未満の測定値は、「＊」で表す。
	陸　　水	Bq/L	
	土　　壌	Bq/kg乾	
	農 産 物	Bq/kg生	
	指標生物（松葉）	Bq/kg生	
	海　　水	Bq/L	
	海 底 土	Bq/kg乾	
	海 産 物	Bq/kg生	
	指標生物（ホンダワラ類）	Bq/kg生	

Ⅳ　監視調査結果

1　空間放射線

(1) 空間放射線量率

発電所敷地境界にほぼ等間隔に設置した９局のモニタリングポスト（NaI(Tl)シンチレーション検出器）により連続測定を行った。これらの測定結果は表５のとおりであり、月間平均値及び月間変動幅を図２に示す。また、降水量や積雪深との関係を図３に示す。

各測定地点の年間平均値は31～39 nGy/h であった。年間最高値は１時間値で 82～97 nGy/h、10 分値で 92～107 nGy/h であり、各地点の測定結果は、対照期間の測定値の範囲内であった。

なお、各測定地点の年間最高値は、いずれも降水時に出現したものである。

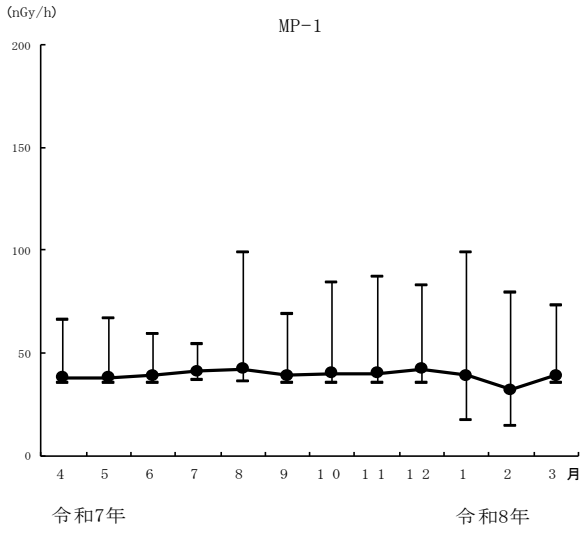
表５　空間放射線量率の測定結果　　（単位：nGy/h）

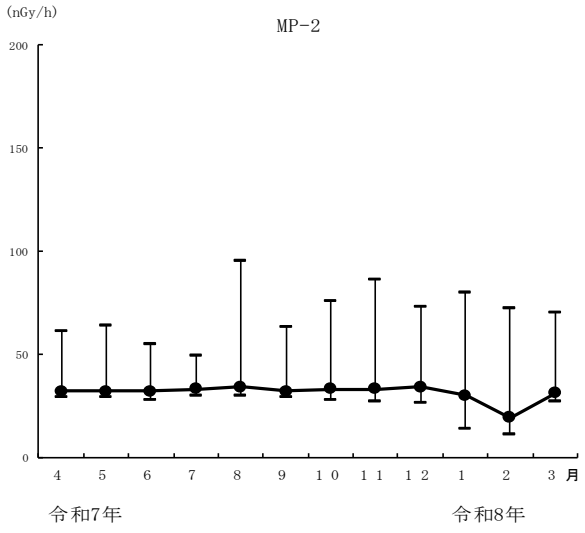
測定地点（モニタリングポスト）	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）		
	測定時間（時 間）	平均値	測定値の範囲		＜ 直 近 ＞ 直近５カ年（R2～R6 年度）		＜ 事 前 ＞ 事前調査期間（S57.4～S59.12）
			１時間値	10 分値	１時間値	10 分値	
ＭＰ－１	8,635	39	14 ～97	14 ～ 99	15 ～111	15 ～118	16 ～ 141
ＭＰ－２	8,616	31	11 ～86	11 ～ 95	10 ～100	10 ～111	6 ～ 130
ＭＰ－３	8,619	34	11 ～88	11 ～ 96	10 ～105	10 ～116	5 ～ 147
ＭＰ－４	8,646	34	11 ～82	10 ～ 95	10 ～103	9 ～108	5 ～ 146
ＭＰ－５	8,547	37	13 ～88	13 ～105	11 ～114	11 ～123	5 ～ 160
ＭＰ－６	8,644	35	11 ～85	11 ～107	10 ～119	10 ～133	5 ～ 174
ＭＰ－７	8,644	34	11 ～84	11 ～ 97	10 ～118	10 ～133	5 ～ 151
ＭＰ－８	8,613	34	12 ～86	12 ～ 92	11 ～115	11 ～129	5 ～ 143
ＭＰ－９	8,648	32	12 ～96	11 ～102	12 ～122	11 ～135	7 ～ 140
全地点	計 77,612	34	11 ～97	10 ～107	10 ～122	9 ～135	5 ～ 174

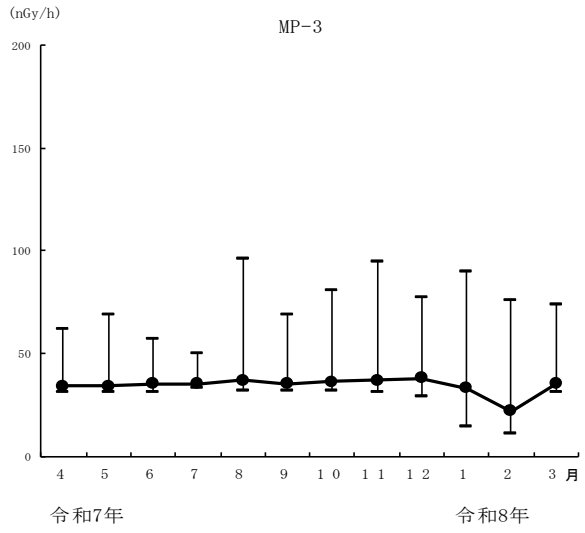
（注）１　平均値及び事前調査期間の測定結果は、１時間値である。
　　２　モニタリングポスト全９局は、令和３年 10 月から 12 月までの期間に検出器の更新を行った。

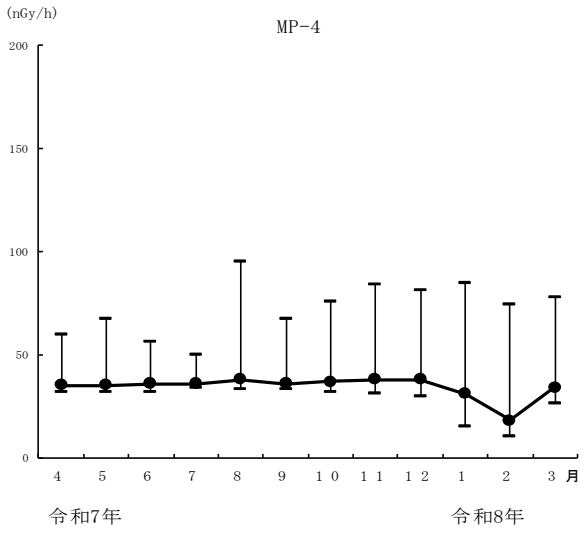
図２　空間放射線量率の月間平均値及び月間変動幅

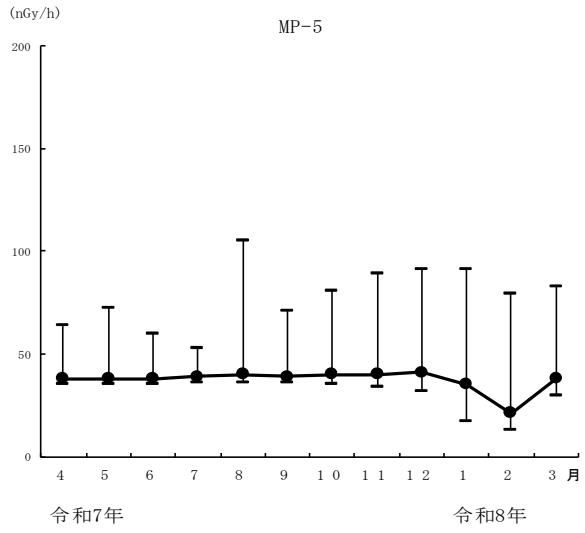
（測定期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

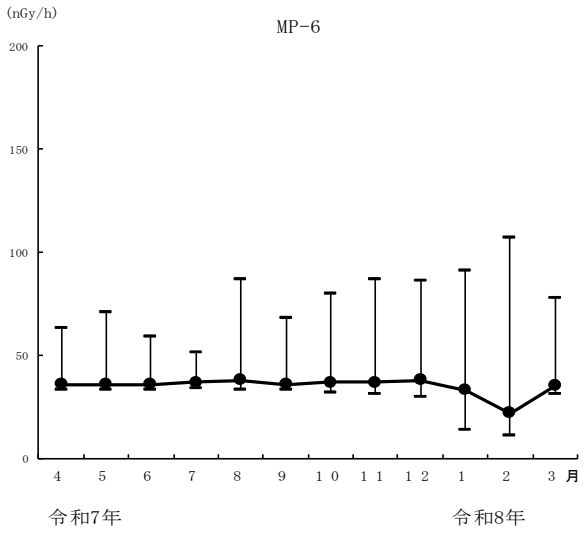


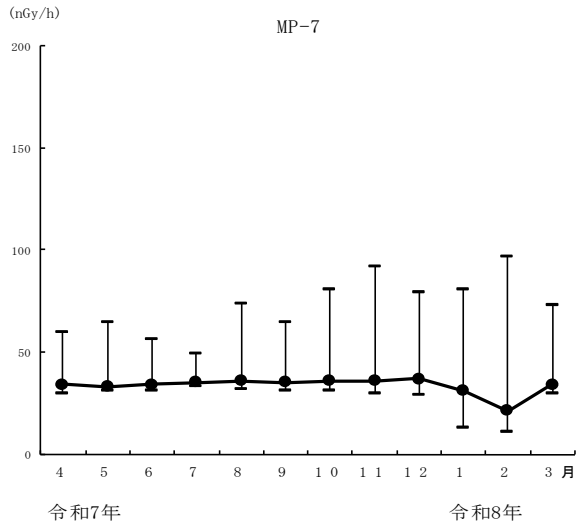


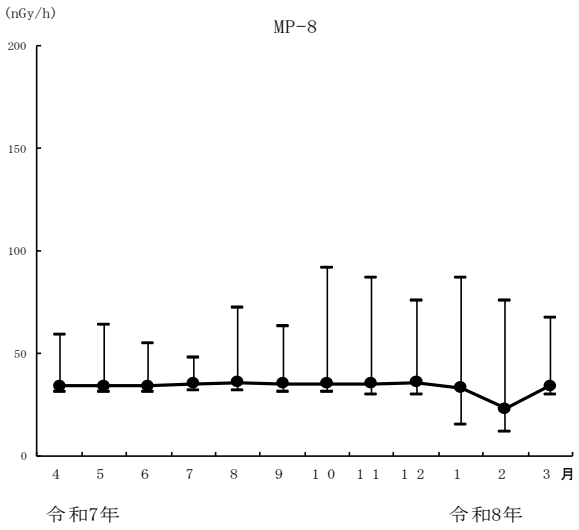


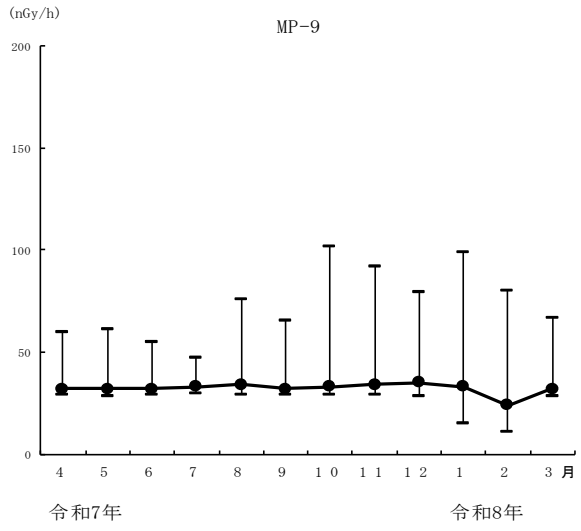







(nGy/h)
MP-7
200
150
100
50
0
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月
令和7年
令和8年


(nGy/h)
MP-8
200
150
100
50
0
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月
令和7年
令和8年


(nGy/h)
MP-9
200
150
100
50
0
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月
令和7年
令和8年

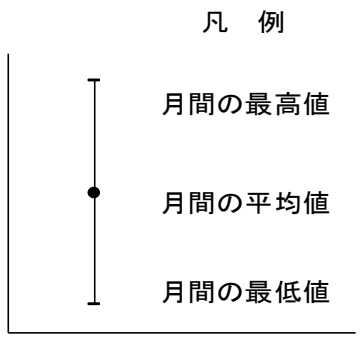
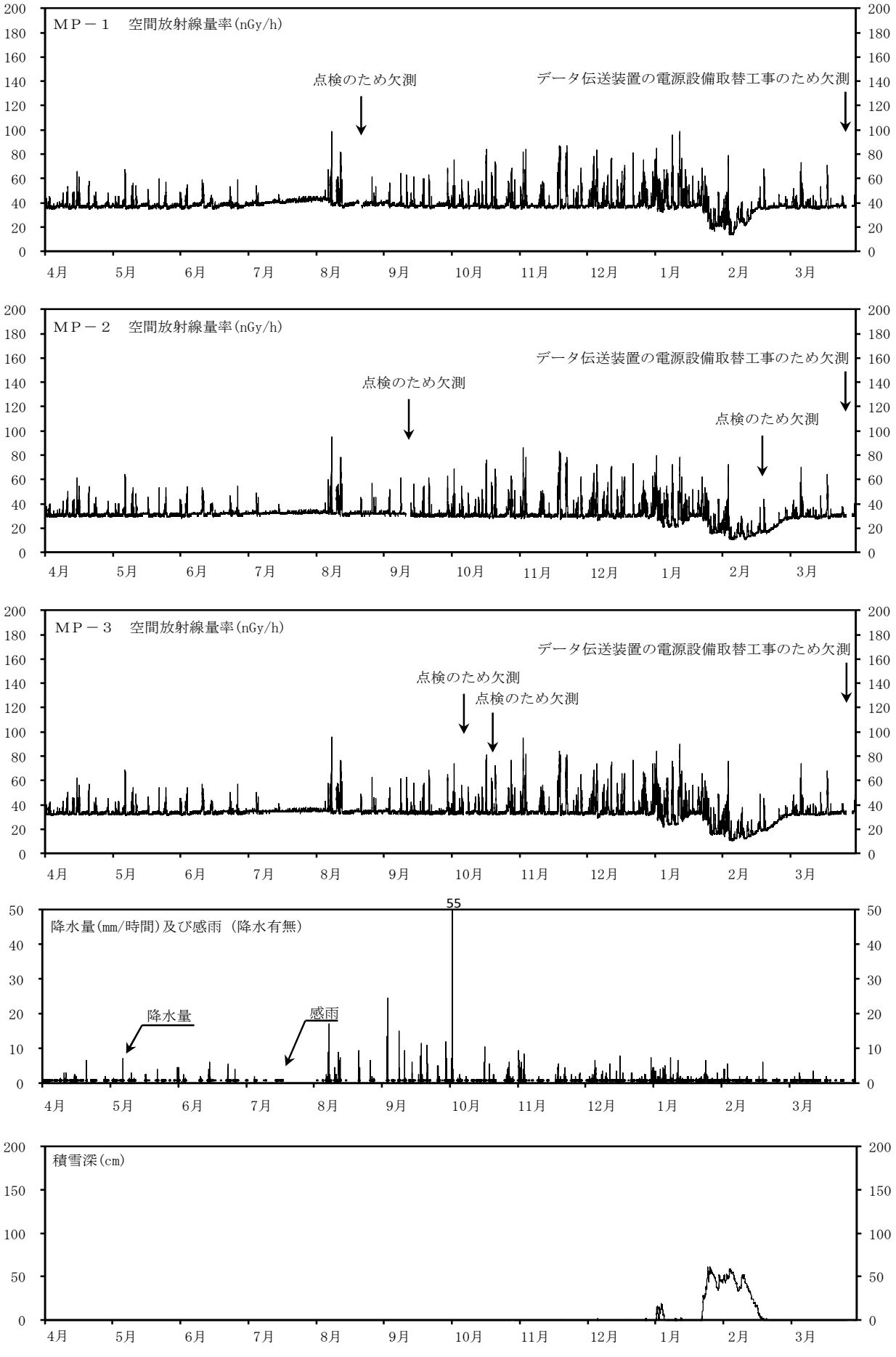

凡 例
月間の最高値
月間の平均値
月間の最低値

図３(1) ＭＰ－１～３の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係

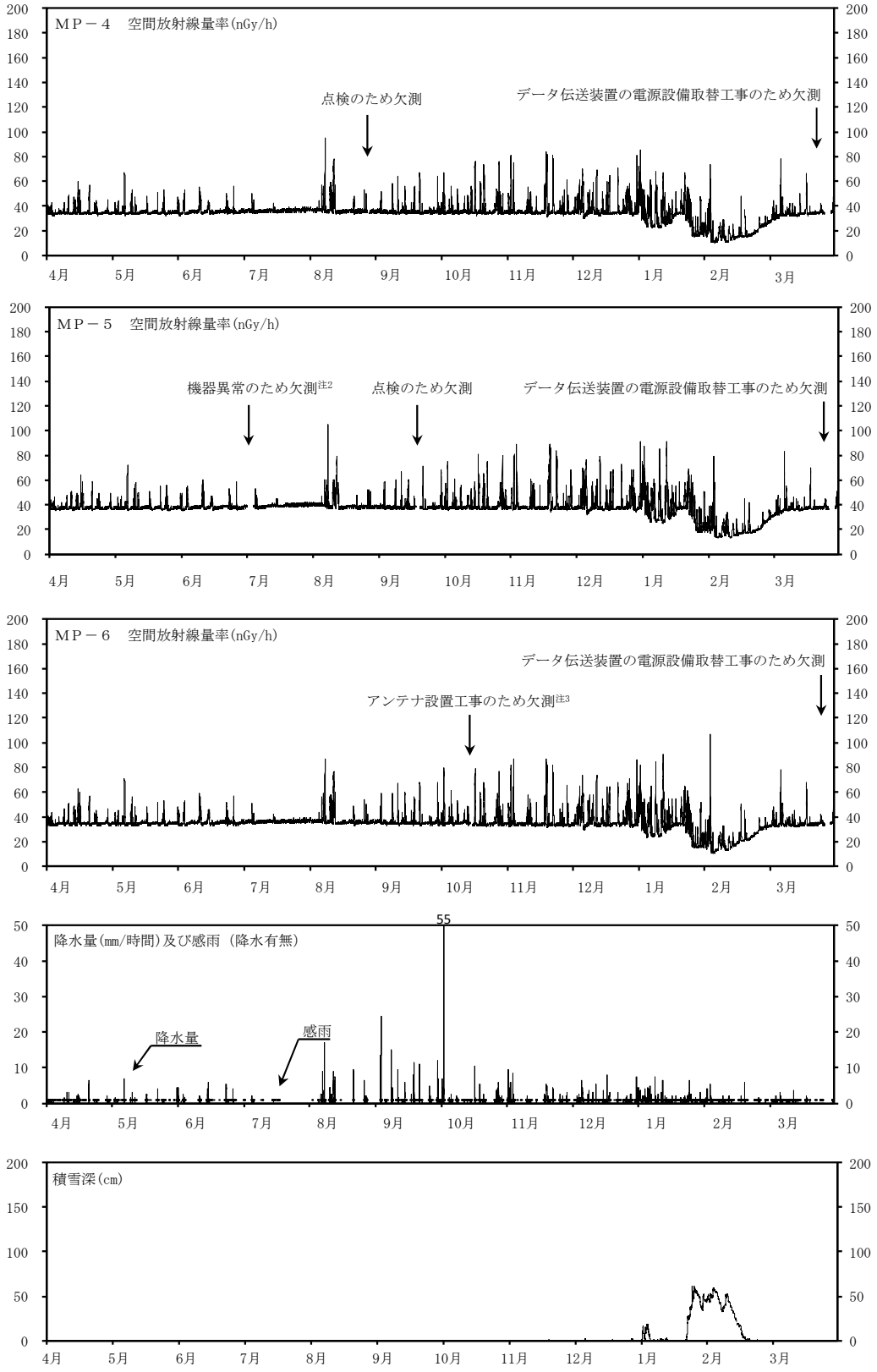
（測定期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）



（注）　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

図３(2) ＭＰ－４～６の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係

（測定期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）



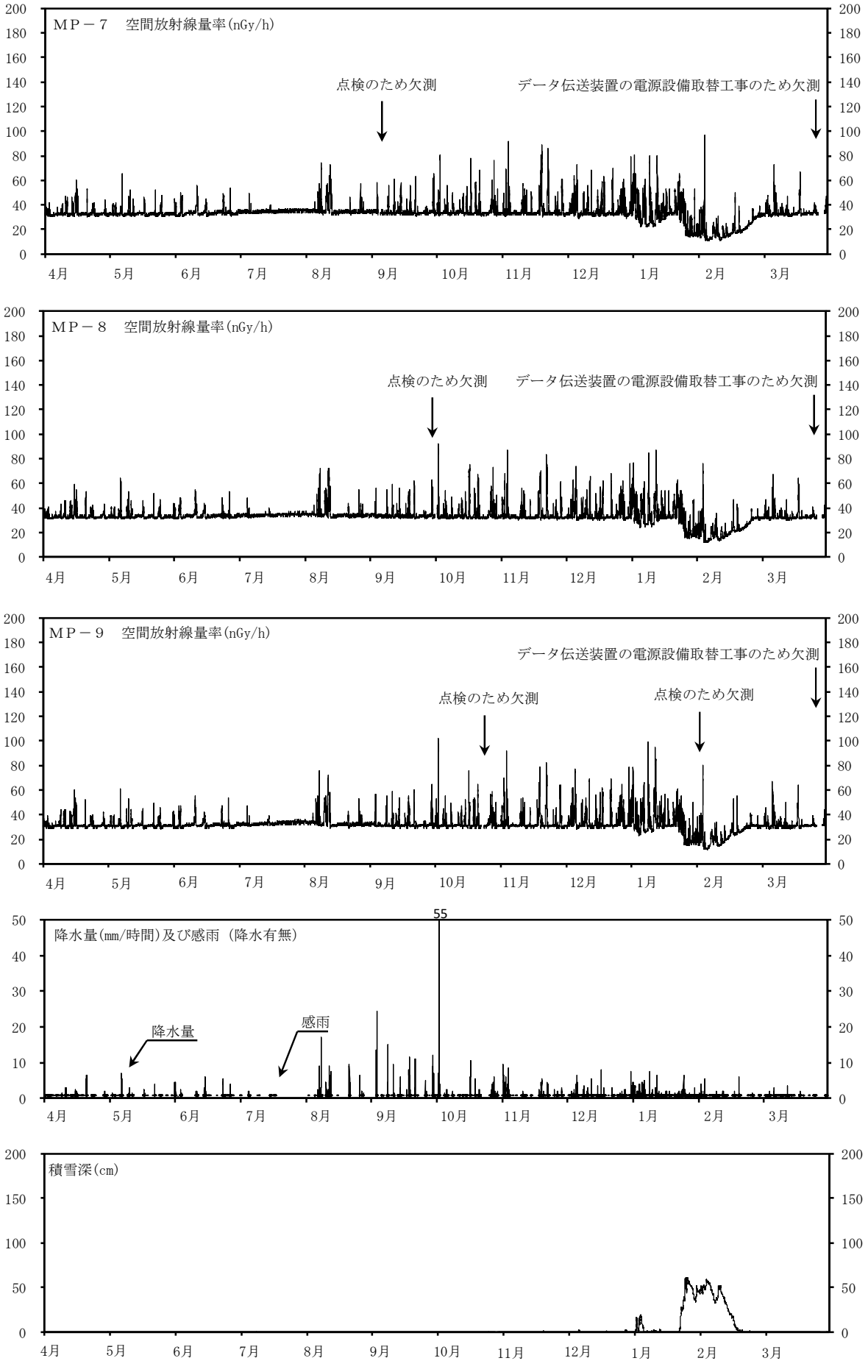
（注）１　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

２　ＭＰ－５において機器異常が発生し、データ伝送が停止した。停止期間中はモニタリングポストによる、測定が継続されており、測定値に有意な変動はなかった。

３　モニタリングポスト近傍における電気工具の使用によりノイズ（電磁波等）の影響で測定値が変動する可能性があったため、モニタリングポストを停止した。停止期間中は可搬型モニタリングポストによる代替測定を実施し、その結果、測定値の有意な変動はなかった。

図３(3) ＭＰ－７～９の空間放射線量率と降水量及び積雪深との関係

（測定期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）



（注）　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

(2) 積算線量

発電所敷地境界のモニタリングポストに併設した９地点及び発電所周辺の９地点に蛍光ガラス線量計を設置し、３か月ごとの積算線量を測定した。これらの測定結果は、表６のとおりであり、積算線量の推移を図４に示す。

年間積算線量(365 日換算)の最高値は、柏崎市椎谷、柏崎市曽地の 0.52 mGy、最低値は、ＭＰ－２、７の 0.45 mGy であり、ＭＰ－９において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

各四半期の３か月積算線量(91日換算)の最高値は、ＭＰ－９の 0.16 mGy、最低値は、ＭＰ－２、４の 0.10 mGy であり、ＭＰ－９において対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

対照期間の測定値の範囲を超えた原因については、当発電所からの影響ではなく、雷による影響の可能性が考えられた。(p67 事象報告１参照)

表６　積算線量の測定結果

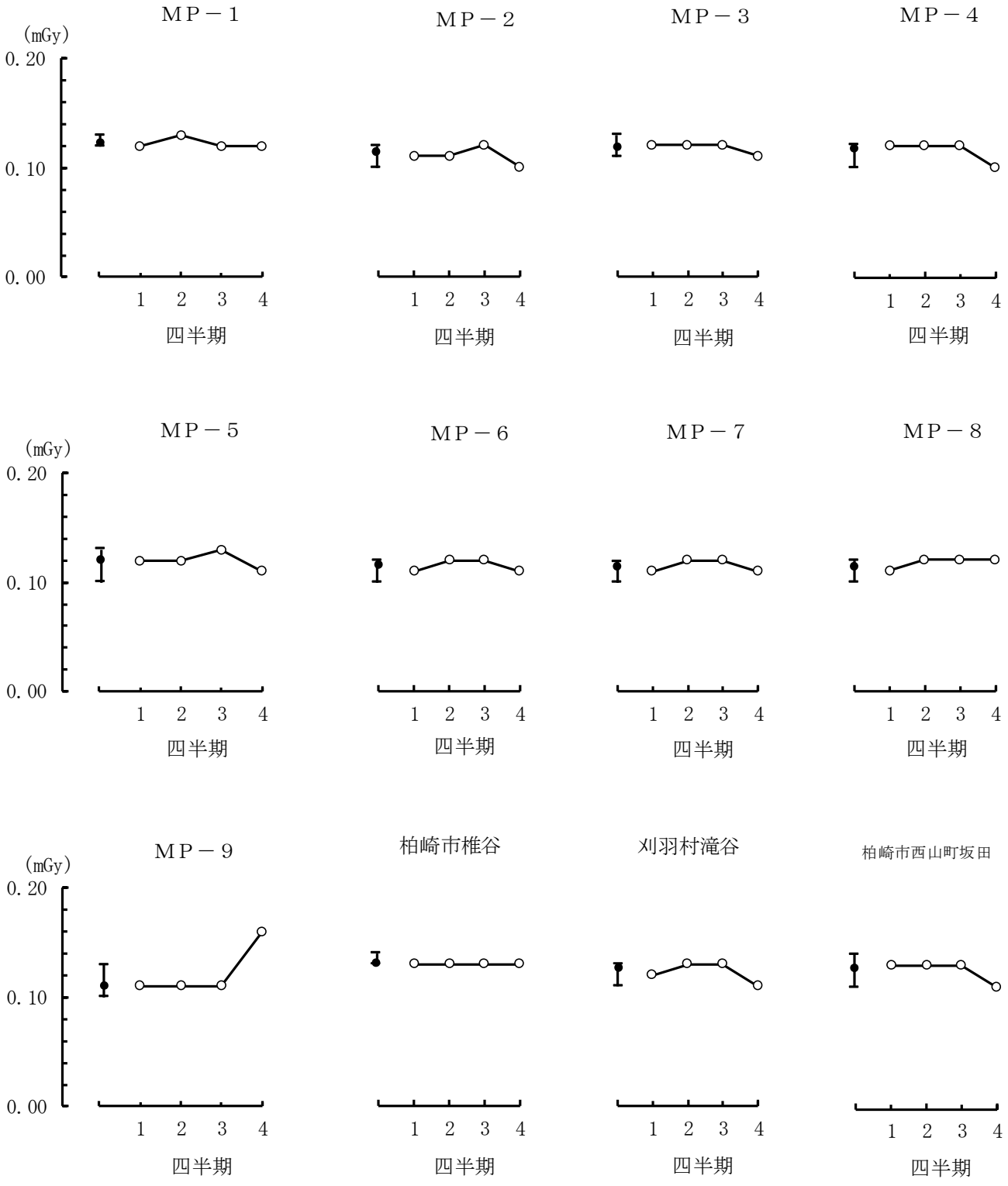
測定地点 (モニタリングポイント)		年間積算線量		四半期積算線量					
		令和７年度の測定結果	対照期間の測定結果（測定値の範囲）	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
			＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
発電所敷地境界付近	ＭＰ－１	0.49	0.48～0.50	0.12	0.13	0.12	0.12	0.12～0.13	0.12～0.16
	ＭＰ－２	0.45	0.45～0.46	0.11	0.11	0.12	0.10	0.10～0.12	0.09～0.17
	ＭＰ－３	0.47	0.47～0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.09～0.15
	ＭＰ－４	0.46	0.45～0.47	0.12	0.12	0.12	0.10	0.10～0.12	0.08～0.15
	ＭＰ－５	0.48	0.48～0.49	0.12	0.12	0.13	0.11	0.10～0.13	0.09～0.15
	ＭＰ－６	0.46	0.46～0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.10～0.12	0.09～0.15
	ＭＰ－７	0.45	0.45～0.46	0.11	0.12	0.12	0.11	0.10～0.12	0.09～0.14
	ＭＰ－８	0.46	0.45～0.46	0.11	0.12	0.12	0.12	0.10～0.12	0.10～0.14
	ＭＰ－９	0.50	0.44～0.47	0.11	0.11	0.11	0.16	0.10～0.13	0.10～0.14
	平均値	0.47	－	0.11	0.12	0.12	0.12	－	－
	最高値	0.50	0.50	0.12	0.13	0.13	0.16	0.13	0.17
	最低値	0.45	0.44	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10	0.08
発電所周辺	柏崎市椎谷	0.52	0.52～0.54	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13～0.14	0.14～0.17
	刈羽村滝谷	0.50	0.50～0.51	0.12	0.13	0.13	0.11	0.11～0.13	0.10～0.16
	柏崎市西山町坂田	0.51	0.51～0.53	0.13	0.13	0.13	0.11	0.11～0.14	0.09～0.16
	刈羽村井岡	0.47	0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.09～0.15
	柏崎市曽地	0.52	0.52～0.55	0.13	0.14	0.14	0.11	0.11～0.14	0.09～0.17
	刈羽村上高町	0.48	0.47～0.48	0.12	0.12	0.12	0.11	0.11～0.13	0.10～0.15
	柏崎市与三	0.50	0.50～0.52	0.12	0.14	0.13	0.12	0.12～0.13	0.10～0.15
	柏崎市上原	0.49	0.49～0.51	0.12	0.13	0.13	0.11	0.11～0.13	0.10～0.16
	柏崎市松波	0.47	0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.11～0.12	0.10～0.15
	平均値	0.50	－	0.12	0.13	0.13	0.11	－	－
	最高値	0.52	0.55	0.13	0.14	0.14	0.13	0.14	0.17
	最低値	0.47	0.47	0.11	0.12	0.12	0.11	0.11	0.09

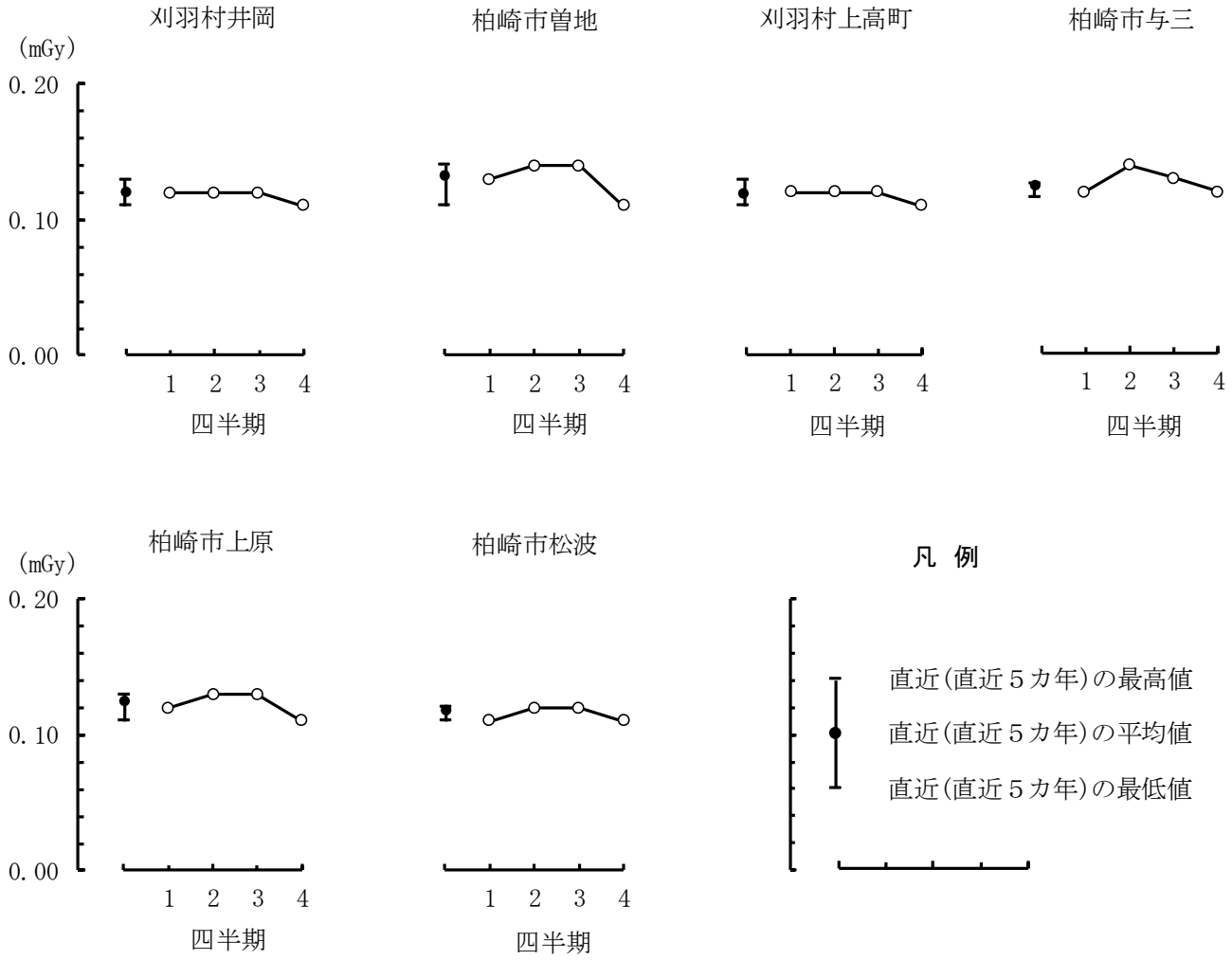
（注）１　四半期積算線量は、実測値の91日換算値であり、単位はmGy/91日である。また、年間積算線量は、小数第３位まで求めた各四半期の実測積算線量の和の365日換算値であり、単位はmGy/365日である。

２　事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計(TLD)による値である。

図４　積算線量の推移

（測定期間：令和７年４月～令和８年３月）




刈羽村井岡
柏崎市曽地
刈羽村上高町
柏崎市与三
(mGy)
0.20
0.10
0.00
1 2 3 4
四半期
柏崎市上原
柏崎市松波
凡 例
直近(直近５カ年)の最高値
直近(直近５カ年)の平均値
直近(直近５カ年)の最低値

２　環境試料中の放射能

(1) 浮遊じんの全ベータ放射能

ＭＰ－１、ＭＰ－５及びＭＰ－８において大気中の浮遊じんをろ紙に６時間集じんし、集じん終了直後及び５時間後にZnS(Ag)+プラスチックシンチレーション検出器により測定を行った。これらの測定結果は、表７のとおりであり、月間平均値及び月間変動幅を図５に示す。

各測定地点の集じん終了直後の年間平均値は1.0～1.1 Bq/㎥、年間最高値は3.8～4.0 Bq/㎥であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

また、集じん終了５時間後の年間平均値は0.027～0.029 Bq/㎥、年間最高値は0.20～0.23 Bq/㎥であり、全ての地点において対照期間の測定値の範囲内であった。

表７　浮遊じんの全ベータ放射能測定結果

ア　６時間集じんの測定結果

（ア）集じん終了直後の測定結果

（単位：Bq/㎥）

測定地点	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）
	集じん回数（回）	平均空気吸引量（㎥/回）	平均値	測定値の範囲	＜直近＞ 直近５カ年（R2～R6年度）
ＭＰ－１	1,412	72.1	1.1	0.094 ～ 3.8	0.023 ～ 4.4
ＭＰ－５	1,416	72.1	1.0	0.092 ～ 4.0	0.041 ～ 4.0
ＭＰ－８	1,409	73.9	1.1	0.094 ～ 4.0	0.030 ～ 4.4
全地点	4,237	72.7	1.1	0.092 ～ 4.0	0.023 ～ 4.4

（注）１　放射能濃度の有効数字は２桁である。

（イ）集じん終了５時間後の測定結果

（単位：Bq/㎥）

測定地点	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）
	集じん回数（回）	平均空気吸引量（㎥/回）	平均値	測定値の範囲	＜直近＞ 直近５カ年（R2～R6年度）
ＭＰ－１	1,412	72.1	0.027	＊ ～ 0.20	＊ ～ 0.24
ＭＰ－５	1,416	72.1	0.029	＊ ～ 0.23	＊ ～ 0.24
ＭＰ－８	1,409	73.9	0.027	＊ ～ 0.22	＊ ～ 0.23
全地点	4,237	72.7	0.028	＊ ～ 0.23	＊ ～ 0.24

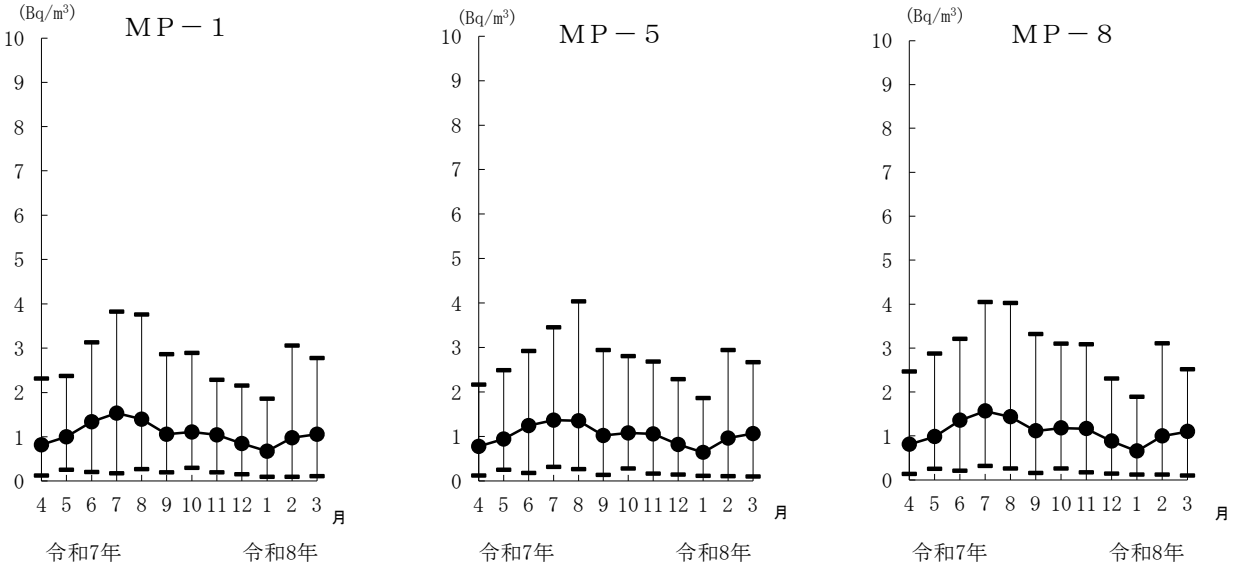
（注）１　＊は検出下限値未満を示す。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

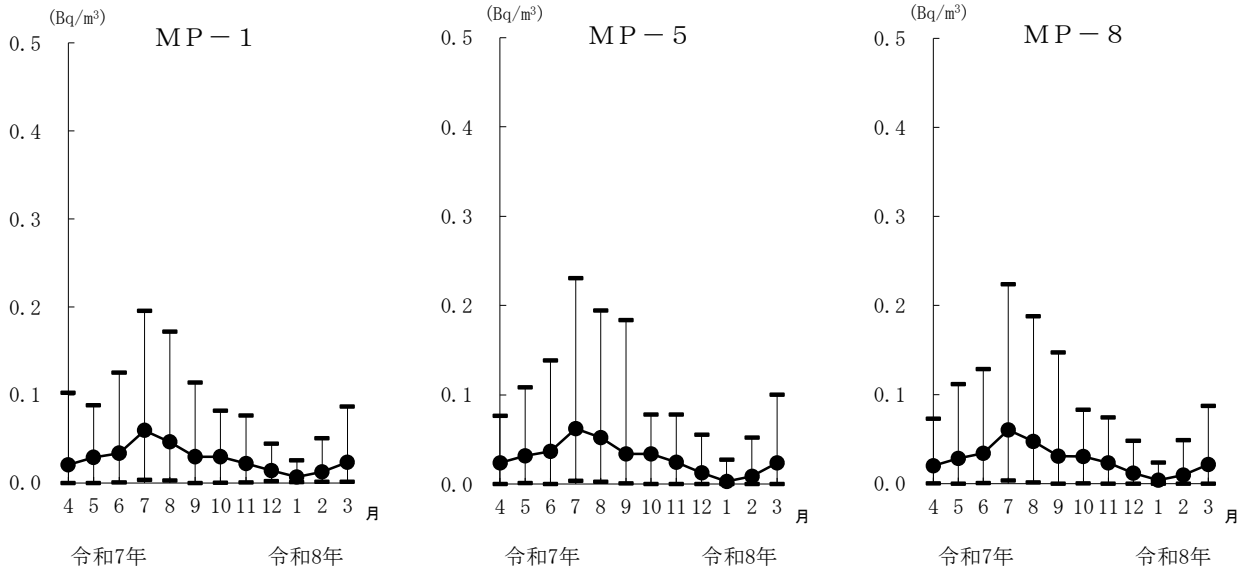
図５　浮遊じん全ベータ放射能濃度の月間平均値及び月間変動幅

ア　６時間集じんの放射能濃度

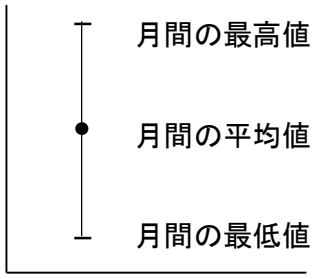
（ア）集じん終了直後の放射能濃度



（イ）集じん終了５時間後の放射能濃度



凡　例



(2) 核種分析（機器分析）

採取した全試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いたγ線スペクトロメータにより測定を行った。

これらの測定結果は、表８(1)のとおりであり、土壌(陸土)、農産物(米(精米))、指標生物(松葉)、海産物(マダイ、ヒラメ)及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から従来より検出されているセシウム 137 が検出された。

セシウム 137 の最高値は、土壌(陸土) 2.4 Bq/kg 乾、農産物(米(精米)) 0.013 Bq/kg 生、指標生物(松葉) 0.051 Bq/kg 生、海産物(マダイ) 0.093 Bq/kg 生、海産物(ヒラメ) 0.10 Bq/kg 生、指標生物(ホンダワラ類) 0.083 Bq/kg 生であり、いずれも対照期間の測定値の範囲内であった。

(3) 核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）

陸水(飲料水)、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、キャベツ、大根(根部))、海水、海産物(マダイ、サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)について、ストロンチウム 90 の測定を行った。

これらの結果は、表８(2)のとおりであり、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ、大根(根部))、海水及び指標生物(ホンダワラ類)の各試料から同核種が検出され、その最高値は、陸水(飲料水) 0.0015 Bq/L、農産物(キャベツ) 0.055 Bq/kg生、農産物(大根(根部)) 0.017 Bq/kg生、海水 0.0011 Bq/L、指標生物(ホンダワラ類) 0.043 Bq/kg生であり、農産物(キャベツ、大根(根部))については対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

いずれも、検出されたストロンチウム90は、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等に由来するものと考えられた。(p74事象報告２及びp76事象報告３参照)

なお、土壌(陸土)、農産物(米(精米)、大根(根部))、海水、海産物(サザエ)及び指標生物(ホンダワラ類)については平成 21 年度より、陸水(飲料水)、農産物(キャベツ)、海産物(マダイ)については令和元年度から測定を開始した。

(4) 核種分析（トリチウムの放射化学分析）

陸水(飲料水)及び海水の試料についてトリチウムの測定を行った。

これらの結果は、表８(3)のとおりであり、陸水(飲料水)及び海水から同核種が検出され、その最高値は陸水(飲料水) 0.55 Bq/L、海水 0.41 Bq/L であり、陸水(飲料水)については対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

表８(1)　環境試料の核種分析結果（機器分析）

試料名		試料数	単位	令和７年度の測定結果(測定値の範囲)	対照期間の測定結果(当該核種の測定値の範囲)	
					＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S59.12まで)
浮遊じん(月間)		36	Bq/m^3	Cs-137 ＊	＊	＊ ～ 0.00011 57年4月～
陸水	飲料水	8	Bq/L	Cs-137 ＊	＊	＊ 56年6月～
土壌	陸土	4	Bq/kg乾	Cs-137 1.2 ～ 2.4	＊ ～ 2.6	0.85 ～ 29 56年6月～
農産物	米(精米)	2	Bq/kg生	Cs-137 ＊ ～ 0.013	＊ ～ 0.013	0.041 ～ 0.15 56年10月～
	キャベツ	2		Cs-137 ＊	＊ ～ 0.057	0.022 ～ 0.12 59年11月～
	大根(根部)	2		Cs-137 ＊	＊ ～ 0.030	＊ ～ 0.26 56年10月～
指標生物	松葉	8	Bq/kg生	Cs-137 ＊ ～ 0.051	＊ ～ 0.18	0.18 ～ 6.7 56年6月～
海水		8	Bq/L	Cs-137 ＊	＊ ～ 0.0032	0.0037 56年6月～
海底土		4	Bq/kg乾	Cs-137 ＊	＊	＊ 56年6月～
海産物	マダイ	1	Bq/kg生	Cs-137 0.093	0.097 ～ 0.12	0.21 ～ 0.24 56年10月～
	ヒラメ	1		Cs-137 0.10	0.12 ～ 0.16	0.24 ～ 0.28 58年8月～
	サザエ	1		Cs-137 ＊	＊	0.093 59年9月～
	ワカメ	2		Cs-137 ＊	＊	0.078 59年6月～
指標生物	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類	8	Bq/kg生	Cs-137 ＊ ～ 0.083	＊ ～ 0.15	＊ ～ 0.16 56年6月～

（注）１　人工放射性核種が検出されない試料についてはCs-137の放射能濃度を記した。
２　＊は検出下限値未満を示す。
３　放射能濃度の有効数字は２桁である。

表８(2)　環境試料の核種分析結果（ストロンチウム90の放射化学分析）

試料名		試料数	単位	令和７年度の測定結果（測定値の範囲）	対照期間の測定結果（当該核種の測定値の範囲）	
					＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S59.12 まで)
陸水	飲料水	1	Bq/L	0.0015	0.00096 ～ 0.0017	
土壌	陸土	1	Bq/kg乾	＊	＊ ～ 0.28	
農産物	米（精米）	1	Bq/kg生	＊	＊ ～ 0.023	
	キャベツ	1		0.055	＊ ～ 0.025	
	大根（根部）	1		0.017	＊	
海水		1	Bq/L	0.0011	0.00093 ～ 0.0014	
海産物	マダイ	1	Bq/kg生	＊	＊ ～ 0.032	
	サザエ	1		＊	＊	
指標生物	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類	1	Bq/kg生	0.043	0.032 ～ 0.057	

（注）１　＊は検出下限値未満を示す。
２　放射能濃度の有効数字は２桁である。
３　土壌（陸土）、農産物（米(精米)）、大根(根部))、海水、海産物（サザエ）及び指標生物（ホンダワラ類）については平成 21 年度より、陸水（飲料水）、農産物（キャベツ)及び海産物（マダイ）については令和元年度より測定を開始した。

表８(3) 環境試料の核種分析結果（トリチウムの放射化学分析）

試料名		試料数	単位	令和７年度の測定結果（測定値の範囲）	対照期間の測定結果（当該核種の測定値の範囲）	
					＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S59.12 まで)
陸水	飲料水	8	Bq/L	＊ ～ 0.55 注3	＊ ～ 0.45	1.6 ～ 4.4 58 年 5 月～
海水		8	Bq/L	＊ ～ 0.41	＊ ～ 0.45	1.4 ～ 2.9 58 年 5 月～

（注）１　＊は検出下限値未満を示す。
２　放射能濃度の有効数字は２桁である。
３　計数誤差を併記した陸水（飲料水）の H-3 濃度：0.55±0.14 Bq/L

V 参　　考

海水放射能モニタによる測定

(1) 測定結果

海水放射能モニタの測定値は、降水等に含まれる天然放射性核種の影響を受けて上昇するが、その影響は各放水口に流れ込む降水量と放流される冷却水量との比率により異なる。冷却水量は各号機の運転状況により変動するため、各号機で検出されるレベルが異なる。

（単位：cpm）

調査地点		令和７年度の測定結果		
		測定時間（時間）	平　均　値	測定値の範囲（10 分値）
放水口（南）	１号機放水口	8,670	455	375　～　4,849
	２号機放水口	8,670	451	375　～　4,885
	３号機放水口	8,672	428	349　～　4,925
	４号機放水口	8,672	457	378　～　4,588
放水口（北）	５号機放水口	8,682	463	383　～　4,871
	６号機放水口	8,682	420	352　～　2,559
	７号機放水口	8,682	428	357　～　2,324

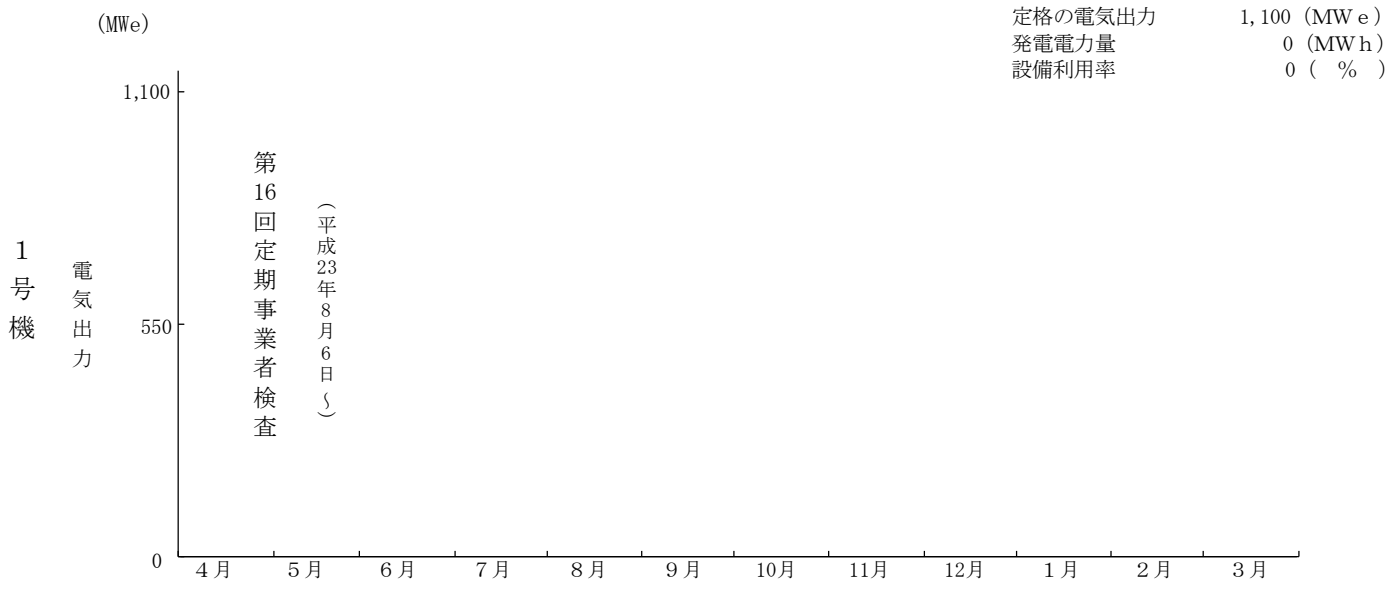
(2)　調査地点及び測定装置

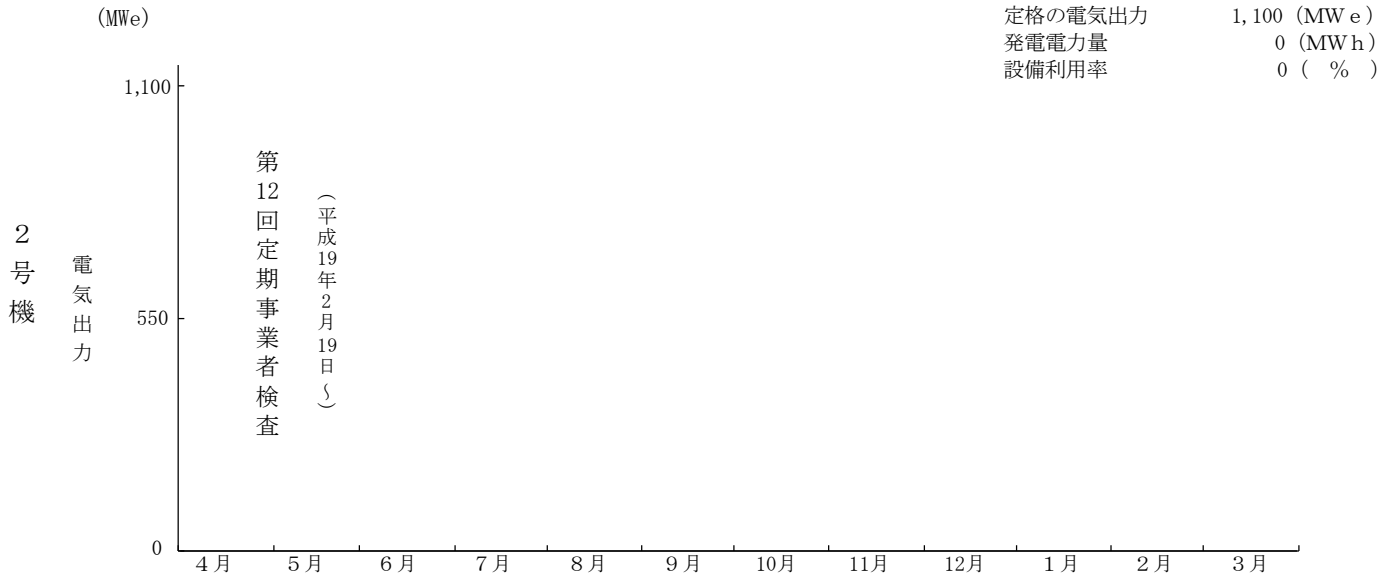
調 査 項 目	調 査 地 点	測　　定　　装　　置	頻 度
海　　水	放水口（南）（１～４号機） 放水口（北）（５～７号機）	３″ φ×３″ NaI(Tl) シンチレーション検出器	連 続

（補足）

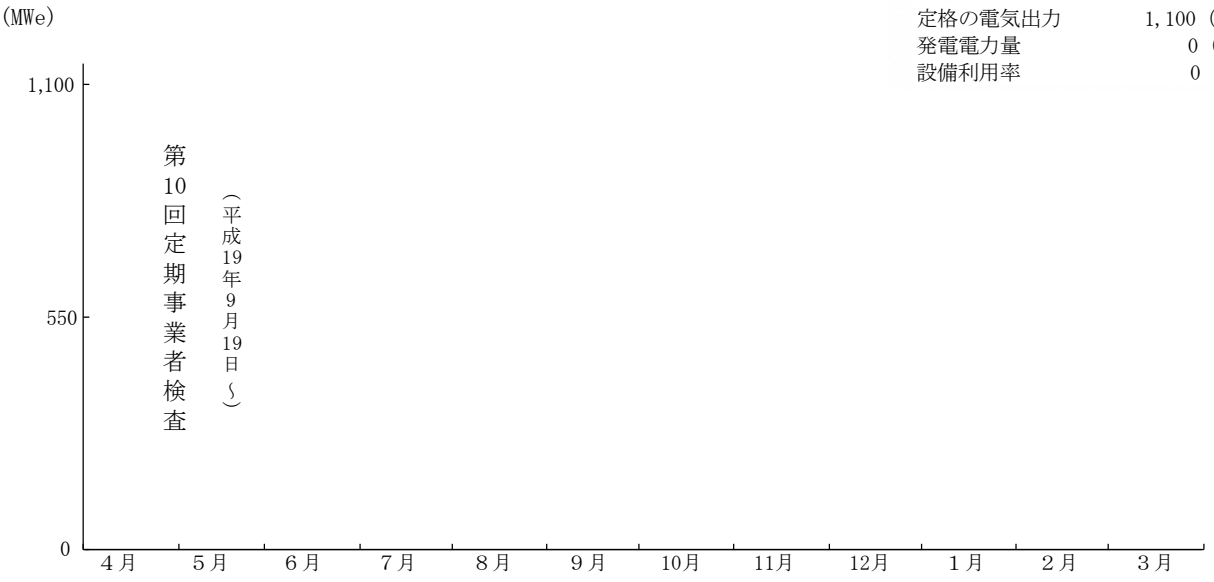
海水放射能モニタの単位「ｃｐｍ」とは、海水放射能モニタが１分間に検出した放射線の数（カウント毎分）のことを言う。

図1　柏崎刈羽原子力発電所の運転保守状況（令和7年度）



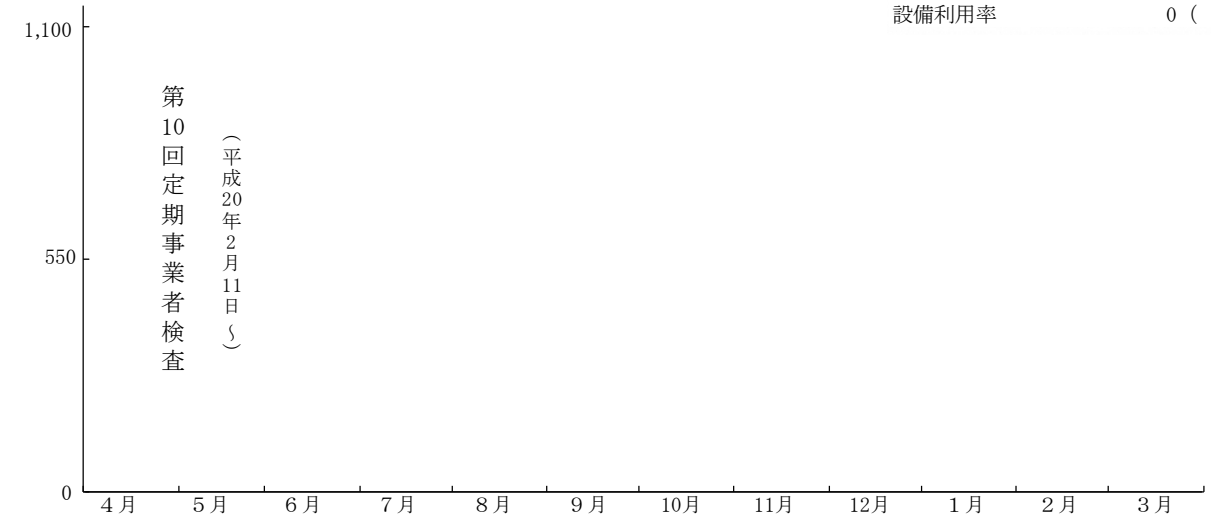


3号機 電気出力



定格の電気出力	1,100（MWｅ）
発電電力量	0（MWｈ）
設備利用率	0（　％　）

4号機 電気出力

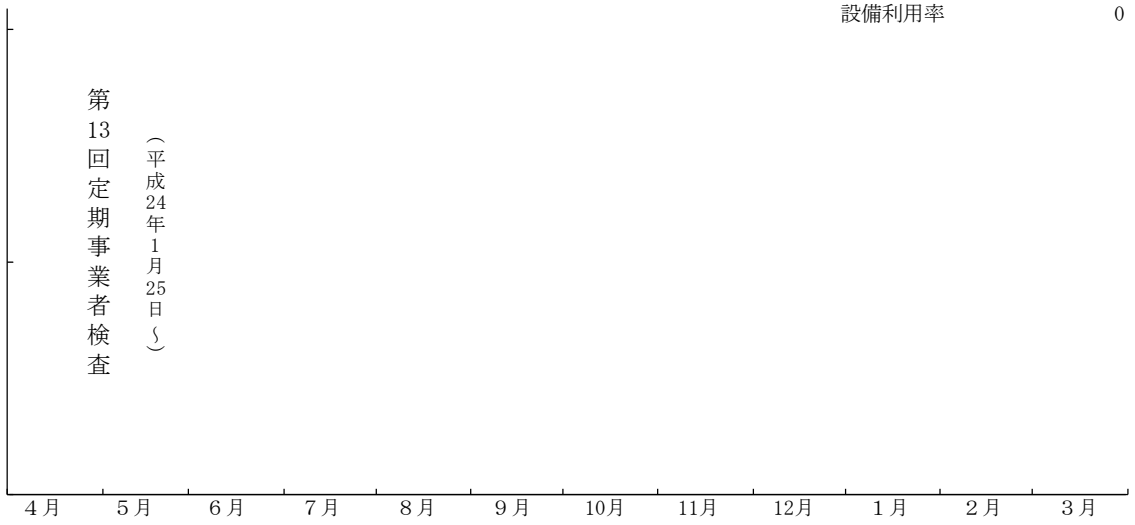


定格の電気出力	1,100（MWｅ）
発電電力量	0（MWｈ）
設備利用率	0（　％　）

5号機 電気出力

(MWe)

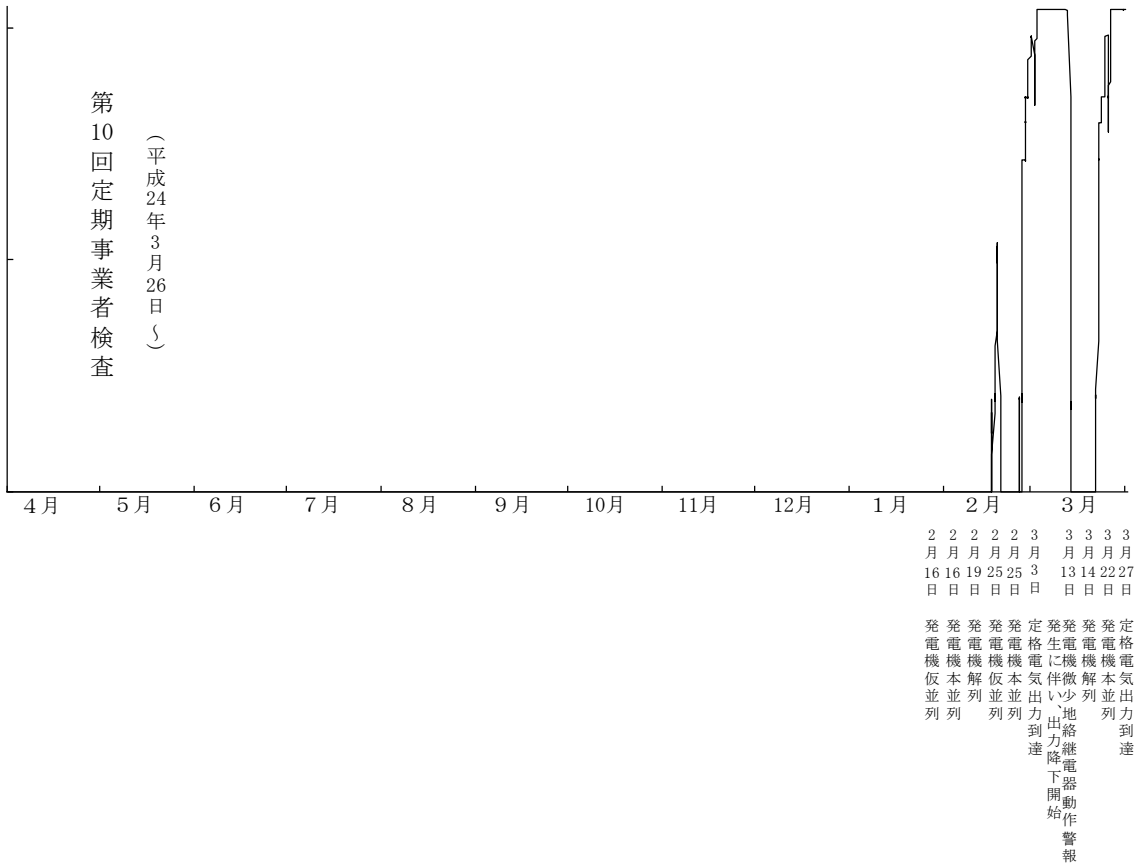
定格の電気出力　1,100（MWｅ）
発電電力量　0（MWｈ）
設備利用率　0（　％　）



6号機 電気出力

(MWe)

定格の電気出力　1,356（MWｅ）
発電電力量　813,790（MWｈ）
設備利用率　6.9（　％　）



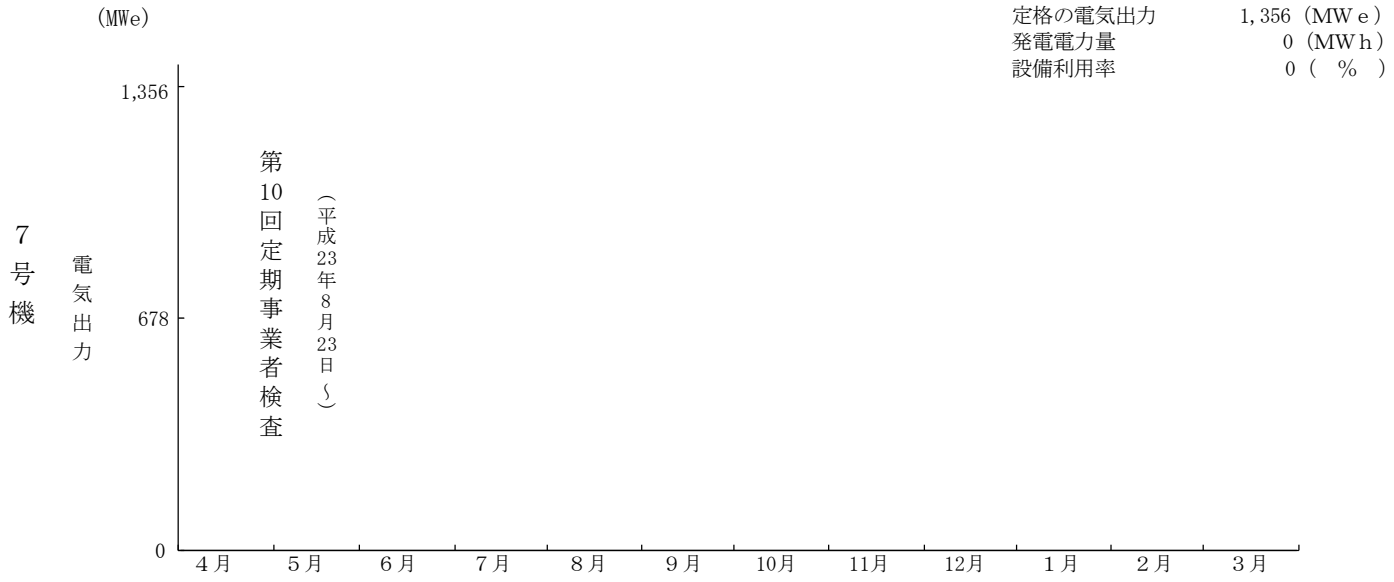

(MWe)
定格の電気出力　1,356（MWｅ）
発電電力量　0（MWｈ）
設備利用率　0（　%　）
7号機
電気出力
1,356
678
0
第10回定期事業者検査
（平成23年8月23日～）
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

表１　放射性物質の放出状況（令和７年度）

1. 放射性気体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

			全希ガス	I-131	全粒子状物質	H-3	備　考
原子炉施設合計			＊	＊	＊	5.7×10^{10}	放射性気体廃棄物の放出放射能（Bq）は、排気中の放射性物質の濃度（Bq/cm³）に排気量（cm³）を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出下限値未満の場合は＊と表示した。 検出下限値は以下のとおり。 全希ガス：2×10^{-2}（Bq/cm³）以下 I-131：7×10^{-9}（Bq/cm³）以下 全粒子状物質：4×10^{-9}（Bq/cm³）以下 （Co-60 で代表した） H-3：4×10^{-5}（Bq/cm³）以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排気筒別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排気筒別内訳	1 号機排気筒		＊	＊	＊	1.3×10^{10}	
	2 号機排気筒		＊	＊	＊	1.6×10^{9}	
	3 号機排気筒		＊	＊	＊	3.9×10^{9}	
	4 号機排気筒		＊	＊	＊	＊	
	5 号機排気筒		＊	＊	＊	1.6×10^{10}	
	6 号機排気筒		＊	＊	＊	1.1×10^{10}	
	7 号機排気筒		＊	＊	＊	1.1×10^{10}	
	その他排気筒	焼却炉建屋排気筒（荒浜側）	異常なし※1,3	＊	＊	＊※1	
		焼却炉建屋排気筒（大湊側）	異常なし※2,3	＊	＊	1.2×10^{6}	
		固体廃棄物処理建屋排気口	※4	※5	＊	※5	
年間放出管理目標値			6.7×10^{15}	2.3×10^{11}	―	―	

※1 試料採取装置の取替工事期間(令和７年 10 月 29 日～令和８年４月 17 日)は全希ガス及び H-3 が欠測している。また取替工事期間中は焼却停止。
※2 試料採取装置の修理作業期間(令和８年２月 21 日～令和８年５月 13 日)は全希ガスが欠測している。また修理作業期間中については焼却停止。
※3 通常レベルから変動していないことを確認して「異常なし」としている。
※4 全希ガスは廃棄物中に含まれないため管理対象外としている。
※5 I-131 及び H-3 の発生量は無視できる程度と評価できることから管理対象外としている。

2. 放射性液体廃棄物の放出量

（単位：Bq）

		全核種（H-3 を除く）	核種別					
			Cr-51	Mn-54	Fe-59	Co-58	Co-60	I-131
原子炉施設合計		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
排水口別内訳	1 号機排水口	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
	2 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	3 号機排水口	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
	4 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
	5 号機排水口	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
	6 号機排水口	＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊
	7 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし
年間放出管理目標値		2.5×10^{11}	―					

（続き）

		核種別			H-3	備　考
		Cs-134	Cs-137	その他		
原子炉施設合計		＊	＊	＊	2.7×10^{10}	放射性液体廃棄物の放出放射能（Bq）は、排水中の放射性物質の濃度（Bq/cm³）に排水量（cm³）を乗じて求めている。 なお、放出放射能濃度が検出下限値未満の場合は＊と表示した。 検出下限値は以下のとおり。 放射性液体廃棄物（H-3 を除く）：2×10^{-2}（Bq/cm³）以下 （Co-60 で代表した） H-3：2×10^{-1}（Bq/cm³）以下 また、原子炉施設合計値は、端数処理のため、排水口別内訳の合計値と一致しない場合がある。
排水口別内訳	1 号機排水口	＊	＊	＊	＊	
	2 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	3 号機排水口	＊	＊	＊	＊	
	4 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
	5 号機排水口	＊	＊	＊	1.6×10^{10}	
	6 号機排水口	＊	＊	＊	1.0×10^{10}	
	7 号機排水口	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	放出実績なし	
年間放出管理目標値		―			―※	

※　設置許可申請書において、周辺公衆の線量評価上 2.5×10^{15}Bq を用いている。

表２　放射性物質の放出による推定実効線量

（単位：mSv/年）

	実　効　線　量
気体状放射性物質	－
液体状放射性物質	０．００００
合　　計	０．００００

（注）　放射性物質の放出による推定実効線量は、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」により算出した。なお、気体状放射性物質の実効線量については、指針で対象となっている全希ガス及びヨウ素(I-131 及び I-133)の値から算出されるが、全て検出下限値未満であるため「－」とした。

＜参考＞

令和７年度において、柏崎刈羽原子力発電所は１から５及び７号機停止中、６号機は令和８年２月 16 日に発電を開始しており、放射性気体廃棄物の放出量のうち、検出された放射性物質はトリチウム(H-3)のみであった。

指針では、放射性気体廃棄物のトリチウムは実効線量の評価の対象となっていないが、それによる実効線量を評価したところ、0.0000 mSv/年であった。

表３　風向、風速、大気安定度月別記録

測定項目／測定月	標高 160m			標高 85m			大気安定度（最多）
	風向（最多）	風速（m/s）		風向（最多）	風速（m/s）		
		最高値	平均値		最高値	平均値	
令７年 ４月	ＷＳＷ	24.8	5.8	ＷＳＷ	25.2	5.1	Ｄ
５月	ＳＥ	23.2	4.5	ＳＥ	19.3	3.7	Ｄ
６月	ＷＳＷ	15.2	3.3	ＳＥ	20.1	2.7	Ｄ
７月	ＮＷ	10.5	2.9	ＳＥ	6.6	2.3	Ｂ
８月	ＷＳＷ	20.0	3.6	ＷＳＷ	18.5	3.0	Ｄ
９月	ＳＥ	15.4	4.0	ＥＳＥ	16.4	3.6	Ｄ
10 月	ＥＳＥ	15.1	4.7	ＳＥ	15.1	4.2	Ｄ
11 月	ＳＳＥ	19.8	5.8	ＳＥ	18.0	5.7	Ｄ
12 月	ＳＳＥ	29.6	7.6	ＳＥ	29.5	7.3	Ｄ
令和８年 １月	ＷＮＷ	24.2	9.9	ＷＮＷ	23.7	9.6	Ｄ
２月	ＳＳＥ	21.1	5.6	ＳＥ	19.0	5.3	Ｄ
３月	Ｗ	18.9	4.8	Ｗ	17.5	4.6	Ｄ

（注）１　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

２　大気安定度は、風速（標高 20m）、日射量及び放射収支量から分類した。

表４　気温、降雨雪量、最大積雪深月別記録

測定項目 / 測定月	気温（℃）			降雨雪量（mm）（積算値）	最大積雪深（cm）
	最高値	最低値	平均値		
令和７年　４月	25.0	-1.5	10.6	74.5	0
５月	28.5	3.3	15.6	69.0	0
６月	31.7	11.5	20.8	103.0	0
７月	36.6	20.1	26.7	7.5	0
８月	33.3	20.2	26.6	212.0	0
９月	32.9	15.1	23.6	229.5	0
10 月	26.7	4.4	16.2	286.0	0
11 月	19.5	0.0	10.4	199.0	0
12 月	20.1	-0.6	6.3	252.5	7
令和８年　１月	13.3	-3.3	2.7	388.0	61
２月	18.5	-3.5	4.1	104.0	59
３月	17.6	-1.9	6.0	42.5	0

（注）　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

表５　気象要素の観測時間

（観測期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

（単位：時間）

気象要素 / 標高	風向	風速	大気安定度
１６０m	８，１７２	８，２８７	８，５６９
８５m	８，４０５	８，４１７	

（注）１　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

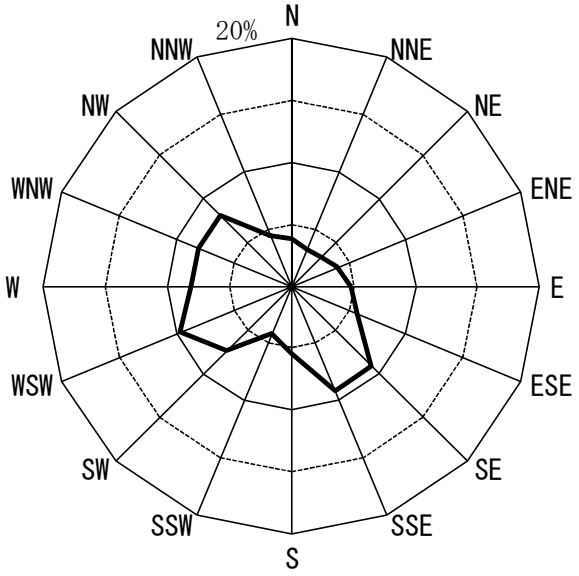
２　大気安定度は、標高 20mにおける観測時間である。

図２　風配図

（観測期間：令和７年４月１日～令和８年３月 31 日）

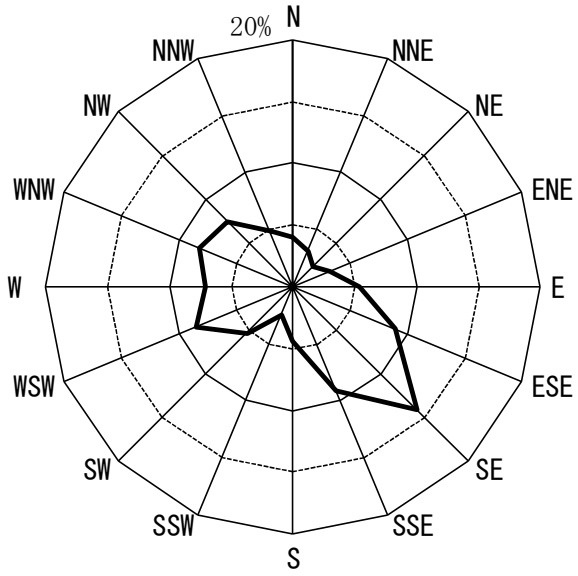
標　高　160m

静穏　1.9%



標　高　85m

静穏　2.4%



（注）１　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

２　静穏とは、0.5m/s 未満の風速のときである。

添　付　資　料

付表１　空間放射線量率の月別測定結果

（単位：nGy/h）

測定地点	年　月	平均値	最高値	最低値	平均値＋３σ	平均値＋３σを超えた回数	
						降雨雪	その他
ＭＰ－１	7．4	38	64（ 66）	35（ 35）	47	17	1
	5	38	66（ 67）	35（ 35）	47	18	0
	6	39	57（ 59）	35（ 35）	48	16	1
	7	41	53（ 54）	38（ 37）	47	1	0
	8	42	90（ 99）	37（ 36）	60	14	0
	9	39	67（ 69）	36（ 35）	51	25	0
	10	40	83（ 84）	36（ 35）	58	16	0
	11	40	83（ 87）	35（ 35）	64	25	1
	12	42	80（ 83）	36（ 35）	66	19	0
	8．1	39	97（ 99）	18（ 17）	75	8	0
	2	32	72（ 79）	14（ 14）	56	5	0
	3	39	71（ 73）	35（ 35）	51	21	0
ＭＰ－２	7．4	32	58（ 61）	29（ 29）	41	22	1
	5	32	63（ 64）	29（ 29）	41	21	0
	6	32	51（ 55）	29（ 28）	41	20	1
	7	33	48（ 49）	31（ 30）	36	10	1
	8	34	86（ 95）	30（ 30）	52	18	1
	9	32	60（ 63）	29（ 29）	44	25	0
	10	33	75（ 76）	29（ 28）	51	19	0
	11	33	80（ 86）	28（ 27）	57	26	1
	12	34	69（ 73）	27（ 26）	55	27	0
	8．1	30	74（ 80）	15（ 14）	60	7	0
	2	19	60（ 72）	11（ 11）	37	8	0
	3	31	65（ 70）	28（ 27）	43	21	0
ＭＰ－３	7．4	34	60（ 62）	31（ 31）	43	23	1
	5	34	68（ 69）	32（ 31）	43	20	0
	6	35	54（ 57）	32（ 31）	44	18	1
	7	35	49（ 50）	33（ 33）	38	10	1
	8	37	85（ 96）	33（ 32）	55	15	0
	9	35	65（ 69）	32（ 32）	47	27	1
	10	36	79（ 81）	32（ 32）	54	18	0
	11	37	88（ 95）	31（ 31）	61	25	1
	12	38	72（ 77）	29（ 29）	62	16	0
	8．1	33	86（ 90）	15（ 14）	69	9	0
	2	22	70（ 76）	11（ 11）	43	6	0
	3	35	68（ 74）	31（ 31）	47	20	0

（注）１　σは、標準偏差を示す。

２　（ ）内の数値は10分値である。

３　平均値＋３σを超えた回数のうち、ＭＰ－１、２、３の令和７年４月、６月、11月のその他１回、ＭＰ－２、３の７月のその他１回、ＭＰ－２の８月のその他１回、ＭＰ－３の９月のその他１回については、直前の降水によるものである。

（単位：nGy/h）

測定地点	年　月	平均値	最高値	最低値	平均値＋３σ	平均値＋３σを超えた回数	
						降雨雪	その他
ＭＰ－４	7．4	35	58（ 60）	33（ 32）	44	14	1
	5	35	66（ 67）	33（ 32）	44	20	0
	6	36	54（ 56）	33（ 32）	45	18	1
	7	36	49（ 50）	34（ 34）	39	10	1
	8	38	82（ 95）	34（ 33）	53	20	0
	9	36	64（ 67）	34（ 33）	48	20	0
	10	37	76（ 76）	33（ 32）	55	16	0
	11	38	81（ 84）	31（ 31）	59	22	1
	12	38	75（ 81）	30（ 30）	59	15	0
	8．1	31	79（ 85）	16（ 15）	61	9	0
	2	18	63（ 74）	11（ 10）	36	12	0
	3	34	70（ 78）	26（ 26）	49	15	0
ＭＰ－５	7．4	38	62（ 64）	36（ 35）	47	13	1
	5	38	71（ 72）	36（ 35）	47	20	0
	6	38	58（ 60）	36（ 35）	47	19	1
	7	39	52（ 53）	37（ 36）	42	9	0
	8	40	88（105）	36（ 36）	58	14	0
	9	39	67（ 71）	36（ 36）	51	17	0
	10	40	80（ 81）	36（ 35）	58	18	0
	11	40	86（ 89）	35（ 34）	64	24	1
	12	41	84（ 91）	33（ 32）	62	20	0
	8．1	35	86（ 91）	17（ 17）	68	6	0
	2	21	70（ 79）	13（ 13）	39	9	0
	3	38	75（ 83）	30（ 30）	53	12	0
ＭＰ－６	7．4	36	61（ 63）	33（ 33）	45	17	1
	5	36	69（ 71）	33（ 33）	45	17	0
	6	36	56（ 59）	33（ 33）	45	19	1
	7	37	50（ 51）	35（ 34）	40	9	0
	8	38	75（ 87）	34（ 33）	56	15	0
	9	36	66（ 68）	33（ 33）	48	24	0
	10	37	78（ 80）	33（ 32）	55	19	0
	11	37	83（ 87）	31（ 31）	61	24	1
	12	38	80（ 86）	30（ 30）	59	21	0
	8．1	33	85（ 91）	14（ 14）	69	6	0
	2	22	74（107）	11（ 11）	43	5	0
	3	35	71（ 78）	32（ 31）	47	22	0

（注）１　σは、標準偏差を示す。

２　（ ）内の数値は10分値である。

３　平均値＋３σを超えた回数のうち、ＭＰ－４、５、６の令和７年４月、６月、11月のその他１回、ＭＰ－４の７月のその他１回については、直前の降水によるものである。

（単位：nGy/h）

測定地点	年　月	平均値	最高値	最低値	平均値＋３σ	平均値＋３σを超えた回数	
						降雨雪	その他
ＭＰ－７	7．4	34	57（ 60）	31（ 30）	43	13	1
	5	33	64（ 65）	31（ 31）	42	18	0
	6	34	54（ 56）	31（ 31）	43	18	1
	7	35	48（ 49）	33（ 33）	38	9	0
	8	36	72（ 74）	33（ 32）	51	22	1
	9	35	63（ 65）	32（ 31）	47	19	0
	10	36	78（ 81）	32（ 31）	54	16	0
	11	36	84（ 92）	31（ 30）	60	24	1
	12	37	73（ 79）	29（ 29）	58	15	0
	8．1	31	77（ 81）	14（ 13）	64	5	0
	2	21	74（ 97）	11（ 11）	42	5	0
	3	34	67（ 73）	31（ 30）	46	22	0
ＭＰ－８	7．4	34	57（ 59）	31（ 31）	43	12	1
	5	34	62（ 64）	31（ 31）	43	15	0
	6	34	53（ 55）	31（ 31）	43	18	1
	7	35	47（ 48）	32（ 32）	38	7	0
	8	36	71（ 72）	32（ 32）	51	19	0
	9	35	61（ 63）	32（ 31）	47	17	0
	10	35	86（ 92）	31（ 31）	53	17	0
	11	35	76（ 87）	31（ 30）	56	20	1
	12	36	71（ 76）	30（ 30）	57	16	0
	8．1	33	82（ 87）	15（ 15）	66	7	0
	2	23	65（ 76）	12（ 12）	44	6	0
	3	34	62（ 67）	30（ 30）	46	17	0
ＭＰ－９	7．4	32	58（ 60）	29（ 29）	41	17	1
	5	32	60（ 61）	29（ 28）	41	16	0
	6	32	53（ 55）	29（ 29）	41	18	1
	7	33	46（ 47）	30（ 30）	36	9	0
	8	34	70（ 76）	30（ 29）	52	19	0
	9	32	61（ 65）	29（ 29）	44	23	0
	10	33	94（102）	29（ 29）	51	16	0
	11	34	78（ 92）	29（ 29）	58	24	1
	12	35	73（ 79）	29（ 28）	59	7	0
	8．1	33	96（ 99）	15（ 15）	66	8	0
	2	24	73（ 80）	12（ 11）	45	5	0
	3	32	62（ 67）	29（ 28）	44	23	0

（注）１　σは、標準偏差を示す。

２　（ ）内の数値は10分値である。

３　平均値＋３σを超えた回数のうち、ＭＰ－７、８、９の令和７年４月、６月、11月のその他１回、ＭＰ－７の８月のその他１回については、直前の降水によるものである。

付表２　空間放射線量率の四半期別測定結果

（単位：nGy/h）

測定地点	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）				
					＜ 直 近 ＞				＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
	測定期間	平均値	測定値の範囲		＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期 (R2～R6年度)		直近５カ年 (R2～R6年度)		
			１時間値	10分値	１時間値	10分値	１時間値	10分値	
ＭＰ－１	第１四半期	38	35～ 66	35～ 67	34～ 75	33～ 82	15～111	15～118	16～141
	第２四半期	41	36～ 90	35～ 99	34～ 79	33～ 85			
	第３四半期	40	35～ 83	35～ 87	22～102	22～107			
	第４四半期	37	14～ 97	14～ 99	15～111	15～118			
ＭＰ－２	第１四半期	32	29～ 63	28～ 64	28～ 74	28～ 82	10～100	10～111	6～130
	第２四半期	33	29～ 86	29～ 95	28～ 78	28～ 84			
	第３四半期	33	27～ 80	26～ 86	17～ 99	17～111			
	第４四半期	27	11～ 74	11～ 80	10～100	10～108			
ＭＰ－３	第１四半期	34	31～ 68	31～ 69	32～ 76	31～ 84	10～105	10～116	5～147
	第２四半期	36	32～ 85	32～ 96	32～ 84	31～ 90			
	第３四半期	37	29～ 88	29～ 95	17～105	17～110			
	第４四半期	30	11～ 86	11～ 90	10～104	10～116			
ＭＰ－４	第１四半期	35	33～ 66	32～ 67	32～ 70	31～ 75	10～103	9～108	5～146
	第２四半期	37	34～ 82	33～ 95	32～ 83	31～ 89			
	第３四半期	38	30～ 81	30～ 84	17～103	17～108			
	第４四半期	28	11～ 79	10～ 85	10～103	9～108			
ＭＰ－５	第１四半期	38	36～ 71	35～ 72	35～ 74	34～ 78	11～114	11～123	5～160
	第２四半期	39	36～ 88	36～105	35～ 88	34～ 95			
	第３四半期	40	33～ 86	32～ 91	20～106	19～113			
	第４四半期	31	13～ 86	13～ 91	11～114	11～123			
ＭＰ－６	第１四半期	36	33～ 69	33～ 71	33～ 74	32～ 80	10～119	10～133	5～174
	第２四半期	37	33～ 75	33～ 87	33～ 90	32～ 98			
	第３四半期	37	30～ 83	30～ 87	17～117	16～128			
	第４四半期	30	11～ 85	11～107	10～119	10～133			
ＭＰ－７	第１四半期	34	31～ 64	30～ 65	30～ 73	30～ 79	10～118	10～133	5～151
	第２四半期	35	32～ 72	31～ 74	31～ 86	30～ 93			
	第３四半期	36	29～ 84	29～ 92	16～110	16～121			
	第４四半期	29	11～ 77	11～ 97	10～118	10～133			

（単位：nGy/h）

測定地点	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）				
					＜ 直 近 ＞				＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
	測定期間	平均値	測定値の範囲		＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期 (R2～R6年度)		直近５カ年 (R2～R6年度)		
			１時間値	10分値	１時間値	10分値	１時間値	10分値	
ＭＰ－８	第１四半期	34	31～ 62	31～ 64	30～ 70	29～ 76	11～115	11～129	5～143
	第２四半期	35	32～ 71	31～ 72	30～ 82	29～ 88			
	第３四半期	36	30～ 86	30～ 92	18～102	18～112			
	第４四半期	30	12～ 82	12～ 87	11～115	11～129			
ＭＰ－９	第１四半期	32	29～ 60	28～ 61	29～ 70	28～ 77	12～122	11～135	7～140
	第２四半期	33	29～ 70	29～ 76	28～ 85	28～ 92			
	第３四半期	34	29～ 94	28～102	18～ 99	17～105			
	第４四半期	30	12～ 96	11～ 99	12～122	11～135			

（注） 平均値及び事前調査期間の測定結果は、１時間値である。

第２四半期の事象報告は p81 参考資料１参照

付表３　積算線量の測定結果

No.	測定地点	３か月積算線量（mGy/91日）				年間積算線量（mGy/365日）
		第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	
1	ＭＰ－１	0.12（0.12）	0.13（0.13）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.49（0.49）
2	ＭＰ－２	0.11（0.11）	0.11（0.11）	0.12（0.12）	0.10（0.10）	0.45（0.45）
3	ＭＰ－３	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.47（0.47）
4	ＭＰ－４	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.10（0.10）	0.46（0.46）
5	ＭＰ－５	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.13（0.13）	0.11（0.11）	0.48（0.48）
6	ＭＰ－６	0.11（0.11）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.46（0.46）
7	ＭＰ－７	0.11（0.11）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.45（0.45）
8	ＭＰ－８	0.11（0.11）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.46（0.46）
9	ＭＰ－９	0.11（0.11）	0.11（0.11）	0.11（0.11）	0.16（0.16）	0.50（0.50）
10	柏崎市　椎谷	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.52（0.52）
11	刈羽村　滝谷	0.12（0.13）	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.11（0.11）	0.50（0.50）
12	柏崎市西山町坂田	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.11（0.11）	0.51（0.51）
13	刈羽村　井岡	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.47（0.47）
14	柏崎市　曽地	0.13（0.13）	0.14（0.14）	0.14（0.14）	0.11（0.11）	0.52（0.52）
15	刈羽村　上高町	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.48（0.48）
16	柏崎市　与三	0.12（0.12）	0.14（0.14）	0.13（0.13）	0.12（0.12）	0.50（0.50）
17	柏崎市　上原	0.12（0.12）	0.13（0.13）	0.13（0.13）	0.11（0.11）	0.49（0.49）
18	柏崎市　松波	0.11（0.11）	0.12（0.12）	0.12（0.12）	0.11（0.11）	0.47（0.47）
積算開始年月日 積算終了年月日 積　算　期　間		7. 3.13 7. 6.12 91 日間	7. 6.12 7. 9.11 91 日間	7. 9.11 7.12.11 91 日間	7.12.11 8. 3.12 91 日間	7. 3.13 8. 3.12 364 日間

（注）１　３か月積算線量の（　）内の数値は、実測値であり、３か月積算線量は、小数第３位まで求めた実測値の 91 日換算値である。

２　年間積算線量の（　）内の数値は、小数第３位まで求めた各四半期の実測値の和であり、年間積算線量は、その 365 日換算値である。

付表４　積算線量の四半期別測定結果

（単位：mGy/91 日）

測定地点	令和７年度の測定結果		対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
			＜ 直 近 ＞ ＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期 （R2～R6年度）	＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 （S57.4～S59.12）
ＭＰ－１	第１四半期	0.12	0.12	0.12～0.16
	第２四半期	0.13	0.12～0.13	
	第３四半期	0.12	0.12～0.13	
	第４四半期	0.12	0.12	
ＭＰ－２	第１四半期	0.11	0.11～0.12	0.09～0.17
	第２四半期	0.11	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.10	0.10～0.11	
ＭＰ－３	第１四半期	0.12	0.12	0.09～0.15
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12～0.13	
	第４四半期	0.11	0.11～0.12	
ＭＰ－４	第１四半期	0.12	0.12	0.08～0.15
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.10	0.10～0.11	
ＭＰ－５	第１四半期	0.12	0.12	0.09～0.15
	第２四半期	0.12	0.12～0.13	
	第３四半期	0.13	0.12～0.13	
	第４四半期	0.11	0.10～0.12	
ＭＰ－６	第１四半期	0.11	0.12	0.09～0.15
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.11	0.10～0.11	
ＭＰ－７	第１四半期	0.11	0.11～0.12	0.09～0.14
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.11	0.10～0.11	

（単位：mGy/91 日）

測定地点	令和７年度の測定結果		対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
			＜ 直 近 ＞ ＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期 （R2～R6年度）	＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 （S57.4～S59.12）
ＭＰ－８	第１四半期	0.11	0.11	0.10～0.14
	第２四半期	0.12	0.11～0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.12	0.10～0.12	
ＭＰ－９	第１四半期	0.11	0.11	0.10～0.14
	第２四半期	0.11	0.11	
	第３四半期	0.11	0.11～0.12	
	第４四半期	0.16	0.10～0.13	
柏崎市　椎谷	第１四半期	0.13	0.13	0.14～0.17
	第２四半期	0.13	0.13～0.14	
	第３四半期	0.13	0.13～0.14	
	第４四半期	0.13	0.13	
刈羽村　滝谷	第１四半期	0.12	0.12～0.13	0.10～0.16
	第２四半期	0.13	0.13	
	第３四半期	0.13	0.13	
	第４四半期	0.11	0.11～0.13	
柏崎市西山町坂田	第１四半期	0.13	0.13	0.09～0.16
	第２四半期	0.13	0.13～0.14	
	第３四半期	0.13	0.13～0.14	
	第４四半期	0.11	0.11～0.13	
刈羽村　井岡	第１四半期	0.12	0.12	0.09～0.15
	第２四半期	0.12	0.12～0.13	
	第３四半期	0.12	0.12～0.13	
	第４四半期	0.11	0.11～0.12	
柏崎市　曽地	第１四半期	0.13	0.13～0.14	0.09～0.17
	第２四半期	0.14	0.14	
	第３四半期	0.14	0.14	
	第４四半期	0.11	0.11～0.13	

（単位：mGy/91 日）

測定地点	令和７年度の測定結果		対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
			＜ 直 近 ＞	＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
			＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期 (R2～R6年度)	
刈羽村　上高町	第１四半期	0.12	0.12	0.10～0.15
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12～0.13	
	第４四半期	0.11	0.11～0.12	
柏崎市　与三	第１四半期	0.12	0.13	0.10～0.15
	第２四半期	0.14	0.13	
	第３四半期	0.13	0.13	
	第４四半期	0.12	0.12～0.13	
柏崎市　上原	第１四半期	0.12	0.12～0.13	0.10～0.16
	第２四半期	0.13	0.13	
	第３四半期	0.13	0.13	
	第４四半期	0.11	0.11～0.12	
柏崎市　松波	第１四半期	0.11	0.12	0.10～0.15
	第２四半期	0.12	0.12	
	第３四半期	0.12	0.12	
	第４四半期	0.11	0.11～0.12	

（注）１　事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計(TLD)による値である。

２　各四半期の積算期間は以下のとおり。

第１四半期：令和７年３月 13 日～令和７年６月 12 日

第２四半期：令和７年６月 12 日～令和７年９月 11 日

第３四半期：令和７年９月 11 日～令和７年 12 月 11 日

第４四半期：令和７年 12 月 11 日～令和８年３月 12 日

第２四半期の事象報告は p85 参考資料２参照

第４四半期の事象報告は p91 参考資料４参照

付表５　浮遊じんの月別全ベータ放射能測定結果

ア　６時間集じんの測定結果

（ア）集じん終了直後の測定結果

（単位：Bq/m³）

測定地点	年 月	集じん回　数（回）	平均空気吸引量（m³/回）	平均値	最高値	最低値
ＭＰ－１	7. 4	120	71.7	0.82	2.3	0.12
	5	124	71.7	1.0	2.4	0.25
	6	118	71.8	1.3	3.1	0.20
	7	119	71.5	1.5	3.8	0.17
	8	124	71.8	1.4	3.8	0.27
	9	120	72.1	1.1	2.9	0.20
	10	120	72.6	1.1	2.9	0.30
	11	110	73.0	1.0	2.3	0.20
	12	119	72.8	0.85	2.2	0.16
	8. 1	124	72.3	0.68	1.9	0.094
	2	112	71.9	0.98	3.1	0.095
	3	102	71.8	1.1	2.8	0.11
ＭＰ－５	7. 4	120	72.4	0.78	2.2	0.12
	5	124	72.4	0.94	2.5	0.25
	6	119	71.9	1.2	2.9	0.18
	7	115	72.4	1.4	3.5	0.31
	8	124	72.5	1.3	4.0	0.26
	9	120	72.6	1.0	2.9	0.13
	10	110	72.9	1.1	2.8	0.27
	11	120	72.9	1.1	2.7	0.16
	12	121	72.3	0.82	2.3	0.14
	8. 1	124	71.6	0.64	1.9	0.11
	2	110	70.7	0.96	2.9	0.10
	3	109	70.6	1.1	2.7	0.092
ＭＰ－８	7. 4	120	74.2	0.80	2.5	0.13
	5	124	74.2	0.98	2.9	0.24
	6	119	73.9	1.4	3.2	0.20
	7	115	73.8	1.6	4.0	0.31
	8	124	74.2	1.4	4.0	0.25
	9	120	74.3	1.1	3.3	0.15
	10	120	74.3	1.2	3.1	0.26
	11	110	73.5	1.2	3.1	0.17
	12	120	73.6	0.88	2.3	0.14
	8. 1	117	73.8	0.65	1.9	0.11
	2	110	73.5	0.99	3.1	0.12
	3	110	73.4	1.1	2.5	0.094

（注）１　測定時間は、すべて 10 分間である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

（イ） 集じん終了５時間後の測定結果

（単位：Bq/m³）

測定地点	年 月	集じん回 数（回）	平均空気吸引量（m³/回）	平均値	最高値	最低値
ＭＰ－１	7. 4	120	71.7	0.021	0.10	＊
	5	124	71.7	0.029	0.088	＊
	6	118	71.8	0.034	0.13	0.00067
	7	119	71.5	0.060	0.20	0.0037
	8	124	71.8	0.046	0.17	0.0026
	9	120	72.1	0.030	0.11	＊
	10	120	72.6	0.030	0.082	0.000083
	11	110	73.0	0.022	0.076	0.00042
	12	119	72.8	0.014	0.044	0.0020
	8. 1	124	72.3	0.0067	0.026	0.00091
	2	112	71.9	0.013	0.050	0.0013
	3	102	71.8	0.024	0.087	0.0012
ＭＰ－５	7. 4	120	72.4	0.024	0.076	＊
	5	124	72.4	0.032	0.11	0.0012
	6	119	71.9	0.037	0.14	＊
	7	115	72.4	0.062	0.23	0.0037
	8	124	72.5	0.052	0.19	0.0025
	9	120	72.6	0.034	0.18	0.00075
	10	110	72.9	0.034	0.078	0.00017
	11	120	72.9	0.025	0.078	＊
	12	121	72.3	0.013	0.055	＊
	8. 1	124	71.6	0.0028	0.027	＊
	2	110	70.7	0.0086	0.052	＊
	3	109	70.6	0.024	0.10	＊
ＭＰ－８	7. 4	120	74.2	0.020	0.073	0.00055
	5	124	74.2	0.029	0.11	＊
	6	119	73.9	0.034	0.13	0.00090
	7	115	73.8	0.060	0.22	0.0037
	8	124	74.2	0.048	0.19	0.0017
	9	120	74.3	0.031	0.15	＊
	10	120	74.3	0.031	0.083	0.00056
	11	110	73.5	0.024	0.075	＊
	12	120	73.6	0.012	0.048	＊
	8. 1	117	73.8	0.0041	0.024	＊
	2	110	73.5	0.0098	0.049	＊
	3	110	73.4	0.022	0.087	＊

（注）１　測定時間は、すべて 10 分間である。

２　＊は検出下限値未満を示す。

３　放射能濃度の有効数字は２桁である。

付表６　浮遊じんの四半期別全ベータ放射能測定結果

ア　６時間集じんの測定結果

（ア）集じん終了直後の測定結果

（単位：Bq/m³）

測定地点	令和７年度の測定結果					対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
	測定期間	集じん回数（回）	平均空気吸引量（m³/回）	平均値	測定値の範囲	＜直近＞	
						＜参考＞直近５カ年の同一四半期（R2～R6年度）	直近５カ年（R2～R6年度）
ＭＰ－１	第１四半期	362	71.7	1.1	0.12～3.1	0.075～4.2	0.023～4.4
	第２四半期	363	71.8	1.3	0.17～3.8	0.079～4.4	
	第３四半期	349	72.8	1.0	0.16～2.9	0.034～3.1	
	第４四半期	338	72.0	0.89	0.094～3.1	0.023～2.7	
ＭＰ－５	第１四半期	363	72.3	0.99	0.12～2.9	0.059～4.0	0.041～4.0
	第２四半期	359	72.5	1.2	0.13～4.0	0.068～3.9	
	第３四半期	351	72.7	0.98	0.14～2.8	0.041～2.9	
	第４四半期	343	71.0	0.88	0.092～2.9	0.063～3.1	
ＭＰ－８	第１四半期	363	74.1	1.0	0.13～3.2	0.071～4.2	0.030～4.4
	第２四半期	359	74.1	1.4	0.15～4.0	0.077～4.4	
	第３四半期	350	73.8	1.1	0.14～3.1	0.030～3.3	
	第４四半期	337	73.6	0.91	0.094～3.1	0.076～3.0	

（注）１　測定時間は、全て 10 分間である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

第２四半期の事象報告は p88 参考資料３参照

第４四半期の事象報告は p97 参考資料５参照

（イ） 集じん終了５時間後の測定結果

（単位：Bq/㎥）

測定地点	令和７年度の測定結果					対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
	測定期間	集じん回数（回）	平均空気吸引量（m^3/回）	平均値	測定値の範囲	＜ 直 近 ＞	
						＜ 参考 ＞ 直近５カ年の同一四半期（R2～R6年度）	直近５カ年（R2～R6年度）
ＭＰ－１	第１四半期	362	71.7	0.028	＊～0.13	＊～0.15	＊～0.24
	第２四半期	363	71.8	0.045	＊～0.20	＊～0.24	
	第３四半期	349	72.8	0.022	0.000083～0.082	＊～0.12	
	第４四半期	338	72.0	0.014	0.00091～0.087	＊～0.078	
ＭＰ－５	第１四半期	363	72.3	0.031	＊～0.14	＊～0.20	＊～0.24
	第２四半期	359	72.5	0.049	0.00075～0.23	＊～0.24	
	第３四半期	351	72.7	0.023	＊～0.078	＊～0.13	
	第４四半期	343	71.0	0.011	＊～0.10	＊～0.098	
ＭＰ－８	第１四半期	363	74.1	0.028	＊～0.13	＊～0.20	＊～0.23
	第２四半期	359	74.1	0.046	＊～0.22	＊～0.23	
	第３四半期	350	73.8	0.022	＊～0.083	＊～0.13	
	第４四半期	337	73.6	0.012	＊～0.087	＊～0.095	

（注）１　測定時間は、全て 10 分間である。

２　＊は検出下限値未満を示す。

３　放射能濃度の有効数字は２桁である。

第４四半期の事象報告は p97 参考資料５参照

付表７　環境試料の核種分析結果

試料名	採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
				Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
浮遊じん	ＭＰ－１	7. 4.30	Bq/m^3	＊	＊	＊		＊	＊	0.0029				
		5.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0035				
		6.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0030				
		7.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0025				
		8.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0020				
		9.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0025				
		10.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0039				
		11.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0037				
		12.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0028				
		8. 1.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0022				
		2.28		＊	＊	＊		＊	＊	0.0043				
		3.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0041				
	ＭＰ－５	7. 4.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0029				
		5.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0033				
		6.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0030				
		7.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0025				
		8.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0019				
		9.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0022				
		10.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0034				
		11.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0034				
		12.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0026				
		8. 1.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0021				
		2.28		＊	＊	＊		＊	＊	0.0040				
		3.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0040				

（注）１　Be-7、K-40 は「参考値」である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

３　＊は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
浮遊じん		ＭＰ－８	7. 4.30	Bq/m^3	＊	＊	＊		＊	＊	0.0029				
			5.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0033				
			6.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0028				
			7.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0023				
			8.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0019				
			9.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0023				
			10.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0037				
			11.30		＊	＊	＊		＊	＊	0.0035				
			12.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0027				
			8. 1.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0022				
			2.28		＊	＊	＊		＊	＊	0.0042				
			3.31		＊	＊	＊		＊	＊	0.0041				
陸水	飲料水	刈羽村 刈羽	7. 4.11	Bq/L	＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.035		＊	pH：7.24
			7. 8		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.037		＊	pH：6.21
			10.17		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.046	0.0015	＊	pH：7.08
			8. 2. 2		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.037		＊	pH：6.83
		柏崎市 荒浜	7. 4.11		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.037		0.55	pH：7.25
			7. 8		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.043		＊	pH：6.45
			10.14		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.046		＊	pH：6.89
			8. 2. 2		＊	＊	＊		＊	＊	＊	0.034		＊	pH：6.72
土壌	陸土（0～5cm）	ＭＰ－２付近	7. 5.16	Bq/kg乾	＊	＊	＊		＊	2.0	6.2	370	＊		地目：裸地、性状：砂質、色：褐色
			11. 6		＊	＊	＊		＊	2.4	9.9	370			地目：裸地、性状：砂質、色：褐色
		ＭＰ－８付近	7. 5.16		＊	＊	＊		＊	1.2	8.4	450			地目：裸地、性状：砂質、色：褐色
			11. 6		＊	＊	＊		＊	1.6	7.1	420			地目：裸地、性状：砂質、色：褐色

（注）１　Be-7、K-40は「参考値」である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

３　＊は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
農産物	米（精米）	刈羽村 勝山	7.10.20	Bq/kg生	＊	＊	＊		＊	＊	＊	26	＊		品種:コシヒカリBL
		刈羽村 高町	7.10.20		＊	＊	＊		＊	0.013	＊	18			品種:しんのすけ
	キャベツ	刈羽村 勝山	8. 1. 8		＊	＊	＊	＊	＊	＊	9.2	110			品種:やひこ
		刈羽村 高町	8. 1.26		＊	＊	＊	＊	＊	＊	1.2	100	0.055		品種:やひこ
	大根（根部）	刈羽村 勝山	7.12. 1		＊	＊	＊		＊	＊	0.29	48	0.017		品種:新貴聖
		刈羽村 高町	7.12. 4		＊	＊	＊		＊	＊	0.49	71			品種:耐病総太り
指標生物	松葉（２年葉）	発電所 北側	7. 5.15	Bq/kg生	＊	＊	＊		＊	＊	53	77			品種:クロマツ
			8.14		＊	＊	＊		＊	＊	36	63			品種:クロマツ
			11. 7		＊	＊	＊		＊	＊	56	71			品種:クロマツ
			8. 3. 6		＊	＊	＊		＊	0.047	47	68			品種:クロマツ
		発電所 南側	7. 5.15		＊	＊	＊		＊	0.039	48	76			品種:クロマツ
			8.14		＊	＊	＊		＊	0.051	35	60			品種:クロマツ
			11. 7		＊	＊	＊		＊	0.032	57	63			品種:クロマツ
			8. 3. 6		＊	＊	＊		＊	0.044	47	64			品種:クロマツ

（注）１　Be-7、K-40は「参考値」である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

３　＊は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
海水（表層水）		放水口（南）付近	7. 5. 8	Bq/L	＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.83、塩分量:31.0
			7. 3		＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.86、塩分量:32.0
			10.15		＊	＊	＊		＊	＊	＊		0.0011	＊	pH:8.21、塩分量:31.0
			8. 2.13		＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.79、塩分量:31.0
		放水口（北）付近	7. 5. 8		＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.85、塩分量:31.0
			7. 3		＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.99、塩分量:31.4
			10. 9		＊	＊	＊		＊	＊	＊			＊	pH:7.96、塩分量:32.0
			8. 2.13		＊	＊	＊		＊	＊	＊			0.41	pH:7.77、塩分量:31.3
海底土（表層土）		放水口（南）付近	7. 5.19	Bq/kg乾	＊	＊	＊		＊	＊	＊	330			水深:約11.8m、試料の状況:砂質
			10. 2		＊	＊	＊		＊	＊	＊	460			水深:11.9m、試料の状況:砂質
		放水口（北）付近	7. 5.19		＊	＊	＊		＊	＊	16	450			水深:約9.4m、試料の状況:砂質
			10. 2		＊	＊	＊		＊	＊	＊	510			水深:9.2m、試料の状況:砂質
海産物	マダイ	発電所前面海域	7. 5.12	Bq/kg生	＊	＊	＊		＊	0.093	＊	140	＊		発電所沖合:約4km
	ヒラメ	発電所前面海域	7. 5.12		＊	＊	＊		＊	0.10	＊	130			発電所沖合:約4km
	サザエ	柏崎市椎谷岬（観音岬）	7. 7.29		＊	＊	＊		＊	＊	3.0	68	＊		
	ワカメ	放水口（南）付近	7. 5.19		＊	＊	＊	＊	＊	＊	＊	170			
		放水口（北）付近	7. 5.19		＊	＊	＊	＊	＊	＊	0.41	220			

（注）１　Be-7、K-40は「参考値」である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

３　＊は検出下限値未満を示す。

試料名		採取地点	採取年月日	単位	人工放射性核種						天然放射性核種		放射化学分析		備考
					Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Be-7	K-40	Sr-90	H-3	
指標生物	ホンダワラ類(葉　茎)	放水口(南)付近	7. 5.19	Bq/kg生	＊	＊	＊	＊	＊	＊	3.5	350	0.043		品種:イソモク
			9. 9		＊	＊	＊	＊	＊	＊	3.2	380			品種:ヨレモク
			11.27		＊	＊	＊	＊	＊	＊	13	300			品種:ヨレモク・イソモク
			8. 2.26		＊	＊	＊	＊	＊	＊	4.4	310			品種:イソモク
		放水口(北)付近	7. 5.19		＊	＊	＊	＊	＊	＊	5.7	330			品種:イソモク
			9. 9		＊	＊	＊	＊	＊	0.083	5.5	330			品種:ヨレモク
			11.27		＊	＊	＊	＊	＊	＊	7.9	340			品種:ヨレモク
			8. 2.26		＊	＊	＊	＊	＊	＊	7.7	320			品種:ヨレモク

（注）１　Be-7、K-40は「参考値」である。

２　放射能濃度の有効数字は２桁である。

３　＊は検出下限値未満を示す。

付表８　環境試料の核種濃度検出下限値

試　料　名		単　位	Mn-54	Co-58	Co-60	I-131	Cs-134	Cs-137	Sr-90	H-3
浮遊じん（月間）		Bq/m^3	2.6×10^{-6}	3.5×10^{-6}	3.3×10^{-6}		3.5×10^{-6}	2.8×10^{-6}		
陸　水	飲料水	Bq/L	1.0×10^{-3}	1.1×10^{-3}	1.3×10^{-3}		1.4×10^{-3}	1.1×10^{-3}	4.0×10^{-4}	4.0×10^{-1}
土　壌	陸　土	Bq/kg乾	5.2×10^{-1}	4.8×10^{-1}	4.9×10^{-1}		5.0×10^{-1}	4.8×10^{-1}	2.3×10^{-1}	
農産物	米（精　米）	Bq/kg生	9.4×10^{-3}	1.1×10^{-2}	1.2×10^{-2}		1.0×10^{-2}	9.7×10^{-3}	1.3×10^{-2}	
	キャベツ		1.9×10^{-2}	2.2×10^{-2}	2.5×10^{-2}	1.3×10^{-1}	1.8×10^{-2}	1.8×10^{-2}	1.9×10^{-2}	
	大　根（根　部）		1.1×10^{-2}	1.3×10^{-2}	1.7×10^{-2}		1.3×10^{-2}	1.1×10^{-2}	1.1×10^{-2}	
指標生物	松　葉	Bq/kg生	2.7×10^{-2}	3.0×10^{-2}	3.6×10^{-2}		2.8×10^{-2}	2.5×10^{-2}		
海　水		Bq/L	1.6×10^{-3}	2.0×10^{-3}	2.1×10^{-3}		2.2×10^{-3}	1.9×10^{-3}	6.5×10^{-4}	3.9×10^{-1}
海底土		Bq/kg乾	4.6×10^{-1}	5.5×10^{-1}	6.1×10^{-1}		6.0×10^{-1}	5.8×10^{-1}		
海産物	マダイ	Bq/kg生	3.0×10^{-2}	3.7×10^{-2}	4.6×10^{-2}		3.3×10^{-2}	3.1×10^{-2}	2.1×10^{-2}	
	ヒラメ		3.4×10^{-2}	4.0×10^{-2}	4.7×10^{-2}		3.5×10^{-2}	3.3×10^{-2}		
	サザエ		2.6×10^{-2}	3.4×10^{-2}	3.6×10^{-2}		3.0×10^{-2}	3.0×10^{-2}	2.5×10^{-2}	
	ワカメ		4.8×10^{-2}	5.1×10^{-2}	8.4×10^{-2}	1.0×10^{-1}	4.4×10^{-2}	4.2×10^{-2}		
指標生物	ﾎﾝﾀﾞﾜﾗ類	Bq/kg生	8.2×10^{-2}	8.4×10^{-2}	9.2×10^{-2}	1.8×10^{-1}	7.1×10^{-2}	7.0×10^{-2}	2.4×10^{-2}	

（注）検出下限値は、試料量やバックグラウンド計数率等の違いにより測定毎に異なるため、令和７年度の代表的な数値を掲げた。

付表９　海水放射能モニタの月別測定結果

（単位：cpm）

調査地点	年　月	測定時間 （時間）	平 均 値	最 低 値 （10分値）	最 高 値 （10分値）
放水口（南） 1号機放水口	7. 4	720	446	389	1,055
	5	744	440	398	855
	6	720	425	393	524
	7	726	419	389	453
	8	744	417	387	1,642
	9	720	418	385	1,069
	10	744	440	382	4,849
	11	720	461	375	1,916
	12	744	491	388	4,137
	8. 1	744	546	389	3,853
	2	667	485	409	1,983
	3	677	468	412	1,475
放水口（南） 2号機放水口	7. 4	720	474	421	1,334
	5	744	451	416	830
	6	720	433	400	542
	7	726	416	384	448
	8	744	416	381	1,811
	9	720	421	385	1,506
	10	744	434	381	4,885
	11	720	453	375	1,778
	12	744	473	384	3,313
	8. 1	744	518	381	3,313
	2	667	464	394	1,726
	3	677	458	396	1,346
放水口（南） 3号機放水口	7. 4	720	431	379	1,220
	5	744	416	380	635
	6	720	404	372	474
	7	730	397	369	428
	8	742	394	357	1,597
	9	720	393	359	1,586
	10	744	409	362	4,925
	11	720	430	349	1,644
	12	744	455	368	3,335
	8. 1	744	522	367	3,632
	2	667	444	376	1,709
	3	677	441	385	1,876

（単位：cpm）

調査地点	年　月	測定時間 （時間）	平 均 値	最 低 値 （10分値）	最 高 値 （10分値）
放水口（南） 4号機放水口	7. 4	720	456	400	1,293
	5	744	443	410	857
	6	720	431	399	508
	7	730	425	396	512
	8	742	428	391	1,764
	9	720	432	392	1,682
	10	744	446	391	4,588
	11	720	463	378	1,837
	12	744	487	388	4,487
	8. 1	744	540	396	3,804
	2	667	471	403	1,692
	3	677	467	407	2,014
放水口（北） 5号機放水口	7. 4	720	465	397	2,301
	5	744	457	404	1,454
	6	720	440	402	834
	7	743	423	395	603
	8	734	448	389	4,871
	9	720	436	390	1,315
	10	744	462	389	2,861
	11	720	484	383	3,711
	12	744	500	393	2,569
	8. 1	744	507	388	2,049
	2	672	471	405	2,983
	3	677	461	396	2,270
放水口（北） 6号機放水口	7. 4	720	415	366	2,011
	5	744	415	367	823
	6	720	406	371	649
	7	743	393	366	432
	8	734	413	354	2,559
	9	720	400	364	1,058
	10	744	416	359	1,988
	11	720	428	359	2,428
	12	744	450	366	1,740
	8. 1	744	457	352	1,261
	2	672	426	370	1,507
	3	677	423	364	1,061

（単位：cpm）

調査地点	年　月	測定時間 （時間）	平 均 値	最 低 値 （10分値）	最 高 値 （10分値）
放水口（北） 7号機放水口	7. 4	720	423	367	1,152
	5	744	419	378	833
	6	720	405	371	581
	7	743	391	364	457
	8	734	406	362	2,324
	9	720	401	364	937
	10	744	414	362	1,918
	11	720	430	357	1,702
	12	744	456	367	1,914
	8. 1	744	492	367	1,431
	2	672	457	391	1,604
	3	677	446	375	1,484

付表 10　モニタリングポスト・環境試料等の地点等変更履歴

(1) 空間放射線量率測定地点他

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S57. 4	モニタリングポスト	全地点	測定開始	

(2) 積算線量測定地点他

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S57. 4	モニタリングポイント	全地点	測定開始	
H 3. 4	モニタリングポイント	全地点	測定素子更新	
H15. 4	モニタリングポイント	柏崎市松波	測定地点を約 12m 移動	
H16. 4	モニタリングポイント	全地点	熱蛍光線量計→蛍光ガラス線量計に変更	
H20. 7	モニタリングポイント	柏崎市椎谷	測定地点を約 200m 移動	
H29. 4	モニタリングポイント	全地点	蛍光ガラス線量計を更新	

(3) 環境試料採取地点・種類

ア．浮遊じん

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S57. 4	浮遊じん	ＭＰ－１ ＭＰ－８	測定開始	
H 元. 7	浮遊じん	ＭＰ－５	測定開始	
H20. 1 ～H20. 2	浮遊じん	全地点	24 時間集じん→6 時間集じんに変更	測定装置の更新に伴うもの

イ．陸水（飲料水）

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 6	陸水（飲料水）	刈羽村高町 柏崎市荒浜	採取開始	
H 5. 5	陸水（飲料水）	刈羽村刈羽	刈羽村高町→刈羽村刈羽に地点変更	

ウ．土壌（陸土）

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 6	土壌（陸土）	ＭＰ－２付近 ＭＰ－８付近	採取開始	

エ．農産物

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56.10	農産物（米）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S56.10	農産物（大根）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S57.10	農産物（野沢菜）	刈羽村勝山 刈羽村高町	採取開始	
S58.10	農産物（白菜）	刈羽村勝山 刈羽村高町	野沢菜→白菜に変更	
S59.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山 刈羽村高町	白菜→キャベツに変更	
S60.11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を青首→総太りに変更	
S61.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→柳生に変更	
S62.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
S62.10	農産物（米）	刈羽村高町	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
S62.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を柳生→秋ひかりに変更	
S62.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→深みどりに変更	
S63.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をコシヒカリ→越路早生に変更	
S63.10	農産物（米）	刈羽村高町	品種をコシヒカリ→越路早生に変更	
S63.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を秋ひかり→やひこに変更	
S63.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を深みどり→やひこに変更	
H 元.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→深みどりに変更	
H 2.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
H 2.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→越のひかりに変更	
H 3.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を深みどり→越のひかりに変更	
H 4.10	農産物（米）	刈羽村高町	採取地点の下高町が圃場整備のため、正明寺にて採取	
H 4.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を越のひかり→やひこに変更	
H 4.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→大御所に変更	
H 5.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を大御所→やひこに変更	
H 5.11	農産物（大根）	刈羽村勝山	品種を総太り→新貴聖に変更	
H 6.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→ゆきの精に変更	
H 6.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→金力に変更	
H 7.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→寒めいに変更	
H 7.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→越のひかりに変更	

H 8.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をゆきの精→越路早生に変更	
H 8.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を寒めい→金力に変更	
H10.10	農産物（米）	刈羽村高町	品種を越路早生→コシヒカリに変更	
H10.11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→宮重総太に変更	
H11.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこに変更	
H12.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ→柳生に変更	
H15.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種を越路早生→こしいぶきに変更	
H16.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をこしいぶき→コシヒカリに変更	
H16.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→柳生に変更	
H19.12	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を柳生→金力に変更	
H23.12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→やひこに変更	
H24.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこＡ号に変更	
H25.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこＡ→金力及びやひこＡ号に変更	
H26.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力及びやひこＡ号→金力に変更	
H26.12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→やひこ及び冬みどりに変更	
H27.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこ及び金力に変更	
H27.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ及び冬みどり →越のひかりに変更	
H28.11	農産物 （キャベツ、大根）	刈羽村高町	採取地点を約 50m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
H28.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種をやひこ及び金力→金力に変更	
H28.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり →越のひかり及びやひこに変更	
H28.11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→青首総太りに変更	
H29.11	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり及びやひこ→やひこに変更	
H30.11	農産物（大根）	刈羽村高町	採取地点を約 400m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
H30.12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→越のひかりに変更	
R 元.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→金力及びやひこに変更	
R 元.12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を越のひかり→やひこに変更	
R 2.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力及びやひこ→金力に変更	
R 4.10	農産物（米）	刈羽村勝山	品種をコシヒカリ→コシヒカリ BL に変更	
R 4.11	農産物 （キャベツ、大根）	刈羽村高町	採取地点を約 1900m 移動	採取依頼先農家の都合によるもの
R 4.11	農産物（キャベツ）	刈羽村勝山	品種を金力→やひこに変更	
R 4.11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を青首総太り→総太りに変更	
R 5.10	農産物（米）	刈羽村高町	品種をコシヒカリ→新之助に変更	
R 6.11	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を総太り→耐病ひかりに変更	
R 6.12	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種をやひこ→妙高に変更	
R 7.12	農産物（大根）	刈羽村高町	品種を耐病ひかり→耐病総太りに変更	
R 8. 1	農産物（キャベツ）	刈羽村高町	品種を妙高→やひこに変更	

オ．指標生物（松葉）

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 6	指標生物（松葉）	ＭＰ－２付近 ＭＰ－８付近	採取開始	
H19. 5	指標生物（松葉）	発電所北側 発電所南側	測定地点追加	
H21. 5	指標生物（松葉）	発電所北側 発電所南側	MP-2 付近及び発電所北側→発電所北側に変更 MP-8 付近及び発電所南側→発電所南側に変更	採取地点拡大のため

カ．海水・海底土

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 6	海水・海底土	放水口	採取開始	
S59. 5	海水・海底土	放水口（北）予定地点	地点追加	
S59. 5	海水	放水口（南）付近 放水口（北）予定地点	放水口→放水口（南）付近に名称変更 放水口（北）予定地点を追加 年２回採取を４回に変更	
S59. 5	海底土	放水口（南）付近 放水口（北）予定地点	放水口（北）地点追加	
S63. 5	海底土	放水口（北）予定地点	放水口（北）予定地点→放水口（北）付近に名称変更	

キ．海産物

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 8	海産物（バイ貝）	周辺海域	採取開始	
S56.10	海産物（マダイ）	発電所前面海域	採取開始	
S58. 8	海産物（ヒラメ）	発電所前面海域	採取開始	
S58.10	海産物（キス）	発電所前面海域	採取開始	
S59. 6	海産物（ワカメ）	放水口（南）付近	採取開始	
S59. 9	海産物（サザエ）	柏崎市椎谷岬	バイ貝→サザエに変更	

S63. 5	海産物（ワカメ）	放水口（北）付近	採取開始	

ク．指標生物（ホンダワラ類）

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S56. 6	指標生物 （ホンダワラ類）	柏崎市椎谷岬	採取開始	
S58. 8	指標生物 （ホンダワラ類）	柏崎市椎谷岬	年 2 回採取から 3 回に変更	
S59. 6	指標生物 （ホンダワラ類）	放水口（南）付近	採取地点を変更 年 3 回採取から 4 回に変更	
S63. 5	指標生物 （ホンダワラ類）	放水口（北）付近	採取地点を追加	

(4) 環境試料分析方法

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S58. 5	陸水（飲料水）	核種分析（トリチウムの放射化学分析）	測定開始	
S58. 5	海水	核種分析（トリチウムの放射化学分析）	測定開始	
H21. 8	海産物（サザエ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.10	農産物（米）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.10	海水	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.11	土壌（陸土）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.11	農産物（大根）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.11	畜産物（牛乳）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
H21.11	指標生物 （ホンダワラ類）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	陸水（飲料水）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	農産物（キャベツ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	
R 2. 3	海産物（マダイ）	核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）	測定開始	

(5) 海水放射能モニタ

年　月	種　　別	地　　点	概　　要	備　　考
S60. 4	海水放射能モニタ	放水口（南）	測定開始	
S63. 3	海水放射能モニタ	放水口（南）	検出器の位置変更	取り付け架台の改造に伴うもの
H 元. 6	海水放射能モニタ	放水口（北）	測定開始	

事　象　報　告

事象報告1　積算線量の測定結果について

令和７年度及び令和７年度第４四半期に測定した積算線量について、ＭＰ－９の測定値が対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和７年度におけるＭＰ－９の積算線量の測定結果を表１に示す。また、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた同地点の年間の積算線量の推移を図１に、第４四半期の積算線量の推移を図２に示す。

表１　積算線量の測定結果

測定地点 (モニタリングポイント)	年間積算線量		四半期積算線量					
	令和７年度の測定結果	対照期間の測定結果（測定値の範囲）	令和７年度の測定結果				対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
		＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
ＭＰ－９	0.50	0.44～0.47	0.11	0.11	0.11	0.16	0.10～0.13	0.10～0.14

（注）１　四半期積算線量は、実測値の91日換算値であり、単位はmGy/91日である。また、年間積算線量は、小数第３位まで求めた各四半期の実測積算線量の和の365日換算値であり、単位はmGy/365日である。
２　超過した測定値は網掛けとした。
３　事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計（TLD）による値である。

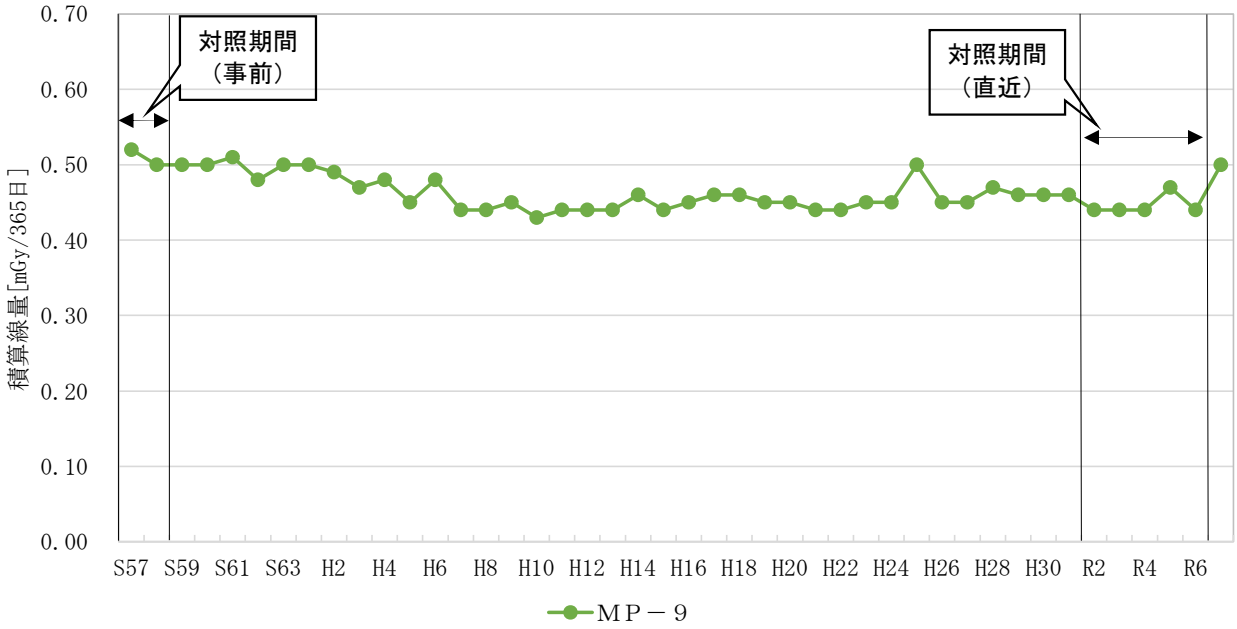


図１　積算線量の推移(年間)

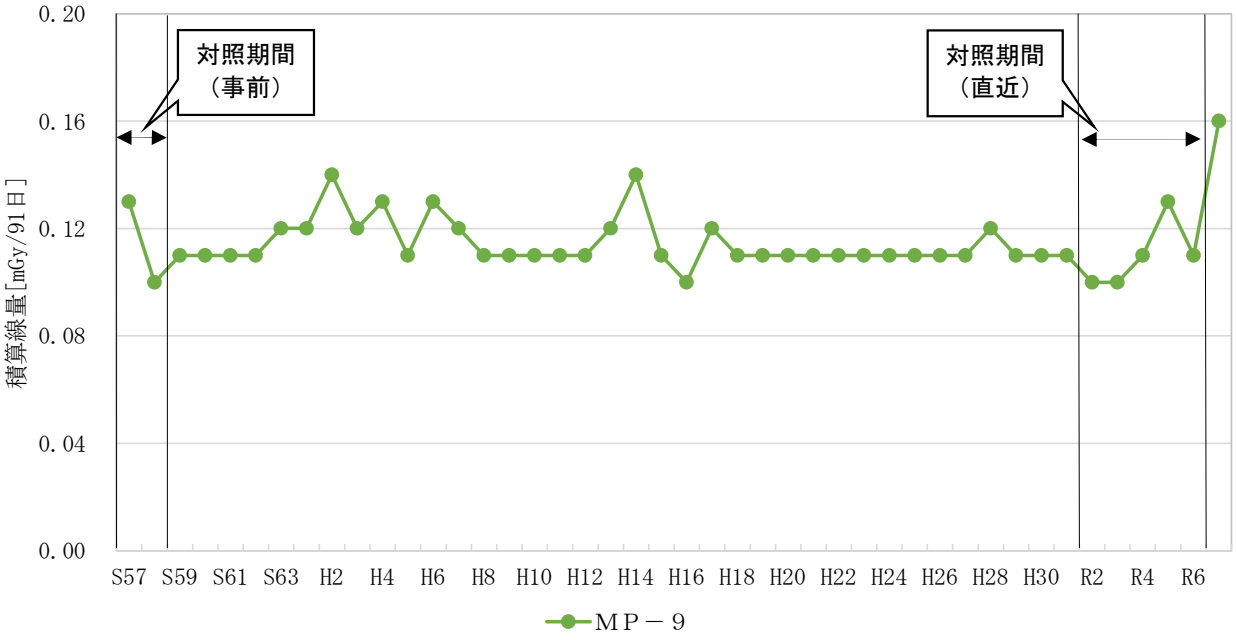


図２　積算線量の推移（第４四半期）

２　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間（※）のうち、１から５号機及び７号機の原子炉は停止していたが、令和８年１月 21 日から 22 日、２月９日から 19 日及び２月 24 日から３月 12 日において、６号機の原子炉は稼働していた。

令和６年度から令和７年度において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和７年３月 13 日から令和８年３月 12 日

(2) 測定の状況

文部科学省のマニュアル（※）に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法（平成 14 年制定）」

(3) 外部要因

ア．周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

発電所構内（屋外）における非破壊検査中にモニタリングポスト（ＭＰ－９）の測定値に RI 線源の影響がないことを確認している。

(4) 気象

ア．気温、降水等の影響

積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

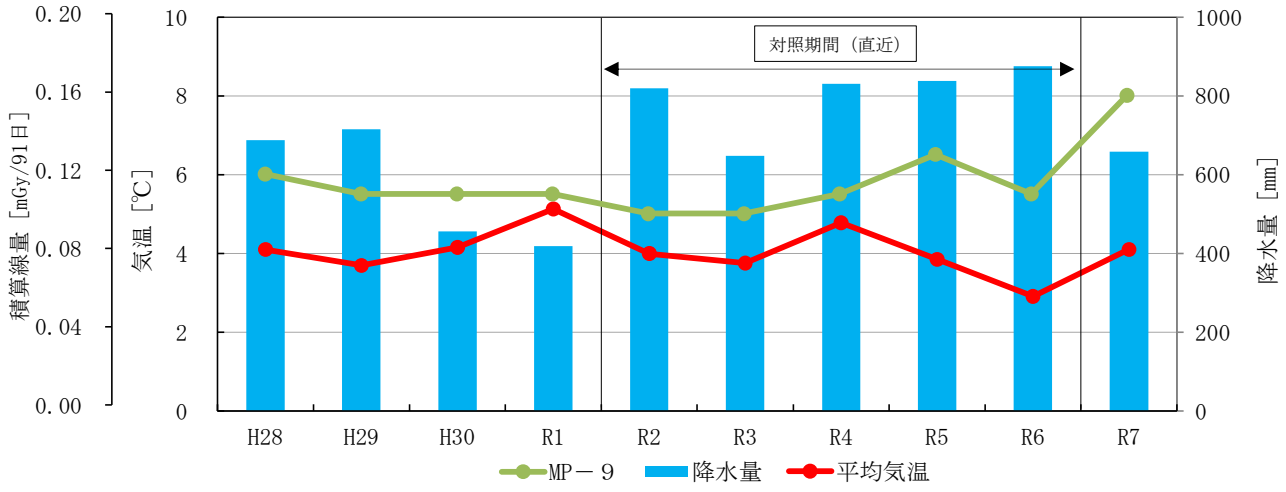
第４四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図３に、平均積雪深及び積算線量の推移を図４に示す。また、降水日数、積雪日数及び積算線量の比較を表２に示す。

これによると令和７年度第４四半期について、平均気温は平年並みであったが、降水量及び降水日数は

平年より少なめであった。

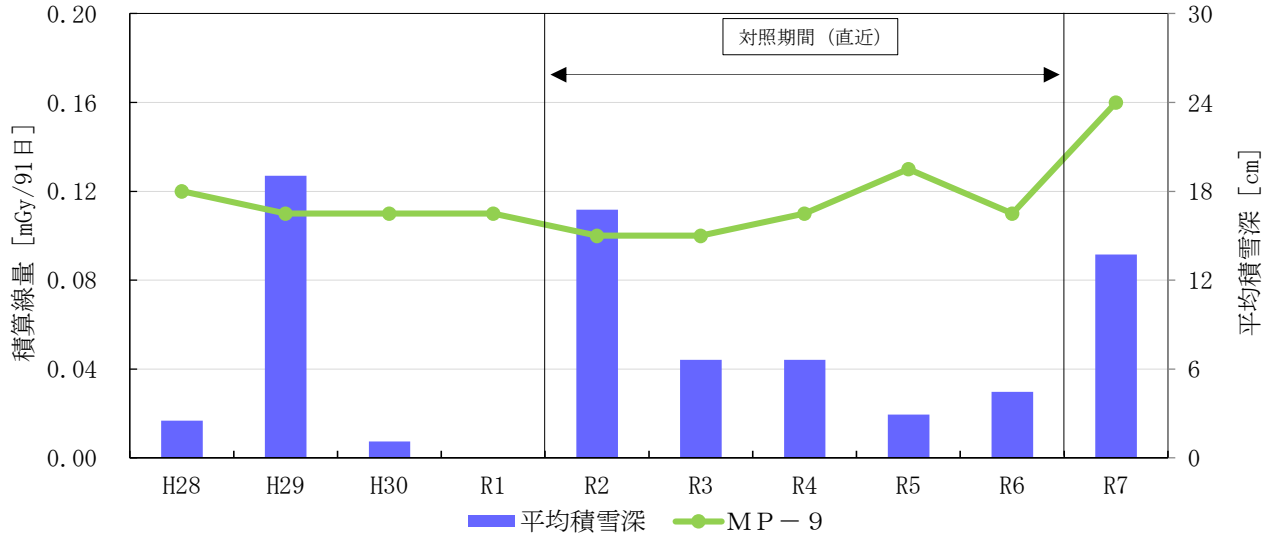
また、平均積雪深及び積雪日数は平年より多めであった。

以上を踏まえ、気温及び降水等の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性は低いと考えられる。



（気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所）

図３　第４四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移



（気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所）

（平均積雪深：第４四半期の積算線量の積算期間における日平均値）

図４　第４四半期における平均積雪深及び積算線量の推移

表２　第４四半期における降水日数、積雪日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間（直近）				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		67	64	75	67	72	77
積雪日数(日)		44	47	62	38	24	37
積算線量 (mGy/91 日)	ＭＰ－９	0.16	0.10	0.10	0.11	0.13	0.11

（注）１　降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、令和７年度より多い降水日数を網掛けとした。

２　積雪日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の積雪深計が積雪を検知した日数を集計したものであり、令和７年度より多い積雪日数を網掛けとした。

イ．雷の影響

雷（落雷又は雷雲）による制動Ｘ線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

蛍光ガラス線量計における積算期間において、２月２日及び２月 18 日に落雷又は雷雲によりモニタリングポスト（ＭＰ－９）の測定値に一時的な上昇が確認された。（図５、図８参照）

２月２日は、ＭＰ－９の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られたが、短時間でのわずかな上昇であったため、積算線量への影響は小さかったと考えられる。（図６、図７参照）

一方、２月 18 日は、ＭＰ－９の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られており、短時間ではあるが、高線量率計が大きく上昇していた。（図９、図 10 参照）

また、ＭＰ－９近傍には避雷鉄塔があり、避雷鉄塔近傍の建物に配備していた受動形個人線量計（蛍光ガラス線量計）では、２月 17 日配備分が２月 25 日配備分より 0.089mGy 高い値を示しており、ＭＰ－９及び当該建物から落雷地点（近傍の避雷鉄塔）までの距離を換算するとＭＰ－９では 0.014mGy の影響を受けた可能性がある。（図 11 参照）

これまでの測定結果においても、平成 17 年度及び平成 25 年度に落雷が原因と推測される積算線量の上昇を確認している。

以上を踏まえ、今回も雷の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性が考えられる。

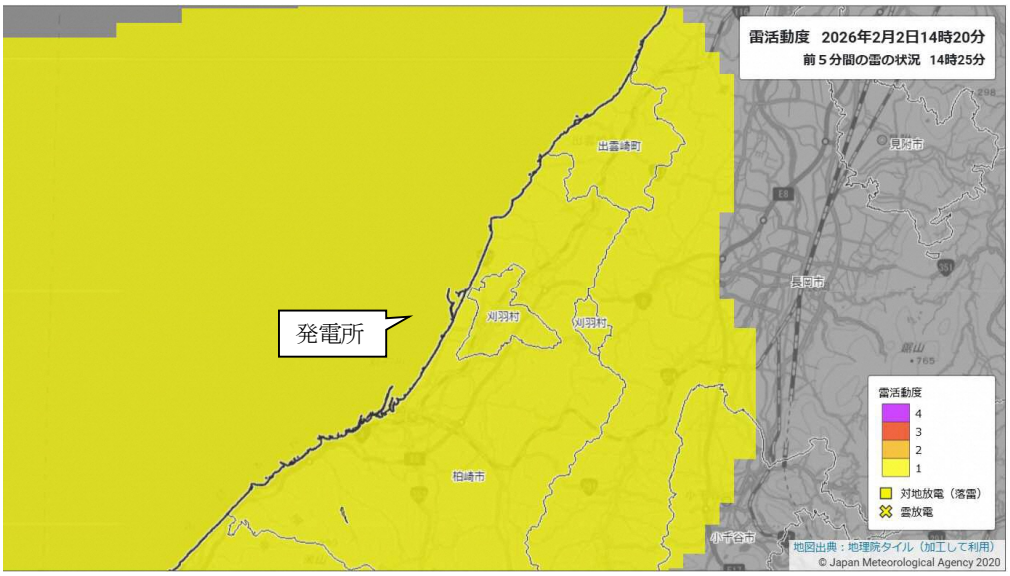


図５　雷情報（令和８年２月２日 14 時 20 分～14 時 25 分）【出典元：気象庁】

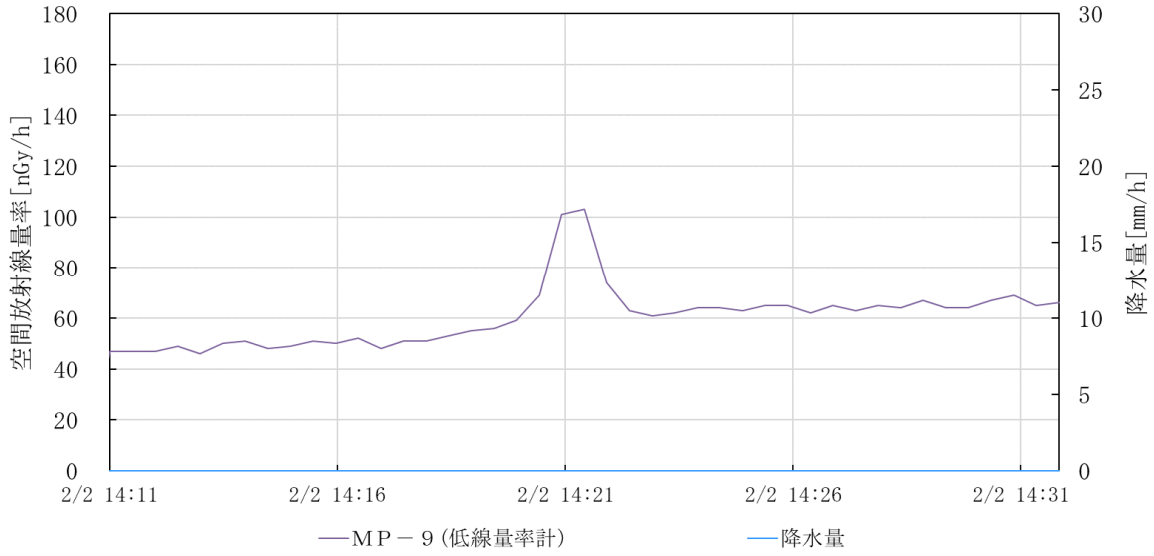


図６　令和８年２月２日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

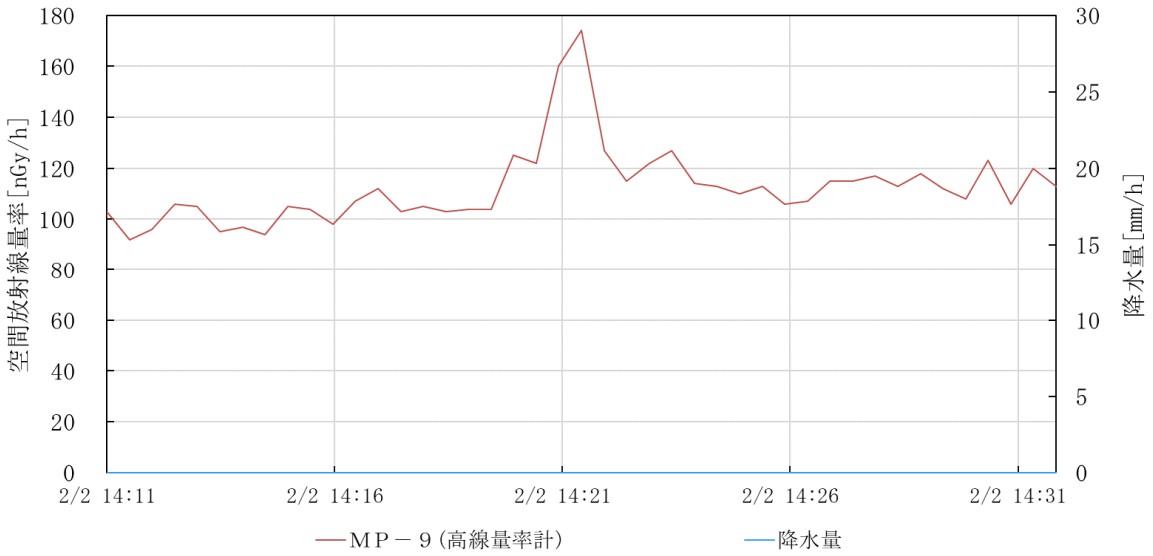


図７　令和８年２月２日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

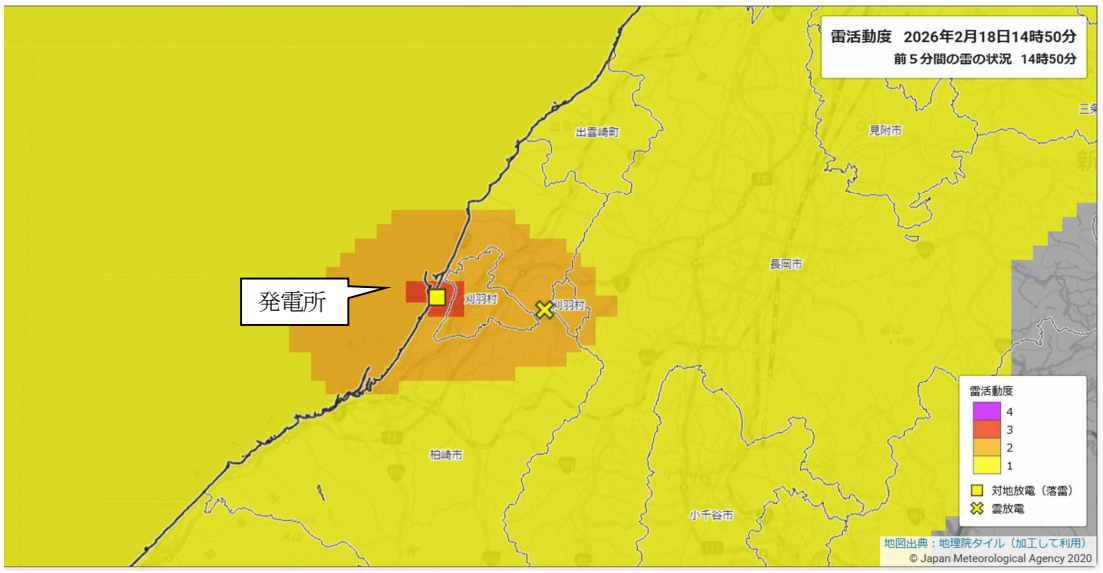


図８　雷情報（令和８年２月 18 日 14 時 45 分～14 時 50 分）【出典元：気象庁】

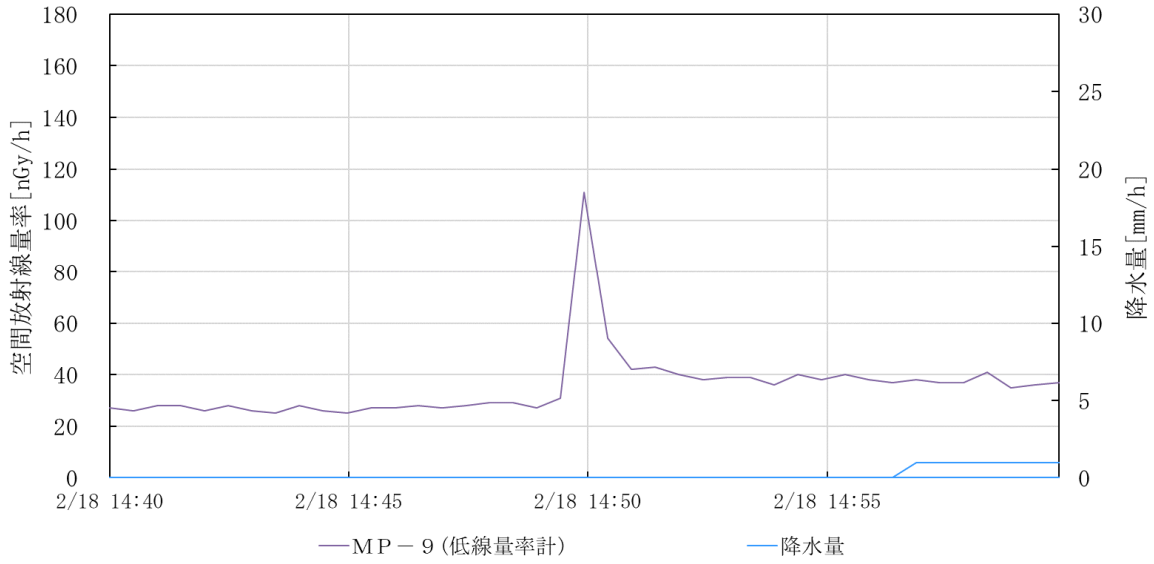


図９　令和８年２月 18 日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

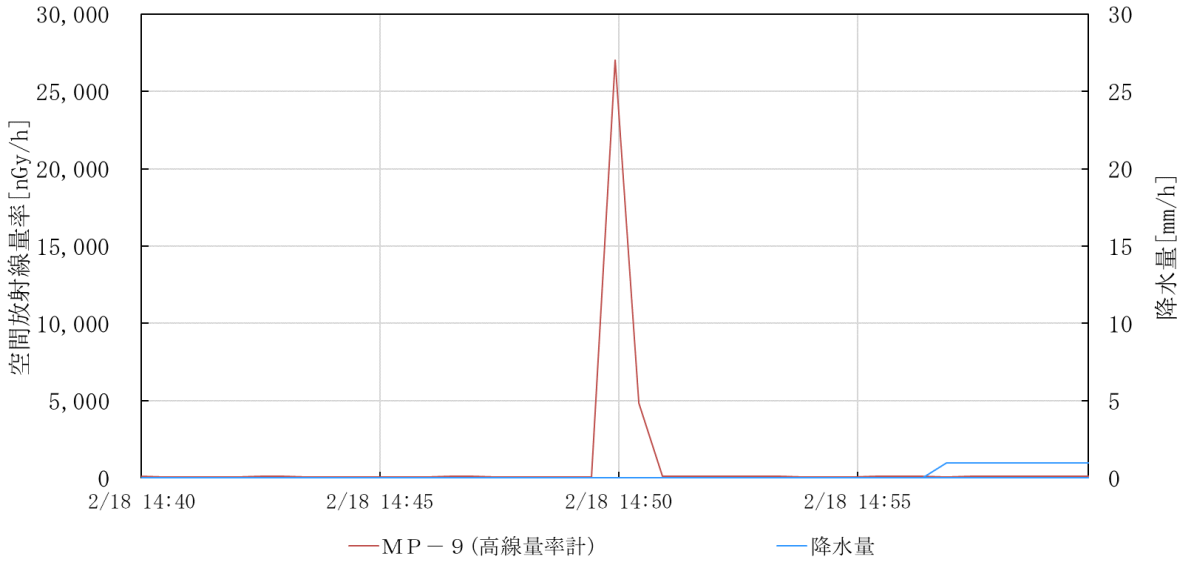


図 10　令和８年２月 18 日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

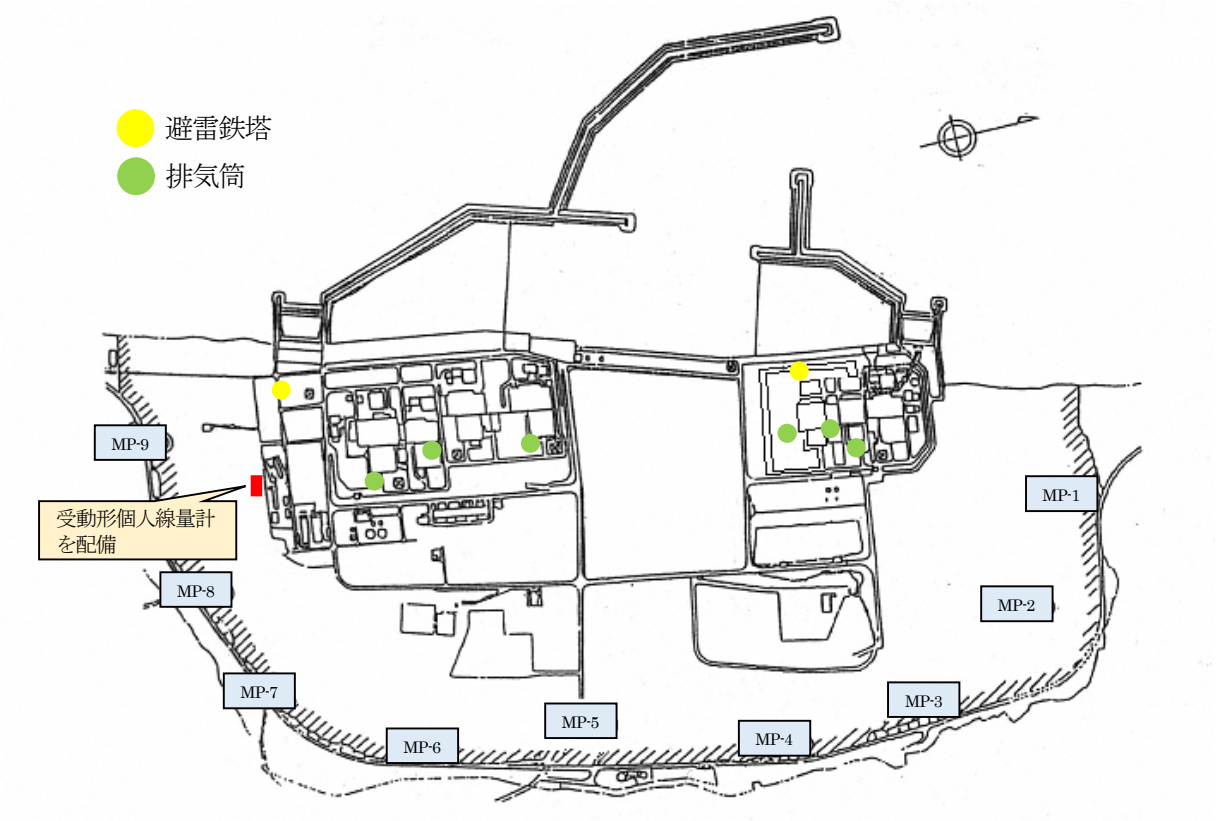


図 11　構内配置図

3　推定原因

調査結果より、令和７年度及び令和７年度第４四半期におけるＭＰ－９の測定値が、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所の影響によるものではなく、雷による影響の可能性が考えられる。

以　上

事象報告２　大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）について

令和７年 12 月に採取した大根から人工放射性核種のストロンチウム 90 が検出され、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和７年 12 月に採取した大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）を表１に示す。また、平成 21 年度以降のストロンチウム 90 濃度の推移を図１に示す。

表１　大根の核種分析結果（ストロンチウム 90）

（単位：Bq/kg 生）

採取地点	採取年月日	測定結果	対照期間の測定結果（当該核種の測定値の範囲）	
			＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S59.12 まで)
刈羽村勝山	令和７年 12 月１日	0.017（±0.004）※1	＊	

（注）１　＊は検出下限値未満を示す。
２　超過した測定結果は網掛けとした。
３　大根については平成 21 年度よりストロンチウム 90 の測定を開始した。
※1　（ ）内は計数誤差を示す。

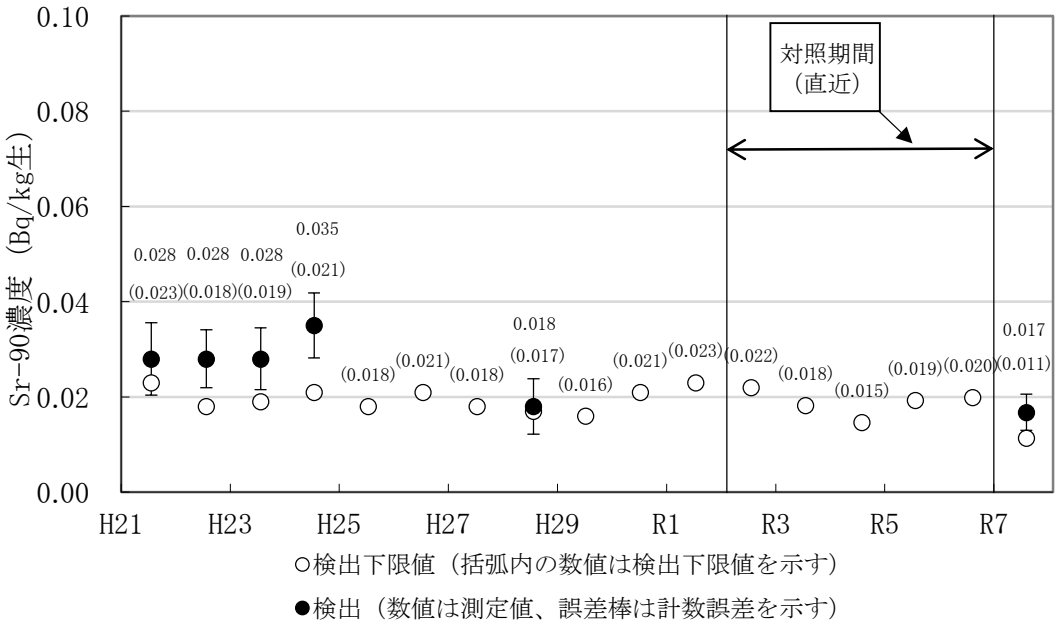


図１　大根のストロンチウム 90 濃度（採取地点：刈羽村勝山）の推移

2　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

採取した大根の栽培期間（※）において、１から７号機の原子炉は稼働していなかった。

令和７年度第２四半期から第３四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※ 採取した大根の栽培期間：令和７年９月から 12 月

(2) 測定の状況

試料の採取、前処理、測定は、文部科学省の各マニュアル（※）に準拠し、適切に行われたことを確認している。また、試料の前処理の状況等から他試料からのストロンチウム 90 の汚染の可能性はないこと、並びに試料の測定前後におけるバックグラウンド値から測定装置に汚染がないことを確認している。

※「環境試料採取法（昭和 58 年制定）」、「放射性ストロンチウム分析法（平成 15 年改訂）」

(3) その他

ア．大根のストロンチウム 90 は平成 21 年度から測定を開始しているが、過去にも検出されている。

イ．同一地点における大根の核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

ウ．令和７年度は、東通原子力建設所にて核種分析（ストロンチウム 90 の放射化学分析）を実施しており、柏崎刈羽原子力発電所と測定条件（供試量など）が異なることから、検出下限値が従来よりも低くなっている。

3　推定原因

調査結果より、今回検出されたストロンチウム 90 は当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等の影響によるものと推定した。

また、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、従来と測定条件（供試量など）が異なることから、検出下限値が低くなったことで、直近５カ年は検出下限値未満であったストロンチウム 90 が検出されたためであると推定した。

以　上

事象報告３　キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）について

令和８年１月に採取したキャベツから人工放射性核種のストロンチウム 90 が検出され、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和８年１月に採取したキャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）を表１に示す。また、令和元年度以降のストロンチウム 90 濃度の推移を図１に示す。

表１　キャベツの核種分析結果（ストロンチウム 90）

（単位：Bq/kg 生）

採取地点	採取年月日	測　定　結　果	対照期間の測定結果（当該核種の測定値の範囲）	
			＜　直　近　＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)	＜　事　前　＞ 事前調査期間 (S59.12 まで)
刈羽村高町	令和８年１月 26 日	0.055（±0.006）※1	＊～0.025	

（注）１　＊は検出下限値未満を示す。
２　超過した測定結果は網掛けとした。
３　キャベツについては令和元年度よりストロンチウム 90 の測定を開始した。

※１　（　）内は計数誤差を示す。

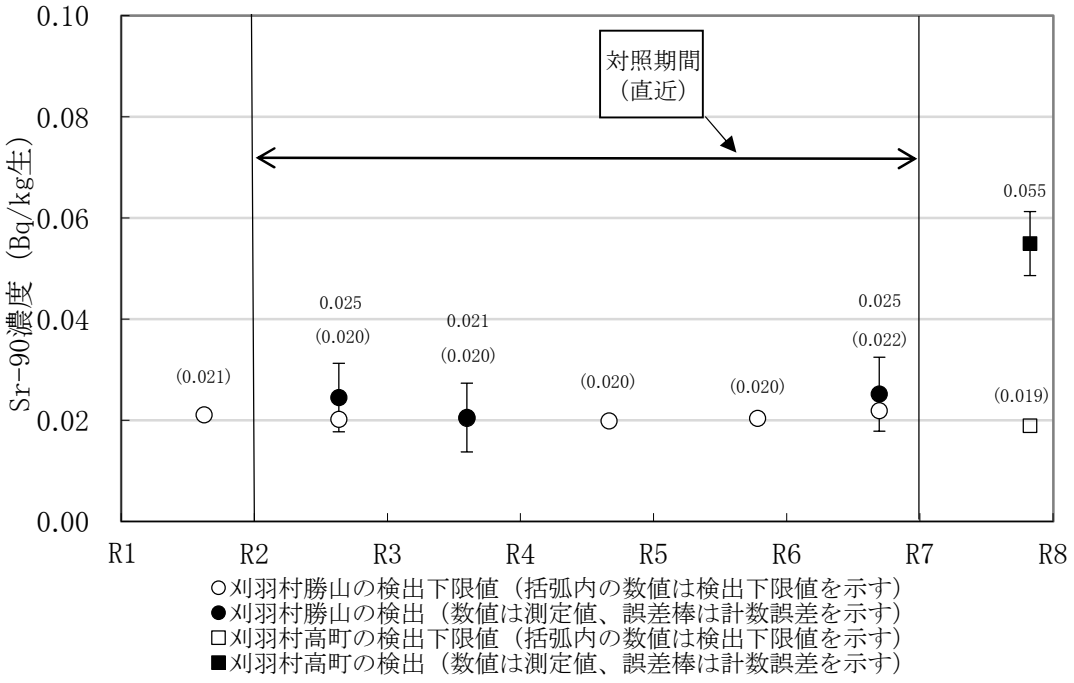


図１　キャベツのストロンチウム 90 濃度の推移

2　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

採取したキャベツの栽培期間（※）のうち、１から５号機及び７号機の原子炉は停止していたが、令和８年１月 21 日から 22 日において、６号機の原子炉は稼働していた。

令和７年度第２四半期から第４四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※採取したキャベツの栽培期間：令和７年８月から令和８年１月

(2) 測定の状況

試料の採取、前処理、測定は、文部科学省の各マニュアル（※）に準拠し、適切に行われたことを確認している。また、試料の前処理の状況等から他試料からのストロンチウム 90 の汚染の可能性はないこと、並びに試料の測定前後におけるバックグラウンド値から測定装置に汚染がないことを確認している。

※「環境試料採取法（昭和 58 年制定）」、「放射性ストロンチウム分析法（平成 15 年改訂）」

(3) その他

ア．キャベツのストロンチウム 90 は令和元年度から測定を開始しているが、過去にも検出されている。

イ．同一地点におけるキャベツの核種分析（機器分析）を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

ウ．「令和７年度柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査年度計画」では、キャベツのストロンチウム 90 について、刈羽村勝山または刈羽村高町のいずれか１試料を測定することとしている。従来、刈羽村勝山の試料を測定してきたが、令和７年度は同地点におけるキャベツの生育不良に伴い、必要な試料量を確保できなかったため、刈羽村高町の試料を用いてストロンチウム 90 の測定を実施した。

エ．採取地点変更の影響

ストロンチウム 90 は、根を通じて土壌から農作物へ移行するため、畑土壌中のストロンチウム 90 の量により変動すると考えられる。また、ストロンチウム 90 が移行する程度（移行係数）は、土壌の種類によって異なるとされており、一般に砂質の方が粘土質よりも比較的高い傾向がある。

令和７年度にキャベツのストロンチウム 90 を測定した刈羽村高町と対照期間（令和２年度から令和６年度）にキャベツのストロンチウム 90 を測定した刈羽村勝山の畑土壌の核種分析結果（ストロンチウム 90）及び土壌の種類を表２に示す。

これによると刈羽村高町と刈羽村勝山の畑土壌はいずれも砂質であり、移行係数に大きな違いはないと考えられる。一方で、刈羽村高町の畑土壌中のストロンチウム 90 濃度は刈羽村勝山より高いため、畑土壌からキャベツへの移行量が多かったと考えられる。

以上を踏まえ、令和７年度は採取地点を刈羽村勝山から刈羽村高町に変更したこと、ならびに刈羽村高町の畑土壌におけるストロンチウム 90 濃度が刈羽村勝山より高いことが、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因であると推定される。

表２　畑土壌の核種分析結果（ストロンチウム 90）及び土壌の種類

（単位：Bq/kg 乾土）

採取地点	採取年月日	畑土壌	
		ストロンチウム 90	土壌の種類
刈羽村高町	令和８年６月２日	1.1（±0.1）※1	砂質
刈羽村勝山	令和８年６月２日	0.57（±0.08）※1	砂質

※１　（　）内は計数誤差を示す。

3　推定原因

調査結果より、今回検出されたストロンチウム 90 は当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所からの影響によるものではなく、過去に行われた核実験等の影響によるものと推定した。

また、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、令和 7 年度は採取地点を刈羽村勝山から刈羽村高町に変更したこと、ならびに刈羽村高町の畑土壌におけるストロンチウム 90 濃度が刈羽村勝山より高いことが影響していると推定した。

以　上

参　考　資　料

参考資料１　令和７年度第２四半期の空間放射線量率の測定結果について

令和７年８月７日に測定した空間放射線量率について、ＭＰ－１、２、３において１時間値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超え、ＭＰ－１、２、３、４、５において 10 分値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和７年８月７日の空間放射線量率の測定結果を表１に示す。また、空間放射線量率の 10 分値の推移を図１に示す。

表１　空間放射線量率の測定結果

（単位：nGy/h）

測定地点	対象月日	１時間値及び10分値の最高値				対照期間の測定結果（測定値の範囲）		
						＜ 直 近 ＞ 直近５カ年 第２四半期 (R２～R６年度)		＜ 事 前 ＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
		１時間値		10 分値		１時間値	10 分値	
		出現時刻	測定値	出現時刻	測定値			
ＭＰ－１	８月７日	23 時	90	22 時 10 分	99	34～79	33～85	16～141
ＭＰ－２	８月７日	23 時	86	22 時 10 分	95	28～78	28～84	6～130
ＭＰ－３	８月７日	23 時	85	22 時 10 分	96	32～84	31～90	5～147
ＭＰ－４	８月７日	23 時	82	22 時 10 分	95	32～83	31～89	5～146
ＭＰ－５	８月７日	23 時	88	22 時 10 分	105	35～88	34～95	5～160

（注）１　事前調査期間の測定結果は、１時間値である。

２　超過した最高値は網掛けとした。

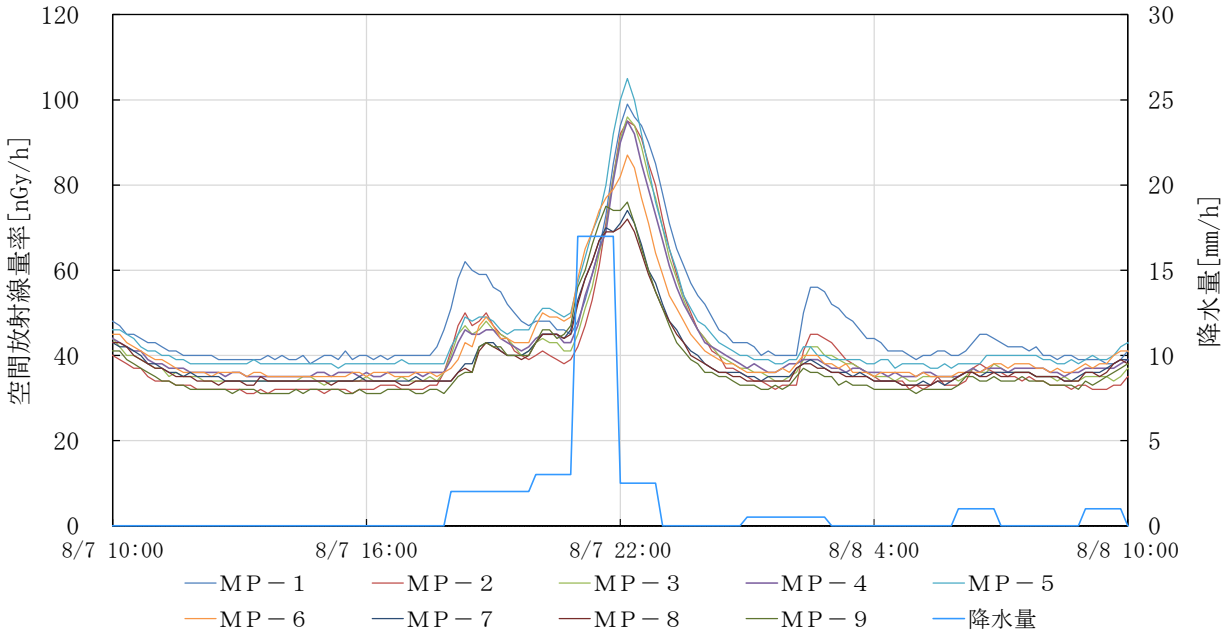


図１　令和７年８月７日の空間放射線量率（10 分値）の推移

２　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

令和７年８月７日において、１から７号機の原子炉は停止していた。

当該時刻における各号機の排気筒モニタの指示値に変動は見られなかった。（図２参照）

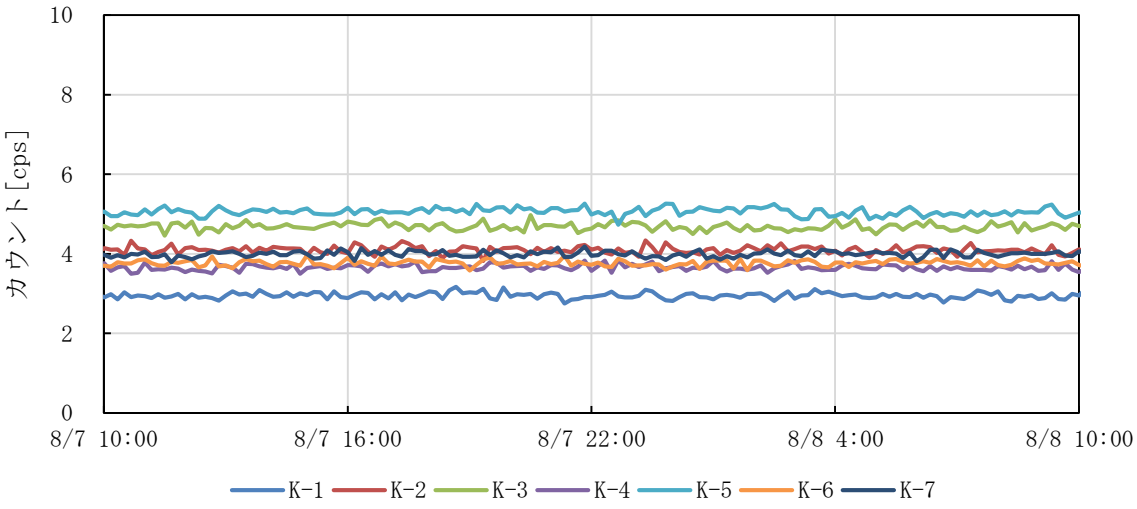


図２　令和７年８月７日の排気筒モニタ指示値の推移

(2) 測定の状況

原子力規制庁編「連続モニタによる環境γ線測定法」（平成 29 年改訂）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 気象

ア．降水等の影響

空間放射線量率は、降水による大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下により上昇する。

また、降水による空間放射線量率の上昇幅は、雨の降り方（急に強く降ったか否か）や降水強度（1時間あたりの降水量）により大きく変動すると考えられる。

空間放射線量率の上昇が見られた８月７日 18 時以降、降水が確認されており、降水とともに全モニタリングポストの指示値が上昇している。(図１参照)

また、８月７日及び８日の空間放射線量率及び降水量の測定結果を表２に示す。降水量は８月７日 21 時より１時間あたり 17.0mmの雨が観測されていること、並びに雨の降り方は急に強くなっており空間放射線量率が大きく上昇する際の特徴と合致していることから、雨の降り方が空間放射線量率が高くなった要因の一つと考えられる。

表２　空間放射線量率及び降水量の測定結果

対象月日	時刻	降水量 (mm)	ＭＰ－１ 1時間値 (nGy/h)
８月７日	18 時～19 時	2.0	59
	19 時～20 時	2.0	50
	20 時～21 時	3.0	47
	21 時～22 時	17.0	72
	22 時～23 時	2.5	90
	23 時～24 時	0.0	60
８月８日	24 時～ 1 時	0.0	45
	1 時～ 2 時	0.5	41
	2 時～ 3 時	0.5	52
	3 時～ 4 時	0.0	47
	4 時～ 5 時	0.0	41

(注) 1　対照期間（直近）の測定値の範囲を超過した測定値は網掛けとした。

2　気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所 気象観測所

イ．雷の状況

雷（落雷又は雷雲）による制動X線やγ線などが空間線量率の測定値に影響することがある。雷観測データを確認したところ、空間放射線量率が上昇していた８月７日の 21 時 45 分から 21 時 50 分の間に発電所付近に落雷が発生していること、また雷活動度が３（地上への落雷が発生し雷雲の成熟期に相当）であったことから、当該時間帯に雷雲が発生していたと考えられる。

そのため最高値が発生した時刻のスペクトルデータを解析した結果、高エネルギー領域の上昇はなく、雷の影響は見られなかった。(図３参照)

なお、最高値が発生した８月７日 22 時 00 分から 22 時 10 分の 10 分値において発電所付近に落雷又は雲放電は発生していない。

(4) 人工放射性核種の確認

ア．モニタリングポストのスペクトル解析

当該時刻のスペクトルデータを解析した結果、天然放射性核種の Pb-214、Bi-214 及び平常時も見られる K-40 のピークが顕著に見られたが、人工放射性核種のピークは見られなかった。(図３参照)

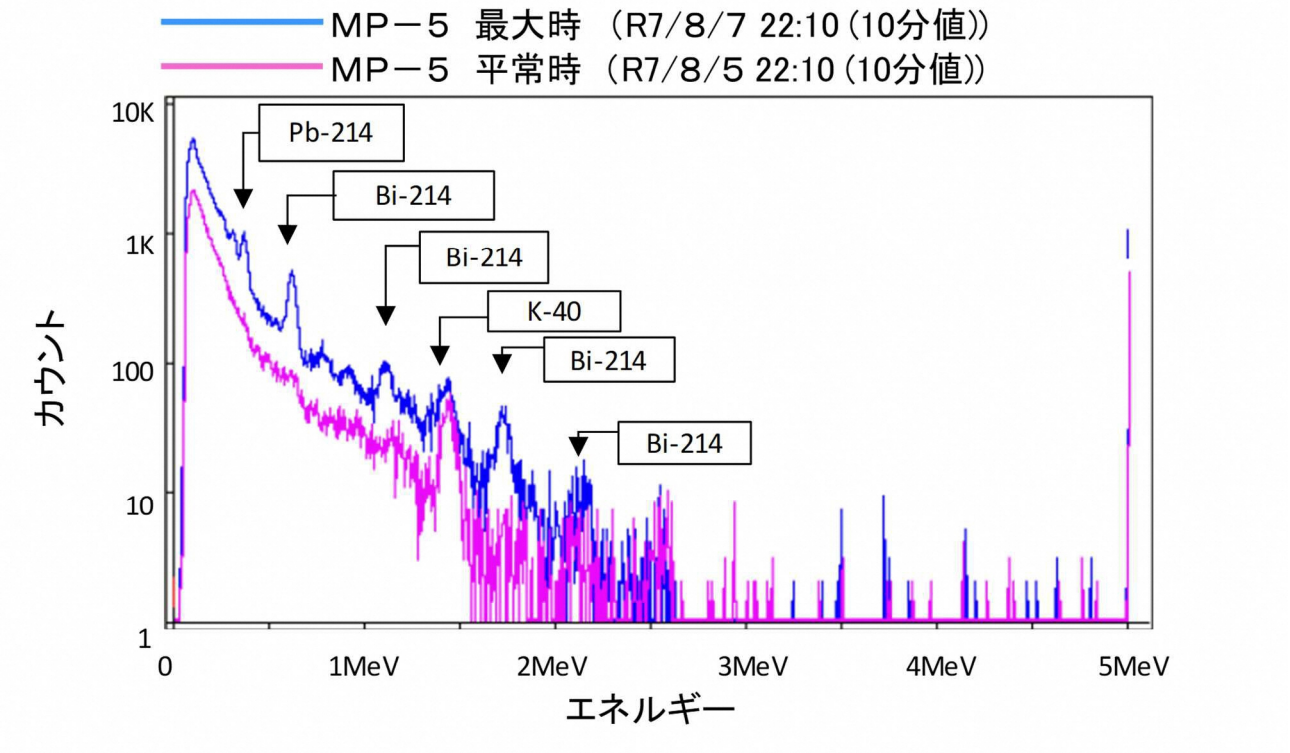


図３　スペクトルデータ（令和７年８月７日）

（注）スペクトルデータは、全９地点のうち、最高値が発生したＭＰ－５を代表として示した。

イ．環境試料中の人工放射性核種の検出状況

ＭＰ－１、５、８に併設したダストモニタで捕集したろ紙(浮遊じん)を取り外して核種分析(機器分析)を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

(5) 外部要因

ア．周辺環境の変化

当該期間において、モニタリングポストの周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

当発電所の作業状況から、モニタリングポスト近傍で非破壊検査等の実施はなかった。

３　推定原因

調査結果より、ＭＰ－１、２、３において１時間値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超え、ＭＰ－１、２、３、４、５において 10 分値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所からの影響によるものではなく、降水とともに大気中の天然放射性核種が地表に降下したためと推定した。

以　上

参考資料２　令和７年度第２四半期の積算線量の測定結果について

令和７年度第２四半期に測定した積算線量について、柏崎市与三の測定値が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和７年度第２四半期における柏崎市与三の積算線量の測定結果を表１に示す。また、同地点の積算線量の推移を図１に示す。

表１　積算線量の測定結果

（単位：mGy/91 日）

測定地点	令和７年度第２四半期の測定結果 （積算開始：R7. 6.12 積算終了：R7. 9.11 積算期間： 91 日間）	対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
		＜ 直 近 ＞ 直近５カ年の 第２四半期 (R2～R6年度)	＜事前＞ 事前調査期間 (S57.4～S59.12)
柏崎市与三	0.14	0.13	0.10 ～ 0.15

（注）１　超過した測定値は網掛けとした。
　　２　事前調査機関の測定値は、熱蛍光線量計（TLD）による値である。

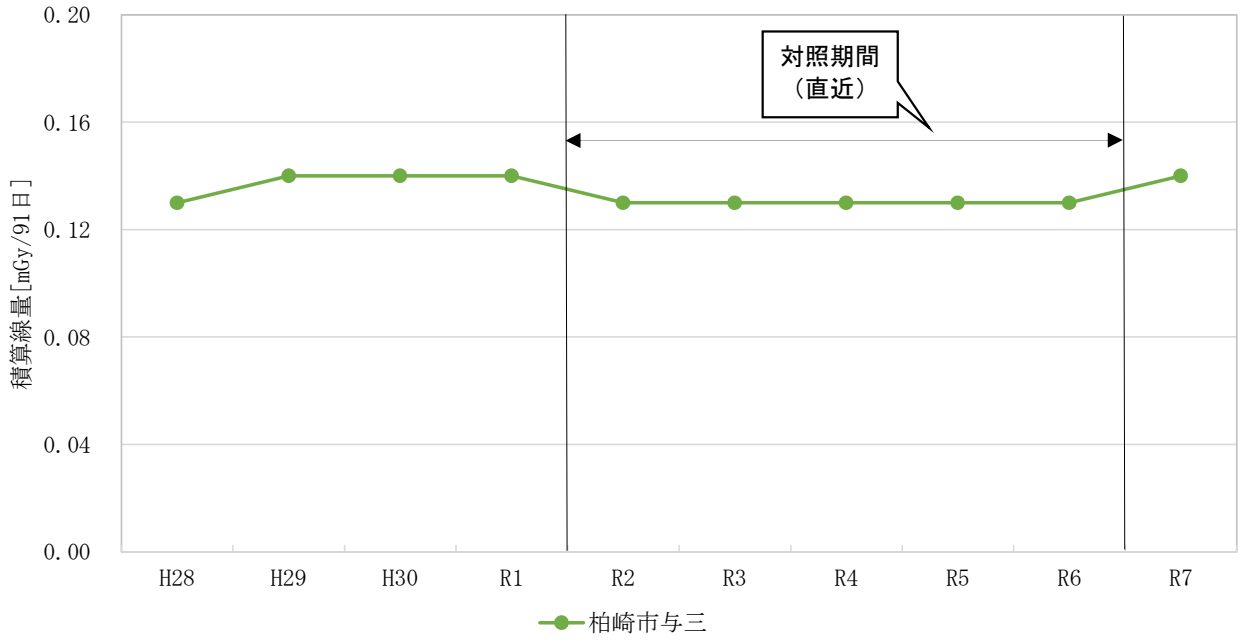


図１　積算線量の推移(第２四半期)

2　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間（※）において、１から７号機の原子炉は稼働していなかった。

令和７年度第２四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和７年６月 12 日から９月 11 日

(2) 測定の状況

文部科学省のマニュアル（※）に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法（平成 14 年）」

(3) 外部要因

ア．周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

発電所構内（屋外）及び発電所近傍の構外において非破壊検査は実施していない。

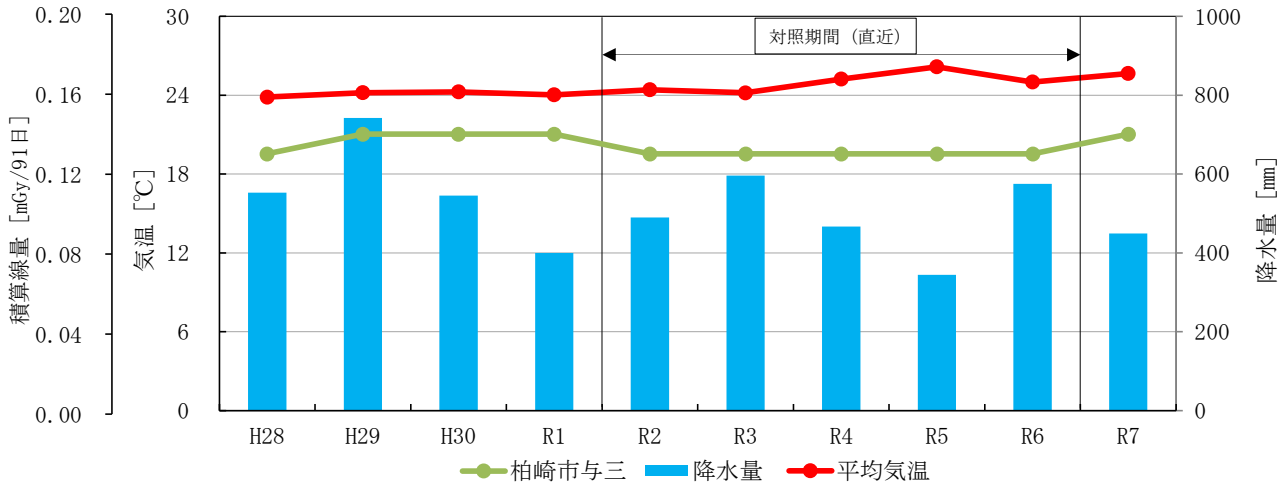
(4) 気象

ア．気温、降水等の影響

積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

第２四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図２に示す。また、降水日数と積算線量の比較を表２に示す。

これによると令和７年度第２四半期について、平均気温、降水量及び降水日数は平年並みであった。



（注）気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所

図２　第２四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移

表２　第２四半期における降水日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間（直近）				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		32	43	39	39	28	38
積算線量 (mGy/91 日)	柏崎市与三	0.14	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13

（注）降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、
令和７年度より多い降水日数を網掛けとした。

イ．雷の影響

雷（落雷又は雷雲）による制動Ｘ線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

令和７年度第２四半期のモニタリングポストのNaI(Tl)シンチレーション検出器において、雷による制動Ｘ線及びγ線による空間放射線量率の上昇が見られないことから、雷による積算線量の増加はないと考えられる。

３　推定原因

調査結果より、令和７年度第２四半期における柏崎市与三の測定値が、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以　上

参考資料３　令和７年度第２四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について

令和７年８月 31 日に集じんしたダストモニタにおける集じん終了直後の全ベータ放射能（以下、β濃度と記す。）が対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

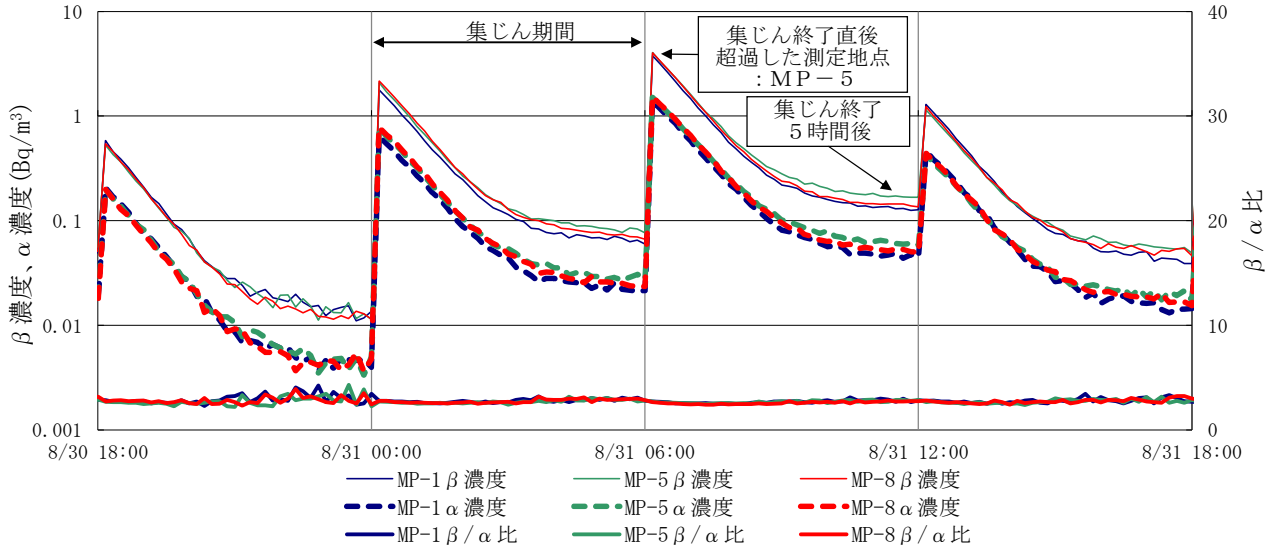
１　測定状況

集じん終了直後のβ濃度の測定結果を表１に示す。また、同時間帯のダストモニタ測定値、空間放射線量率及び排気筒モニタ指示値の推移を図１から図３に示す。

表１　集じん終了直後の測定結果

対象年月日 （集じん期間）	測 定 地 点	集じん終了直後の β濃度（Bq/m^3）	対照期間の測定結果 （測定値の範囲） ＜直近＞ 直近５カ年の第２四半期 （R2～R6 年度）
令和７年８月 31 日 （0 時 00 分～6 時 00 分）	ＭＰ－１	3.8	0.079 ～ 4.4
	ＭＰ－５	4.0	0.068 ～ 3.9
	ＭＰ－８	4.0	0.077 ～ 4.4

（注）１　超過した測定値は網掛けとした。



（注）β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。

図１　ダストモニタ測定値の推移（令和７年８月 30 日～８月 31 日）

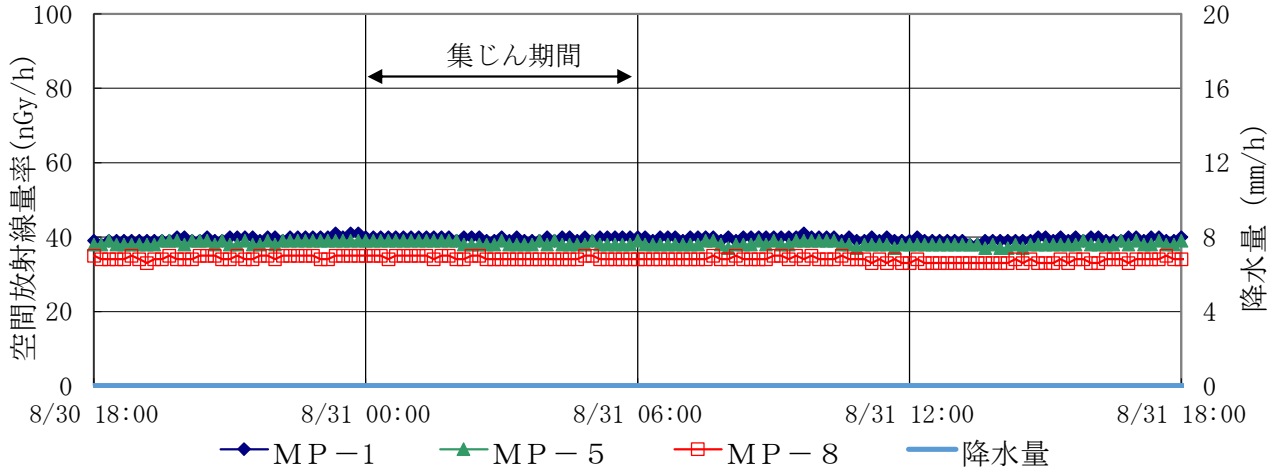


図２　空間放射線量率の推移（令和７年８月 30 日～８月 31 日）

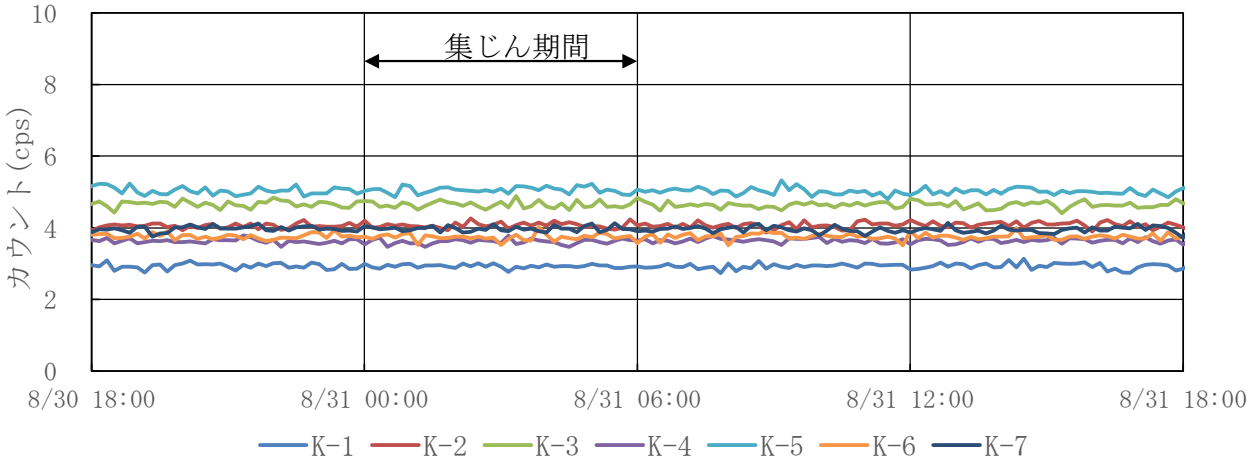


図３　排気筒モニタ指示値の推移（令和７年８月 30 日～８月 31 日）

２　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

当該集じん期間である令和７年８月 31 日において、１から７号機の原子炉は停止していた。

令和７年度第２四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

なお、当該集じん期間において、モニタリングポストにおける空間放射線量率及び排気筒モニタの指示値に有意な変動はなかった。（図２及び図３参照）

(2) 測定の状況

原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和４年制定）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 測定値の時系列変化

全アルファ放射能（以下、α濃度と記す。）、β濃度ともに集じん終了直後から減衰し、原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和４年制定）解説Ｅ　図E-2に示す天然放射性核種の減衰パターンとほぼ一致した。このことから、当該時間帯のα濃度、β濃度は天然放射性核種に由来するものと考えられる。（図１参照）

(4) 人工放射性核種の確認

ＭＰ－１、５、８に併設したダストモニタで捕集したろ紙(浮遊じん)を取り外して核種分析(機器分析)を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

(5) その他

表２に示すように、当該集じん期間における集じん終了直後のβ/α比は、対照期間（直近）の範囲内であり、有意な変動はなかった。

表２　集じん終了直後の β/α 比

対象年月日 (集じん期間)	測 定 地 点	集じん終了直後の β/α比	直近５カ年の 第２四半期の範囲 (R2～R6年度)
令和７年８月31日 (0時00分～6時00分)	ＭＰ－５	2.7	2.3 ～ 3.6

３　推定原因

調査結果より、令和７年度第２四半期におけるβ濃度が、対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと及び同地点のダストモニタにおける浮遊じんの核種分析結果（機器分析）において人工放射性核種は検出されなかったこと等から、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以　上

参考資料4　令和7年度第4四半期の積算線量の測定結果について

令和７年度第４四半期に測定した積算線量について、ＭＰ－９の測定値が対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

令和７年度第４四半期におけるＭＰ－９の積算線量の測定結果を表１に示す。また、同地点の積算線量の推移を図１に示す。

表１　積算線量の測定結果

（単位：mGy/91 日）

測定地点	令和７年度第４四半期の測定結果 （積算開始：R7.12.11 積算終了：R8. 3.12 積算期間： 91 日間）	対照期間の測定結果（測定値の範囲）	
		＜ 直 近 ＞ 直近５カ年の 第４四半期 （R２～R６年度）	＜事前＞ 事前調査期間 （S57.4～S59.12）
ＭＰ－９	0.16	0.10 ～ 0.13	0.10 ～ 0.14

（注）１　超過した測定値は網掛けとした。
　　２　事前調査期間の測定結果は、熱蛍光線量計（TLD）による値である。

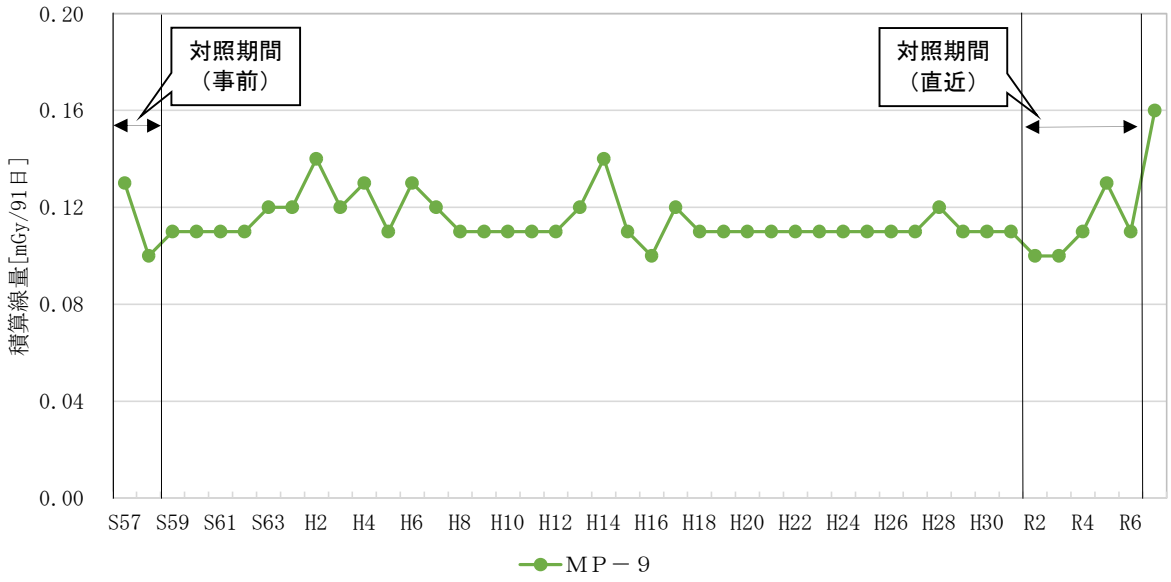


図１　積算線量の推移（第４四半期）

２　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

蛍光ガラス線量計における積算期間（※）のうち、１から５号機及び７号機の原子炉は停止していたが、令和８年１月 21 日から 22 日、２月９日から 19 日及び２月 24 日から３月 12 日において、６号機の原子炉は稼働していた。

令和７年度第３四半期から第４四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

※蛍光ガラス線量計における積算期間：令和７年 12 月 11 日から令和８年３月 12 日

(2) 測定の状況

文部科学省のマニュアル（※）に準拠し、蛍光ガラス線量計の設置、回収、測定及び校正等が適切に行われていることを確認している。

※「蛍光ガラス線量計を用いた環境γ線量測定法（平成 14 年制定）」

(3) 外部要因

ア．周辺環境の変化

測定地点の周辺環境に大きな変化がないことを確認している。

イ．非破壊検査等

発電所構内（屋外）における非破壊検査中にモニタリングポスト（ＭＰ－９）の測定値に RI 線源の影響がないことを確認している。

(4) 気象

ア．気温、降水等の影響

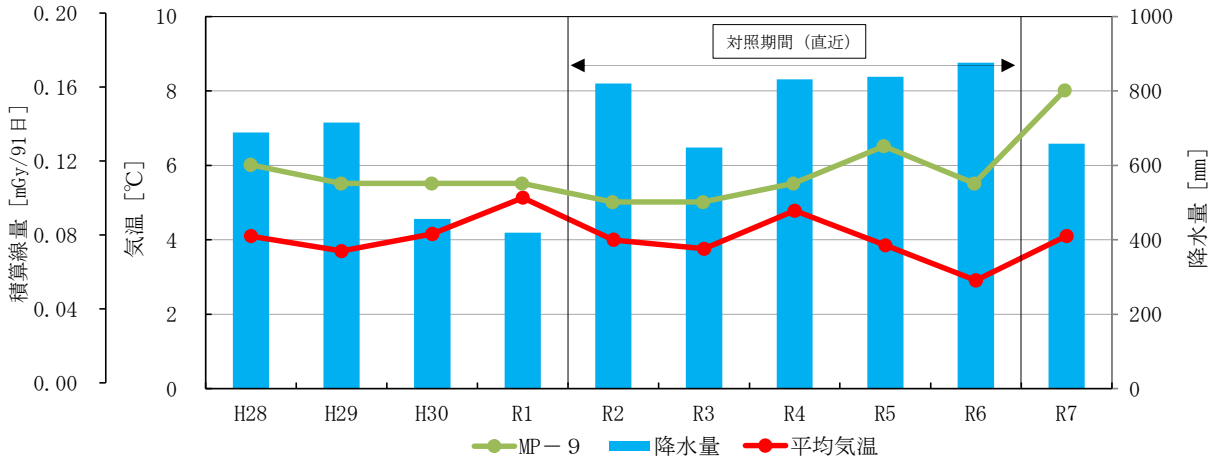
積算線量については、気温の上昇に伴う天然放射性核種の土壌から大気中への放出、降水により大気中に浮遊していた天然放射性核種の地表への降下並びに積雪により大地からの放射線が遮蔽されること等により変動すると考えられる。

第４四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移を図２に、平均積雪深及び積算線量の推移を図３に示す。また、降水日数、積雪日数及び積算線量の比較を表２に示す。

これによると令和７年度第４四半期について、平均気温は平年並みであったが、降水量及び降水日数は平年より少なめであった。

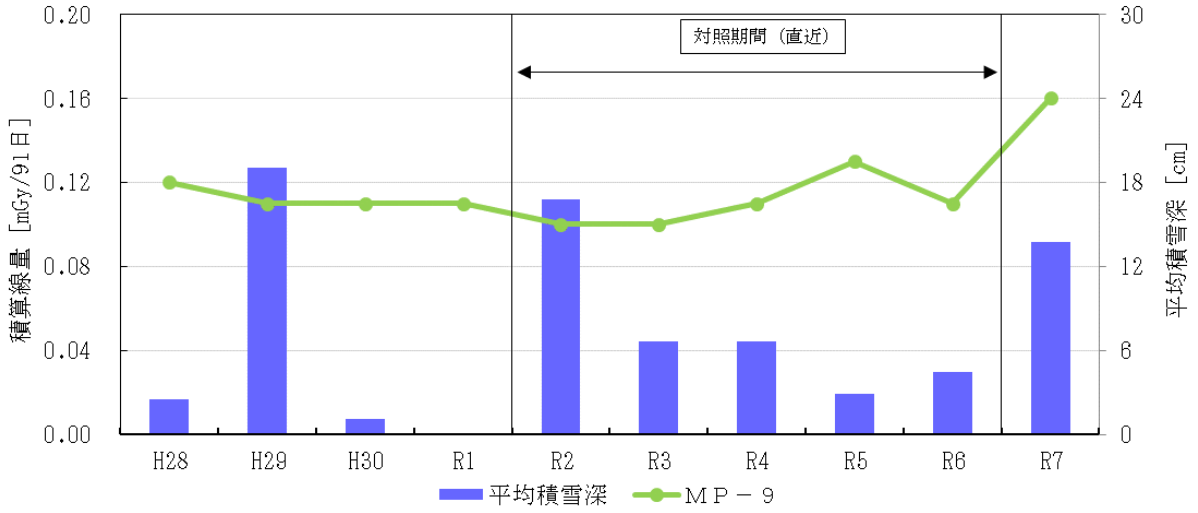
また、平均積雪深及び積雪日数は平年より多めであった。

以上を踏まえ、気温及び降水等の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性は低いと考えられる。



（気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所）

図２　第４四半期における平均気温、降水量及び積算線量の推移



（気象観測地点：柏崎刈羽原子力発電所気象観測所）

（平均積雪深：第４四半期の積算線量の積算期間における日平均値）

図３　第４四半期における平均積雪深及び積算線量の推移

表２　第４四半期における降水日数、積雪日数、積算線量の比較

年度		R7	対照期間（直近）				
			R2	R3	R4	R5	R6
降水日数(日)		67	64	75	67	72	77
積雪日数(日)		44	47	62	38	24	37
積算線量 (mGy/91 日)	ＭＰ－９	0.16	0.10	0.10	0.11	0.13	0.11

（注）１　降水日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の雨雪量計が降水を検知した日数を集計したものであり、令和７年度より多い降水日数を網掛けとした。

２　積雪日数は柏崎刈羽原子力発電所気象観測所の積雪深計が積雪を検知した日数を集計したものであり、令和７年度より多い積雪日数を網掛けとした。

イ．雷の影響

雷（落雷又は雷雲）による制動Ｘ線やγ線が積算線量の測定値に影響することがある。

蛍光ガラス線量計における積算期間において、２月２日及び２月 18 日に落雷又は雷雲によりモニタリングポスト（ＭＰ－９）の測定値に一時的な上昇が確認された。（図４、図７参照）

２月２日は、ＭＰ－９の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られたが、短時間でのわずかな上昇であったため、積算線量への影響は小さかったと考えられる。（図５、図６参照）

一方、２月 18 日は、ＭＰ－９の低線量率計及び高線量率計で上昇が見られており、短時間ではあるが、高線量率計が大きく上昇していた。（図８、図９参照）

また、ＭＰ－９近傍には避雷鉄塔があり、避雷鉄塔近傍の建物に配備していた受動形個人線量計（蛍光ガラス線量計）では、２月 17 日配備分が２月 25 日配備分より 0.089mGy 高い値を示しており、ＭＰ－９及び当該建物から落雷地点（近傍の避雷鉄塔）までの距離を換算するとＭＰ－９では 0.014mGy の影響を受けた可能性がある。（図 10 参照）

これまでの測定結果においても、平成 17 年度及び平成 25 年度に落雷が原因と推測される積算線量の上昇を確認している。

以上を踏まえ、今回も雷の影響が積算線量の上昇に寄与した可能性が考えられる。

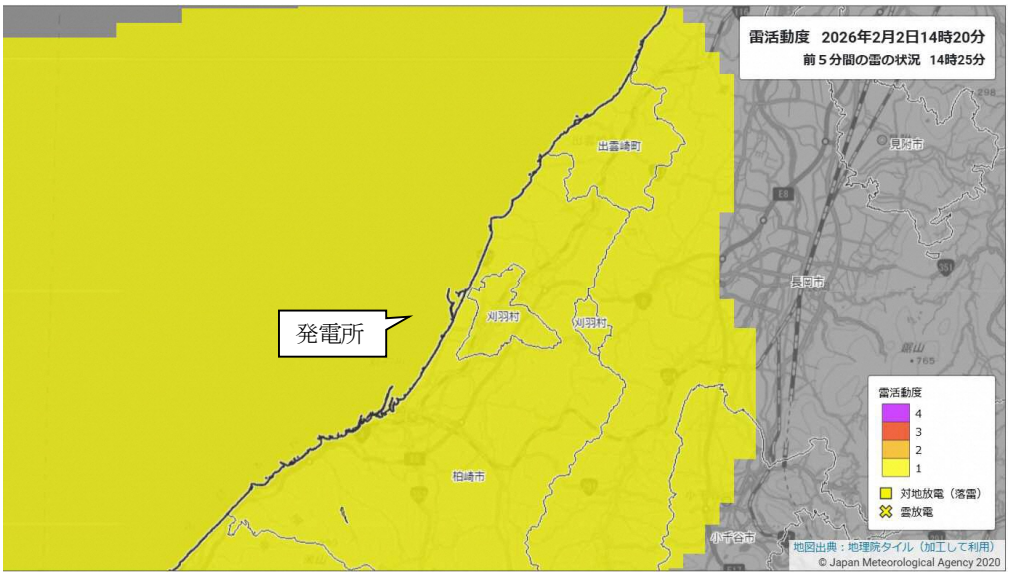


図４　雷情報（令和８年２月２日 14 時 20 分～14 時 25 分）【出典元：気象庁】

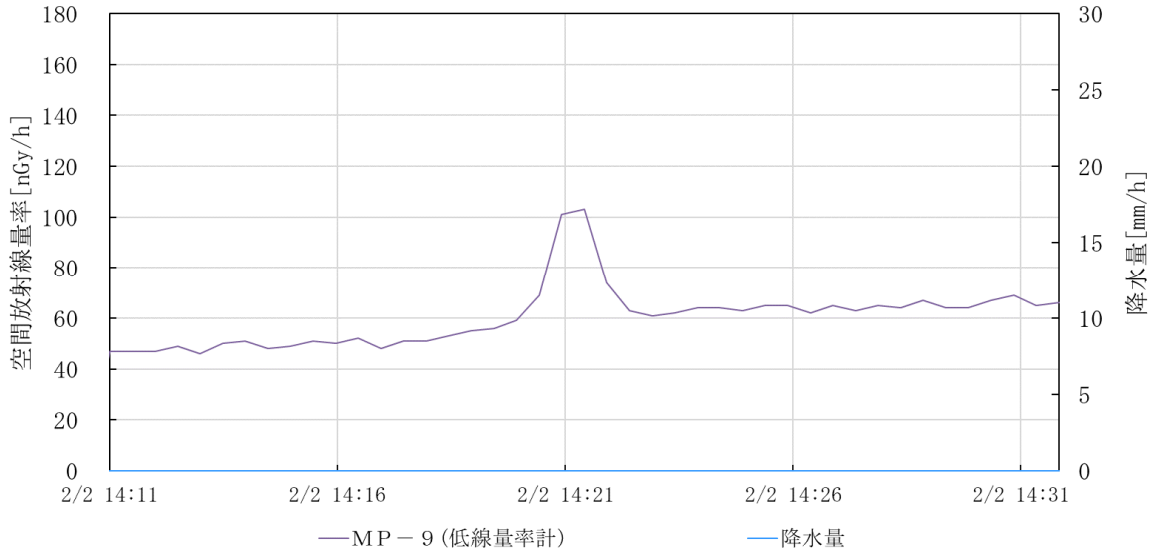


図５　令和８年２月２日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

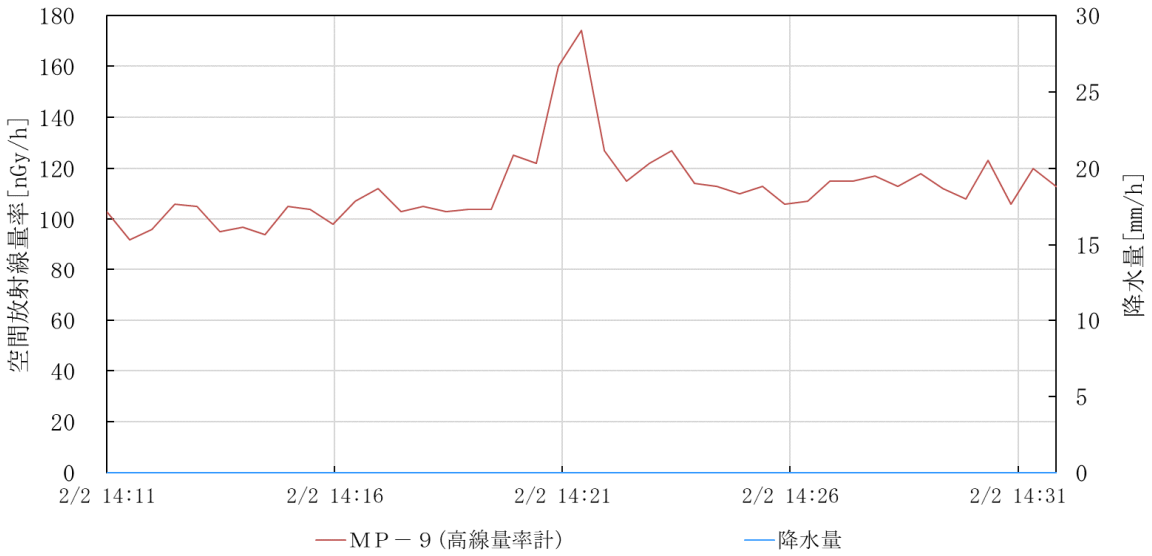


図６　令和８年２月２日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

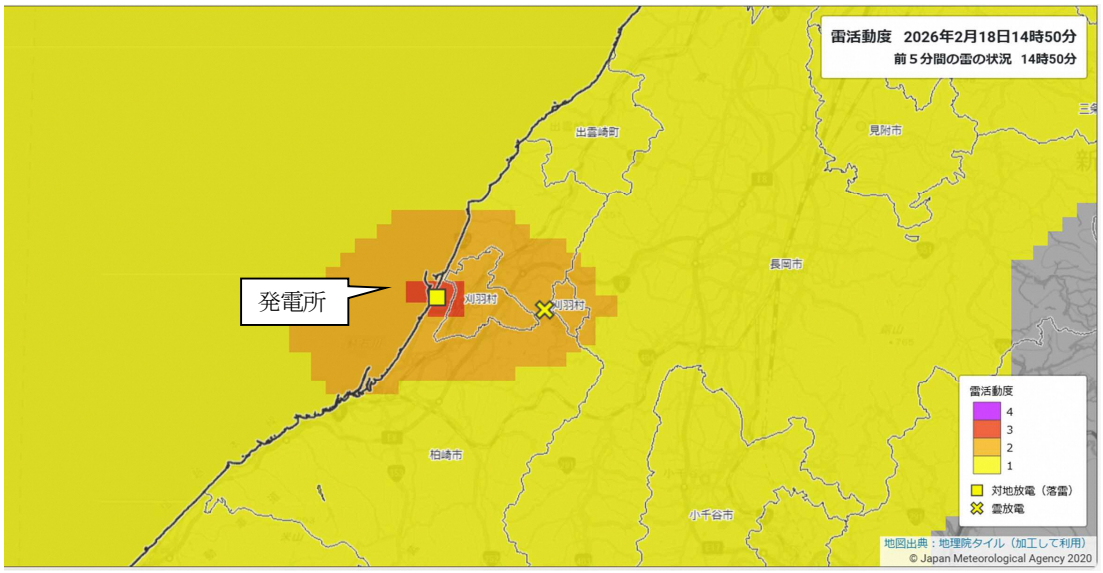


図７　雷情報（令和８年２月 18 日 14 時 45 分～14 時 50 分）【出典元：気象庁】

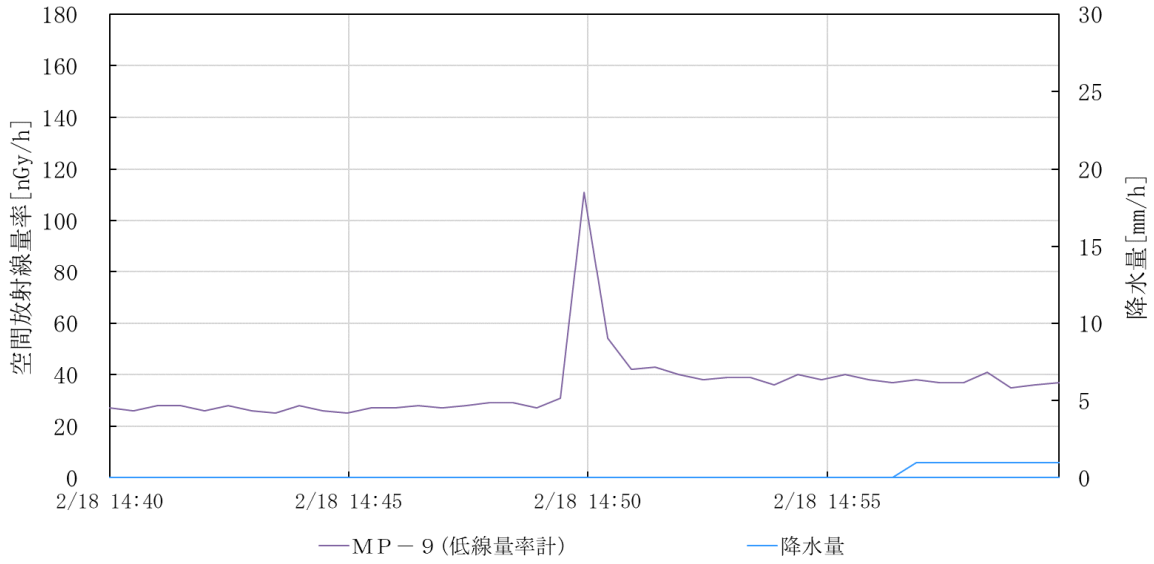


図８　令和８年２月 18 日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

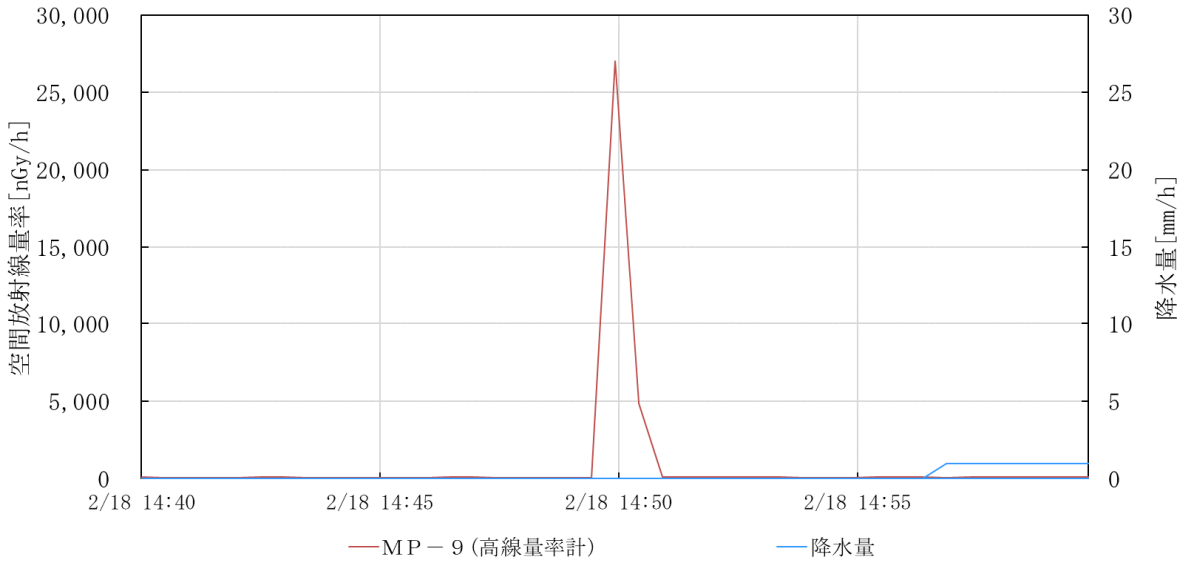


図９　令和８年２月 18 日の空間放射線量率（30 秒値）の推移

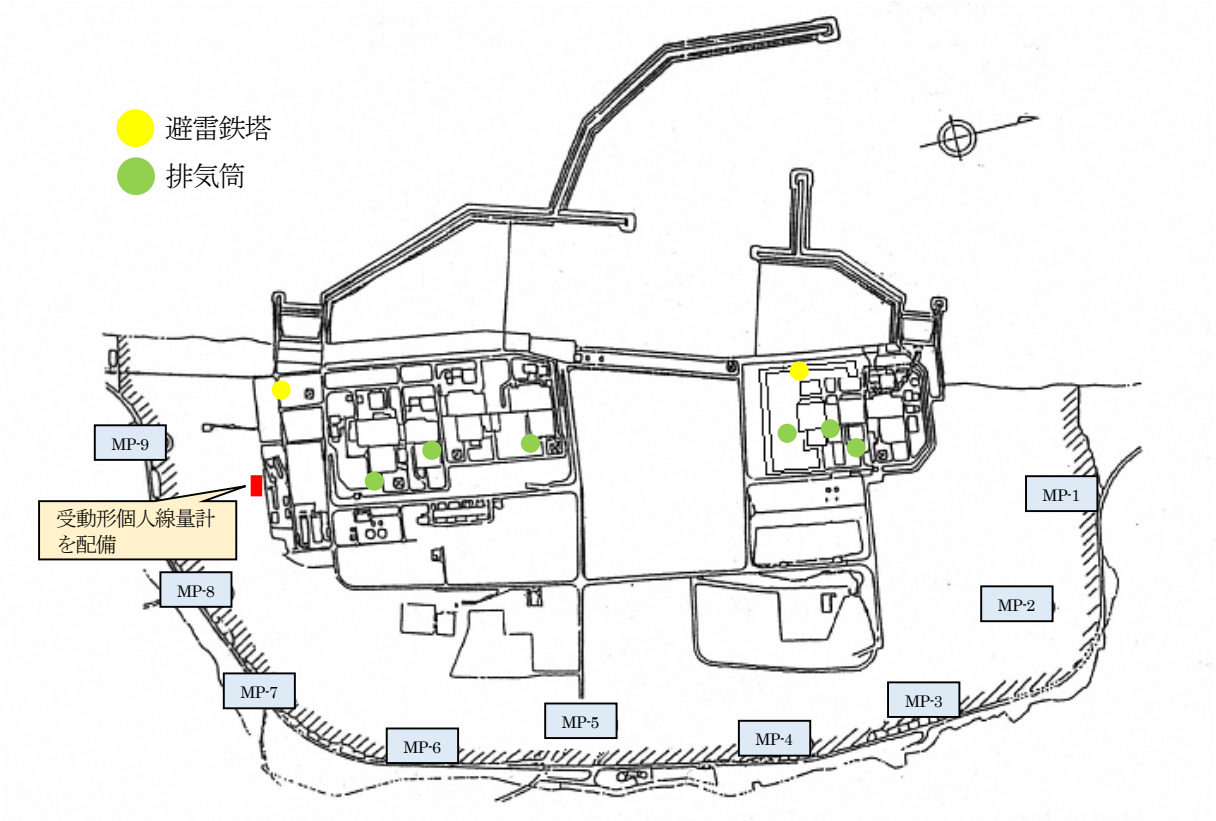


図 10　構内配置図

3　推定原因

調査結果より、令和７年度第４四半期におけるＭＰ－９の測定値が、対照期間（直近及び事前）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと等から、当発電所の影響によるものではなく、雷による影響の可能性が考えられる。

以　上

参考資料５　令和７年度第４四半期の浮遊じんの全ベータ放射能の測定結果について

令和８年２月 26 日、２月 27 日及び３月 19 日に集じんしたダストモニタにおける集じん終了直後の全ベータ放射能（以下、β濃度と記す。）が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた。

また、３月 26 日及び３月 30 日における集じん終了５時間後のβ濃度が同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えたため、以下のとおり調査を行った。

１　測定状況

集じん終了直後のβ濃度の測定結果を表１に、集じん終了５時間後のβ濃度の測定結果を表２に示す。また、同時間帯のダストモニタ測定値、空間放射線量率及び排気筒モニタ指示値の推移を図１から図 15 に示す。

表１　集じん終了直後の測定結果

対象年月日 （集じん期間）	測定地点	集じん終了直後の β濃度（Bq/m³）	対照期間の測定結果 （測定値の範囲）	
			＜直近＞ 直近５カ年の 第４四半期 (R2～R6 年度)	＜直近＞ 直近５カ年 (R2～R6 年度)
令和８年２月 26 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	ＭＰ－１	3.1	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	ＭＰ－５	2.9	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	ＭＰ－８	3.0	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4
令和８年２月 27 日 (18 時 00 分～24 時 00 分)	ＭＰ－１	2.9	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	ＭＰ－５	2.9	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	ＭＰ－８	3.1	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4
令和８年３月 19 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	ＭＰ－１	2.8	0.023 ～ 2.7	0.023 ～ 4.4
	ＭＰ－５	2.7	0.063 ～ 3.1	0.041 ～ 4.0
	ＭＰ－８	2.5	0.076 ～ 3.0	0.030 ～ 4.4

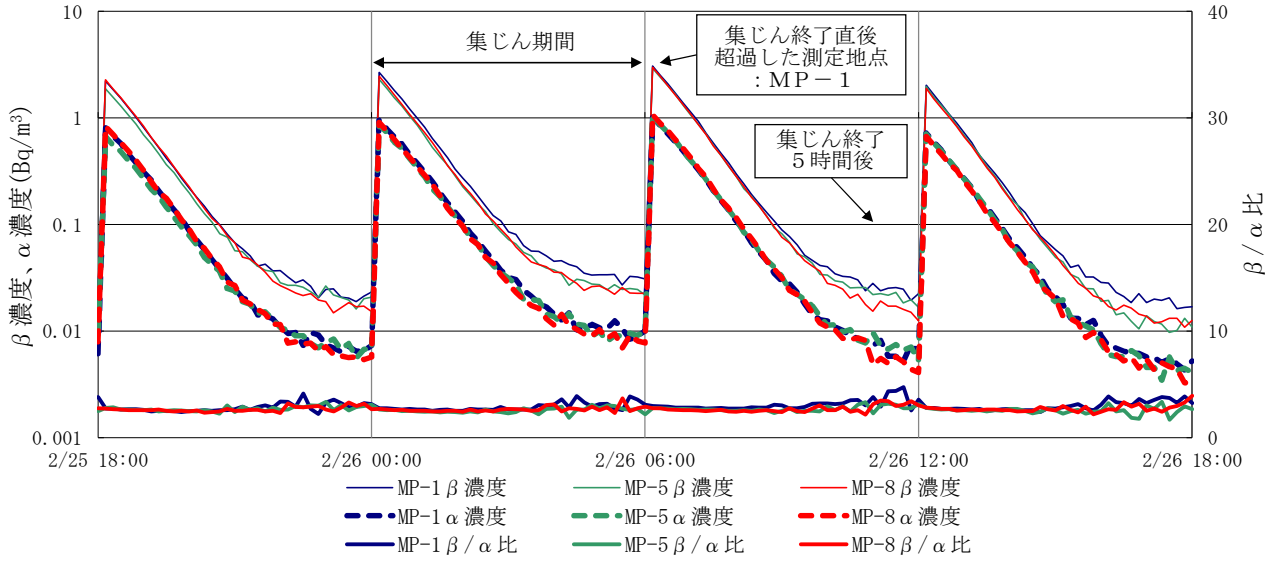
（注）　超過した測定値は網掛けとした。

表２　集じん終了５時間後の測定結果

対象年月日 （集じん期間）	測定地点	集じん終了５時間後の β濃度（Bq/m³）	対照期間の測定結果 （測定値の範囲）	
			＜直近＞ 直近５カ年の 第４四半期 （R2～R6 年度）	＜直近＞ 直近５カ年 （R2～R6 年度）
令和８年３月 26 日 （0 時 00 分～6 時 00 分）	ＭＰ－１	0.084	＊ ～ 0.078	＊ ～ 0.24
	ＭＰ－５	0.081	＊ ～ 0.098	＊ ～ 0.24
	ＭＰ－８	0.079	＊ ～ 0.095	＊ ～ 0.23
令和８年３月 30 日 （18 時 00 分～24 時 00 分）	ＭＰ－１	0.087	＊ ～ 0.078	＊ ～ 0.24
	ＭＰ－５	0.10	＊ ～ 0.098	＊ ～ 0.24
	ＭＰ－８	0.087	＊ ～ 0.095	＊ ～ 0.23

（注）１　＊は検出下限値未満を示す。

２　超過した測定値は網掛けとした。



（注）β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。

図１　ダストモニタ測定値の推移（令和８年２月 25 日～２月 26 日）

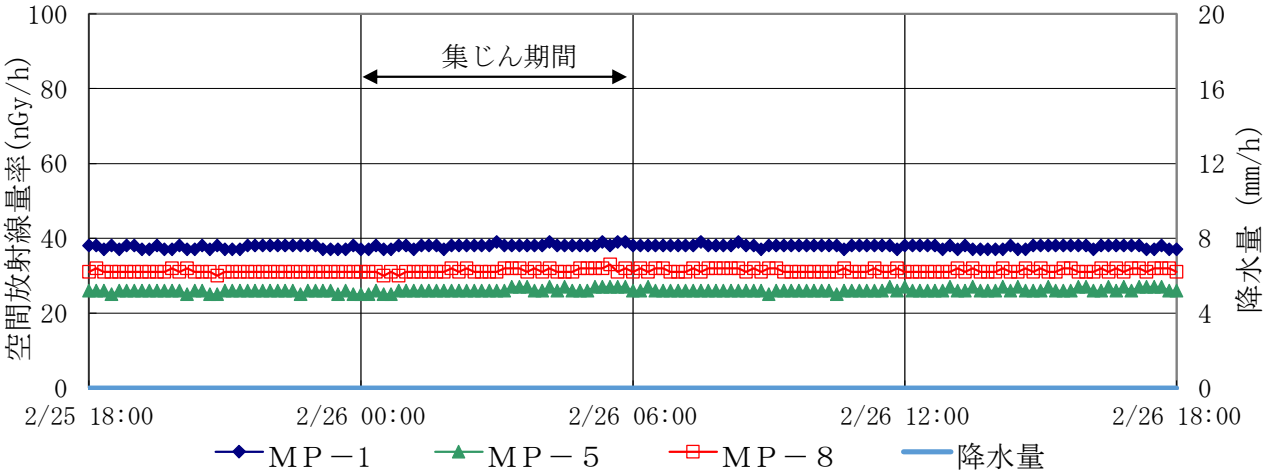


図２　空間放射線量率の推移（令和８年２月 25 日～２月 26 日）

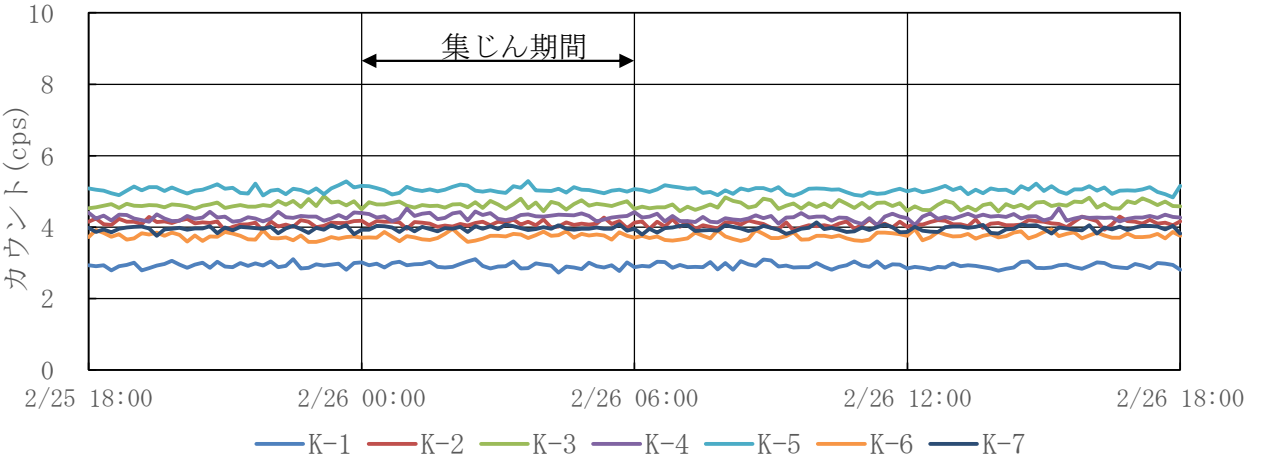
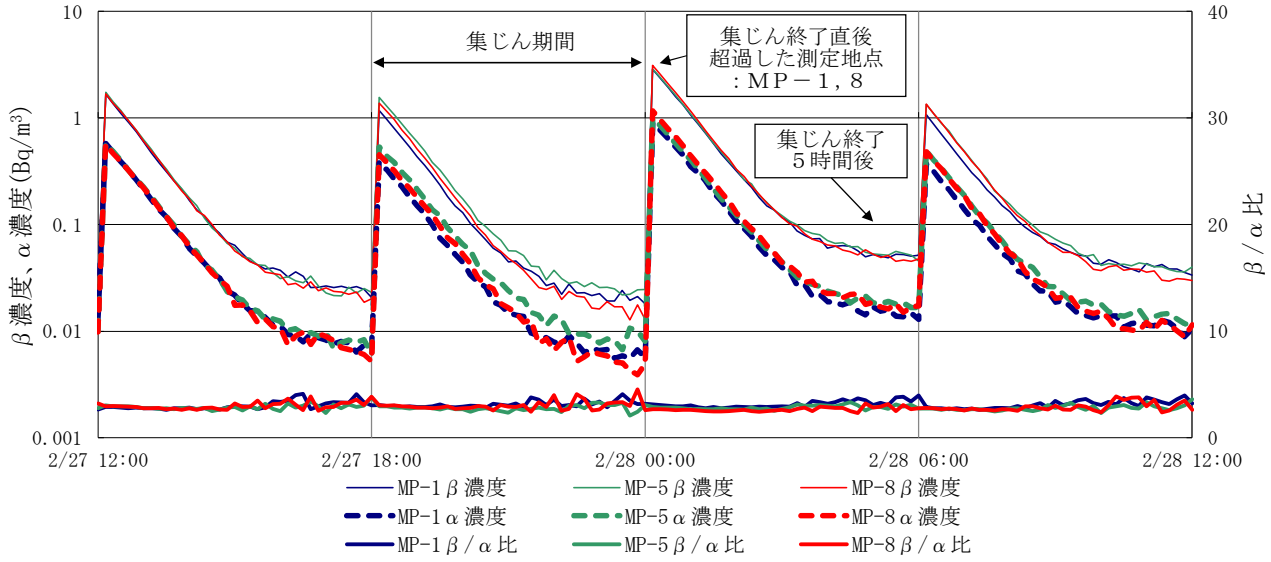


図３　排気筒モニタ指示値の推移（令和８年２月 25 日～２月 26 日）



（注）β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。

図４　ダストモニタ測定値の推移（令和８年２月 27 日～２月 28 日）

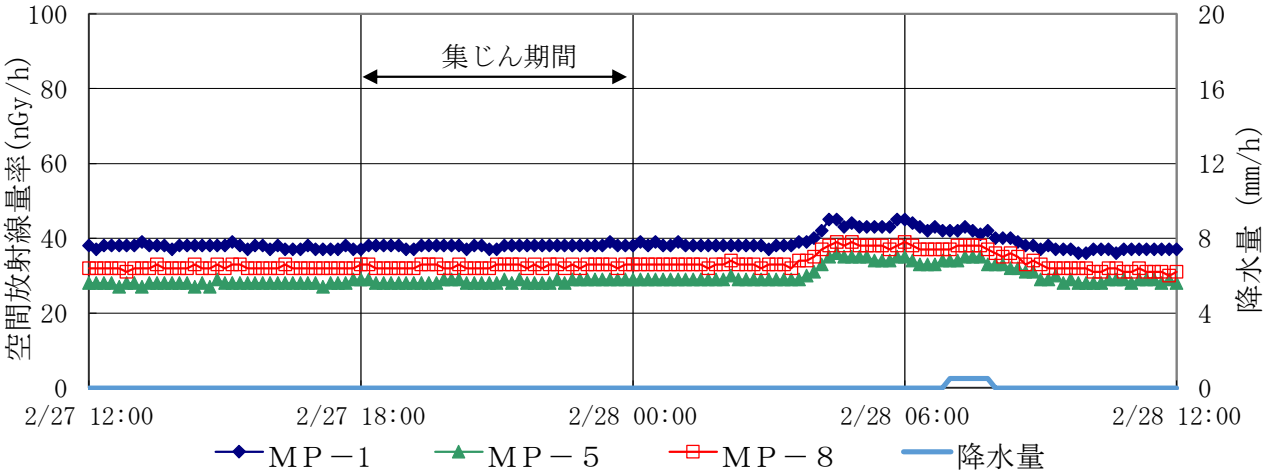


図５　空間放射線量率の推移（令和８年２月 27 日～２月 28 日）

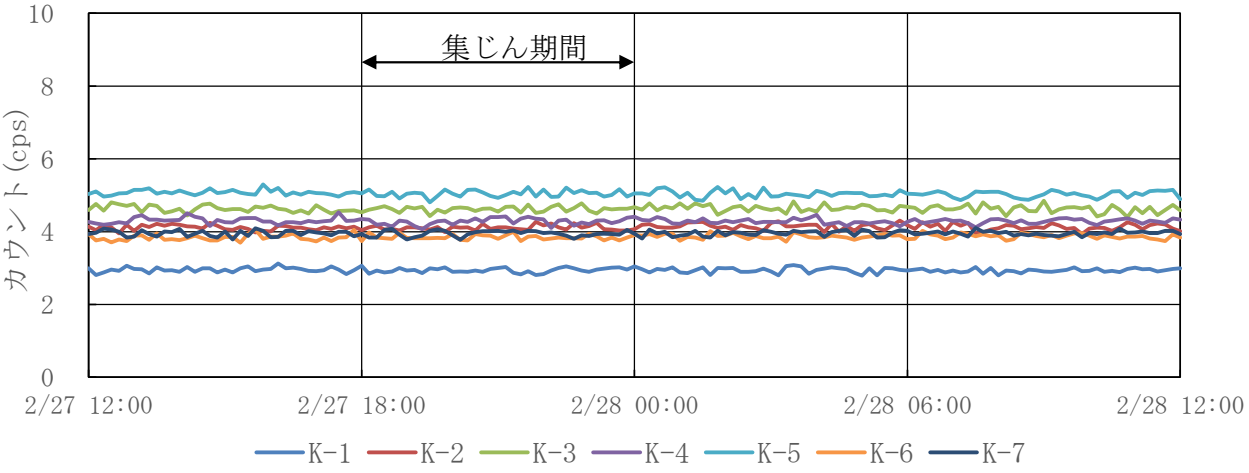
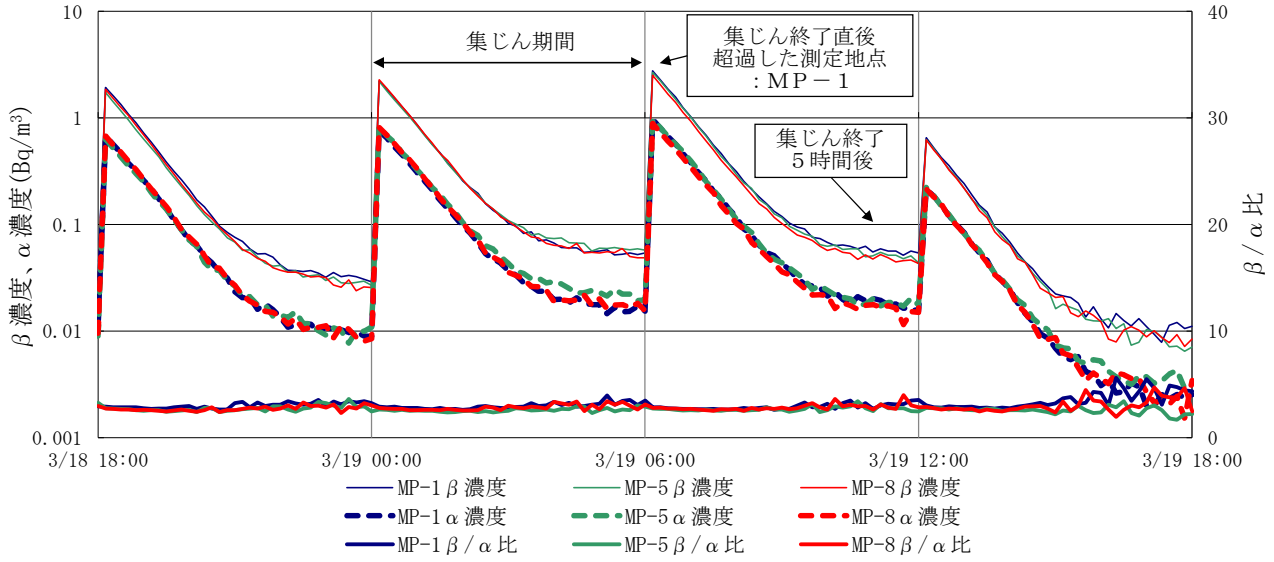


図６　排気筒モニタ指示値の推移（令和８年２月 27 日～２月 28 日）



（注）β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。

図７　ダストモニタ測定値の推移（令和８年３月 18 日～３月 19 日）

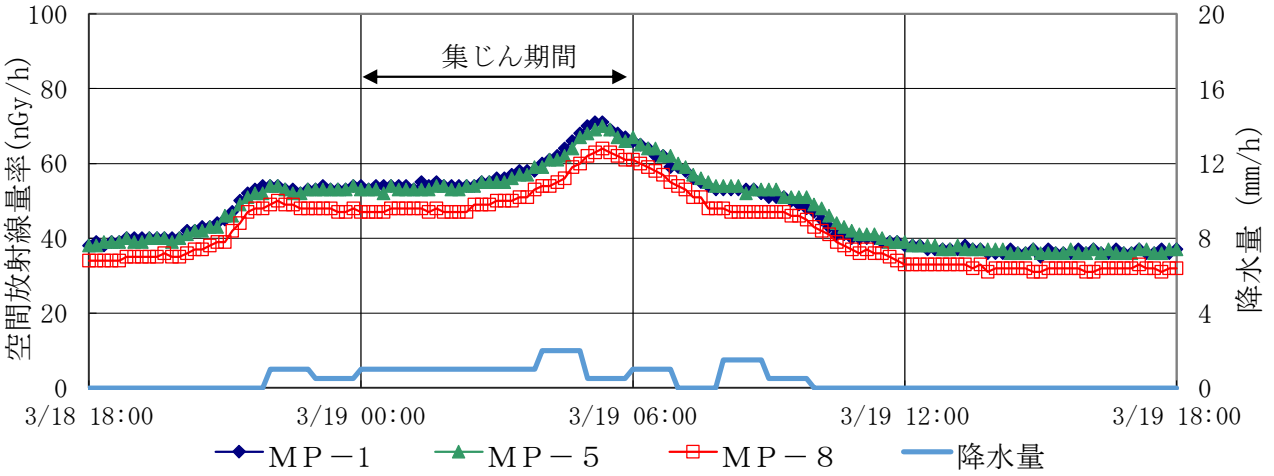


図８　空間放射線量率の推移（令和８年３月 18 日～３月 19 日）

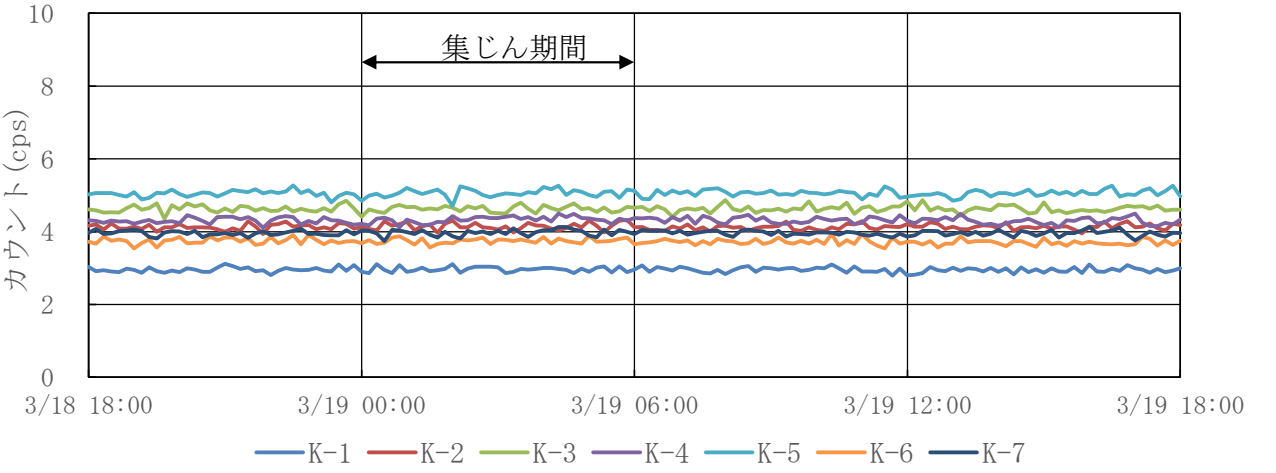
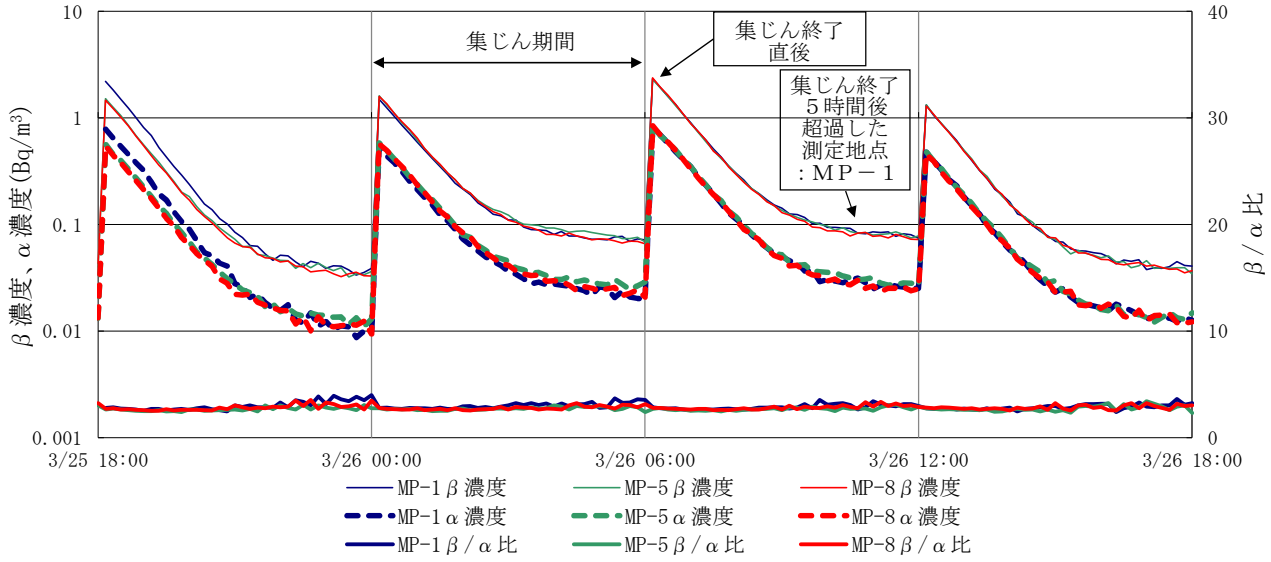


図９　排気筒モニタ指示値の推移（令和８年３月 18 日～３月 19 日）



（注）１　β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。

２　点検のためＭＰ－１に欠測あり。

図 10　ダストモニタ測定値の推移（令和８年３月 25 日～３月 26 日）

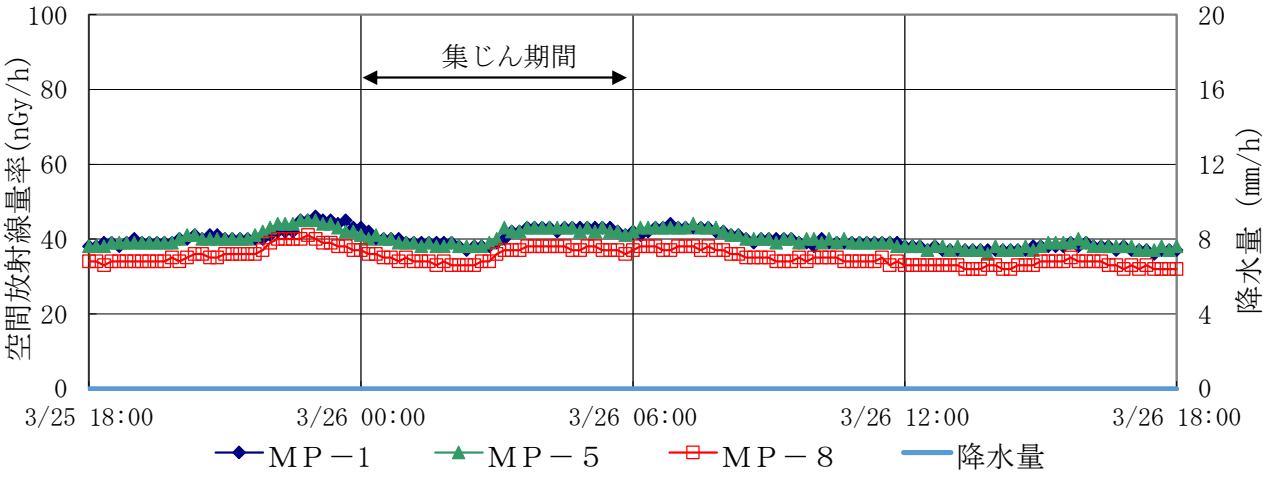


図 11　空間放射線量率の推移（令和８年３月 25 日～３月 26 日）

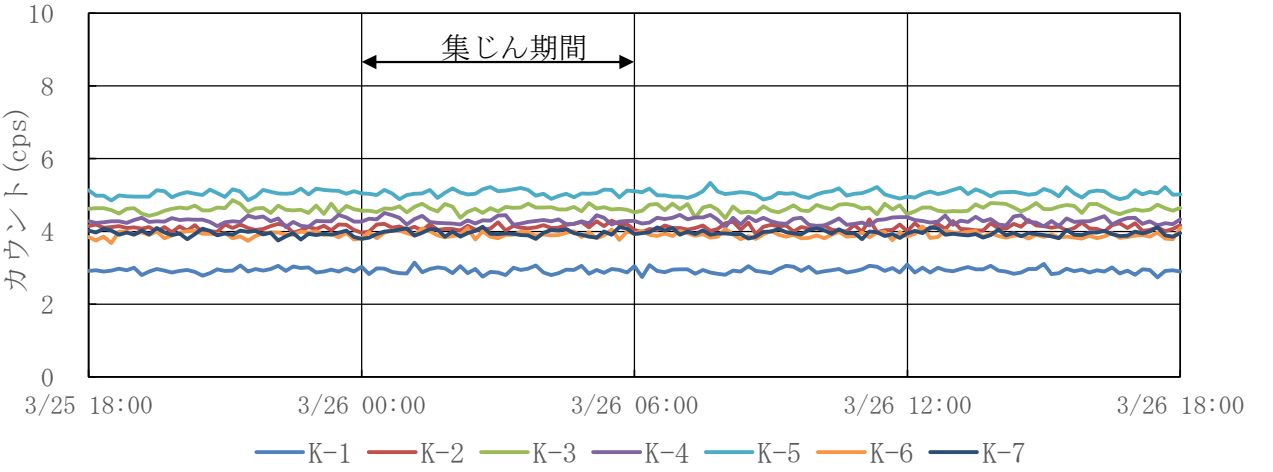
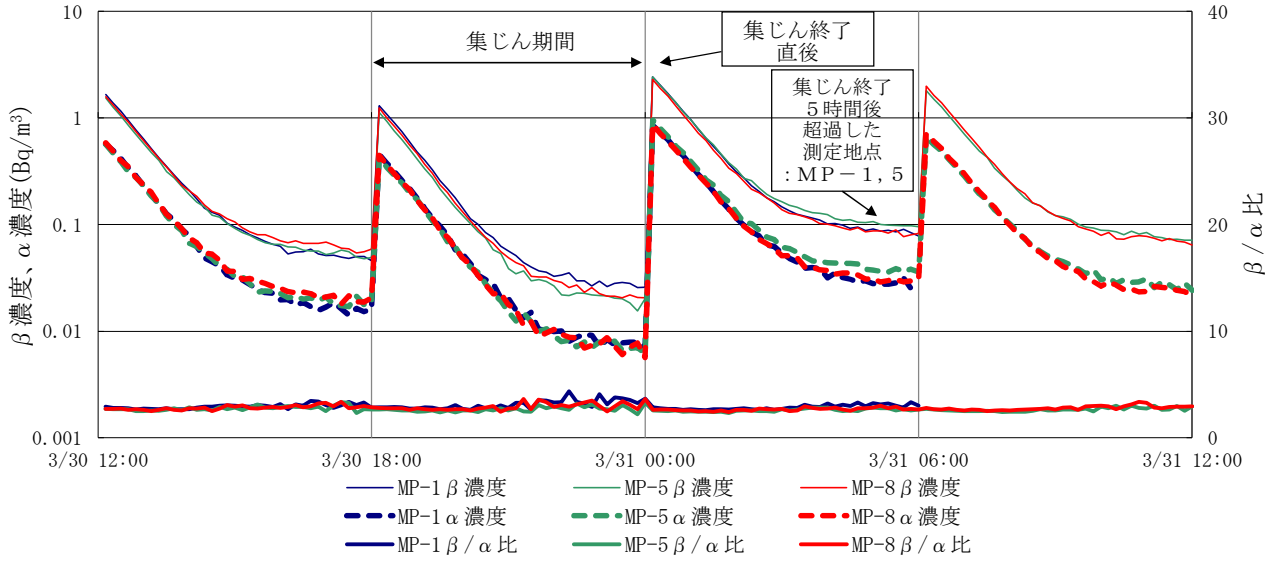


図 12　排気筒モニタ指示値の推移（令和８年３月 25 日～３月 26 日）



（注）１　β／α比とは、β濃度/α濃度を示す。
　　２　点検のためＭＰ－１、５、８に欠測あり。

図 13　ダストモニタ測定値の推移（令和８年３月 30 日～３月 31 日）

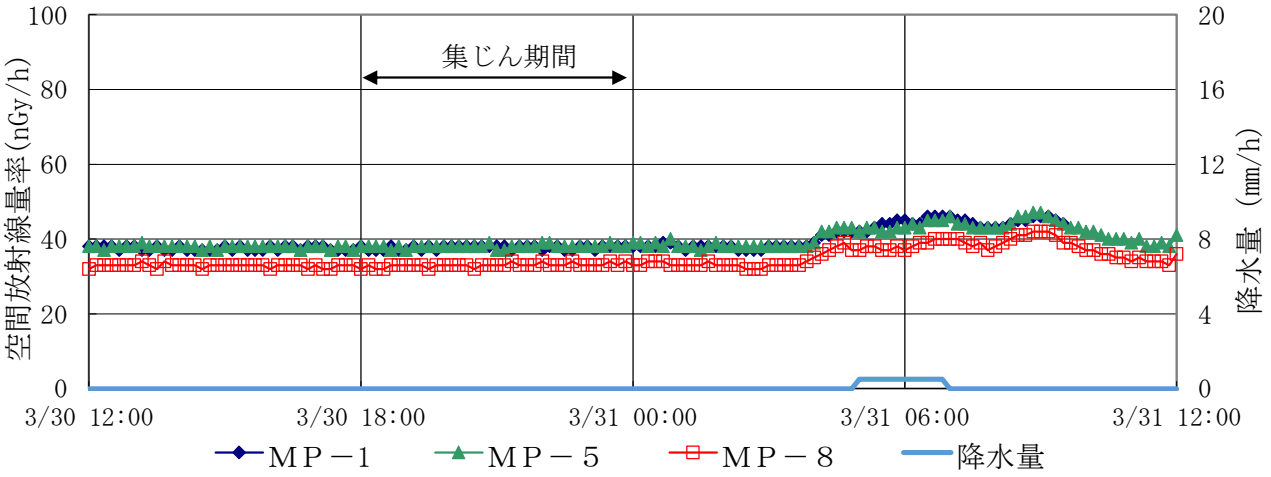


図 14　空間放射線量率の推移（令和８年３月 30 日～３月 31 日）

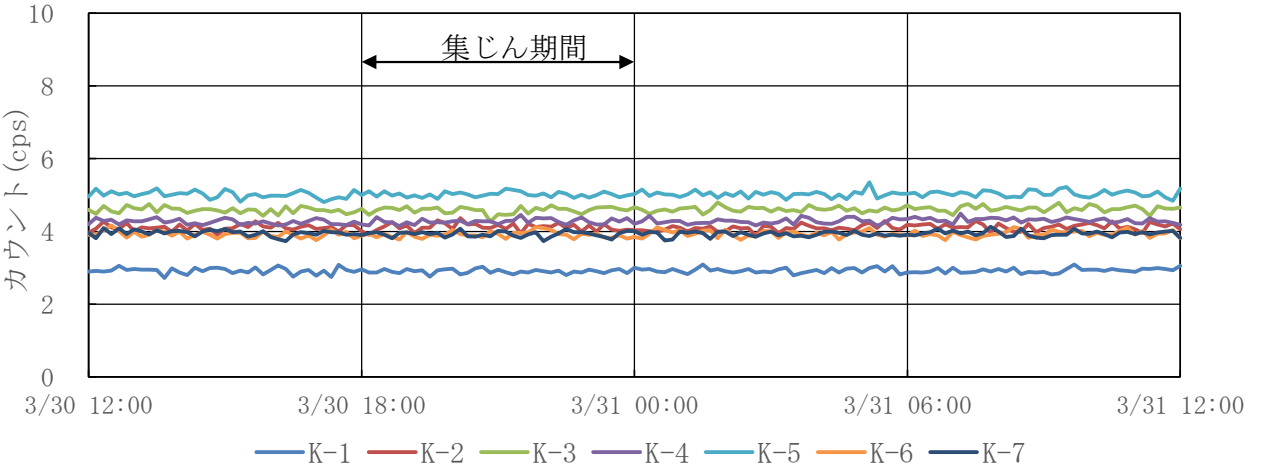


図 15　排気筒モニタ指示値の推移（令和８年３月 30 日～３月 31 日）

２　調査結果

当発電所による影響の有無について、調査した結果を以下に示す。

(1) 当発電所の状況

当該集じん期間のうち、１から５号機及び７号機の原子炉は停止していたが、令和８年２月 26 日、２月 27 日、３月 26 日及び３月 30 日において、６号機の原子炉は稼働していた。一方、３月 19 日において、１から７号機の原子炉は停止していた。

令和７年度第４四半期において、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）は検出されなかった。

さらに、当該集じん期間において、モニタリングポストにおける空間放射線量率及び排気筒モニタの指示値に降水による影響以外の有意な変動はなかった。（図２、図３、図５、図６、図８、図９、図 11、図 12、図 14 及び図 15 参照）

(2) 測定の状況

原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和４年制定）に準拠し、測定及び校正などが適切に行われていることを確認している。

また、測定装置に異常は確認されていない。

(3) 測定値の時系列変化

全アルファ放射能（以下、α濃度と記す。）、β濃度ともに集じん終了直後から減衰し、原子力規制庁編「大気中放射性物質測定法」（令和４年制定）解説 E　図 E-2 に示す天然放射性核種の減衰パターンとほぼ一致した。このことから、当該時間帯のα濃度、β濃度は天然放射性核種に由来するものと考えられる。（図１、図４、図７、図 10 及び図 13 参照）

(4) 人工放射性核種の確認

ＭＰ－１、５、８に併設したダストモニタで捕集したろ紙(浮遊じん)を取り外して核種分析(機器分析)を行った結果、人工放射性核種は検出されなかった。

(5) その他

表３に示すように、当該集じん期間における集じん終了直後のβ/α比は、同一四半期の対照期間（直近）の範囲内であり、有意な変動はなかった。

表３　集じん終了直後の β/α 比

対象年月日 （集じん期間）	測 定 地 点	集じん終了直後の β/α比	直近５カ年の 第４四半期の範囲 （R2～R6 年度）
令和８年２月 26 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	ＭＰ－１	3.0	2.4 ～ 4.2
令和８年２月 27 日 (18 時 00 分～24 時 00 分)	ＭＰ－１	3.2	2.4 ～ 4.2
	ＭＰ－８	2.7	2.4 ～ 4.0
令和８年３月 19 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	ＭＰ－１	2.9	2.4 ～ 4.2
令和８年３月 26 日 (0 時 00 分～6 時 00 分)	ＭＰ－１	2.9	2.4 ～ 4.2
令和８年３月 30 日 (18 時 00 分～24 時 00 分)	ＭＰ－１	2.9	2.4 ～ 4.2
	ＭＰ－５	2.6	2.4 ～ 4.6

3　推定原因

調査結果より、令和７年度第４四半期におけるβ濃度が、同一四半期の対照期間（直近）の測定値の範囲を超えた原因は、当発電所の放射性気体廃棄物から人工放射性核種（トリチウムを除く）が検出されていないこと及び同地点のダストモニタにおける浮遊じんの核種分析結果（機器分析）において人工放射性核種は検出されなかったこと等から、当発電所の影響によるものではなく、自然変動の可能性が考えられる。

以　上

参考資料６　環境試料中の人工放射性核種濃度の経年変化

発電所周辺の環境放射線監視調査を開始した昭和 56 年度以降、過去に行われた大気中核実験の影響によって各環境試料中から検出された人工放射性核種濃度の推移は、昭和 61 年度に発生したチョルノービリ原子力発電所事故直後に一時的な上昇が見られたものの、その後緩やかな低下傾向が見られていたが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した福島第一原子力発電所の事故によって一部の環境試料で上昇が見られた。

これまでの各環境試料の経年変化及び令和７年度における人工放射性核種の検出状況の概要は以下のとおりである。また、参考までに直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差の範囲を各グラフの下部に記載する。相対誤差は、計数誤差を測定値で割ったもの。測定値のばらつきの大きさを表す。

なお、見やすさを考慮し、グラフ中への誤差棒の表示を省略する。また、グラフ中のプロットがない期間については、同核種が検出されていないことを示す。

１．セシウム 137

(1) 浮遊じん

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

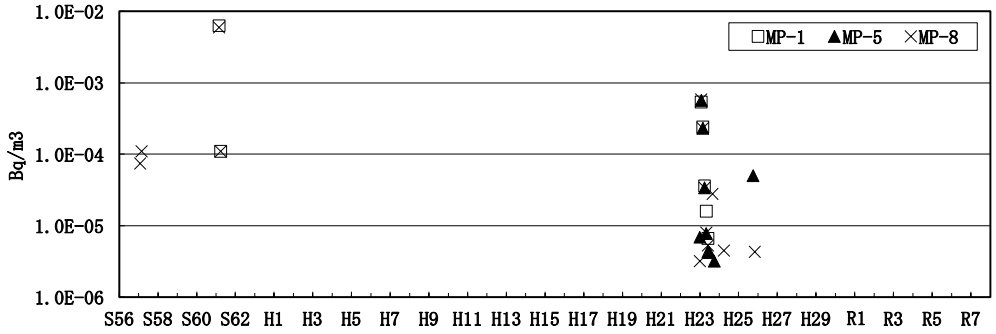


図１　浮遊じん中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（R２～R７年度が検出下限値未満のため）

(2) 飲料水

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

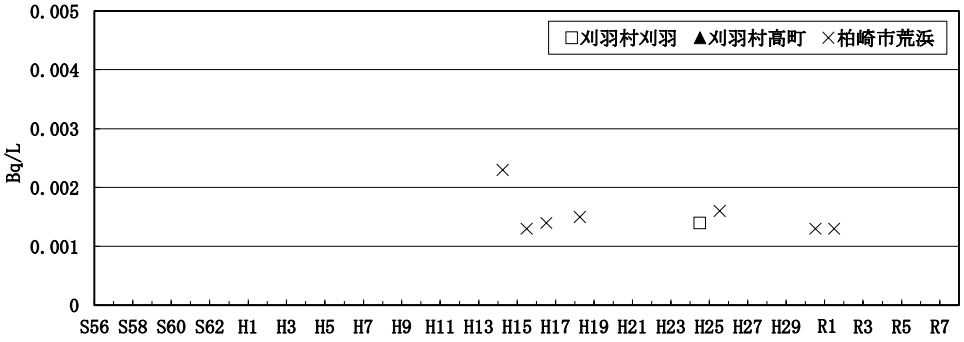


図２　飲料水中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（R２～R７年度が検出下限値未満のため）

⑶ 土壌

令和７年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

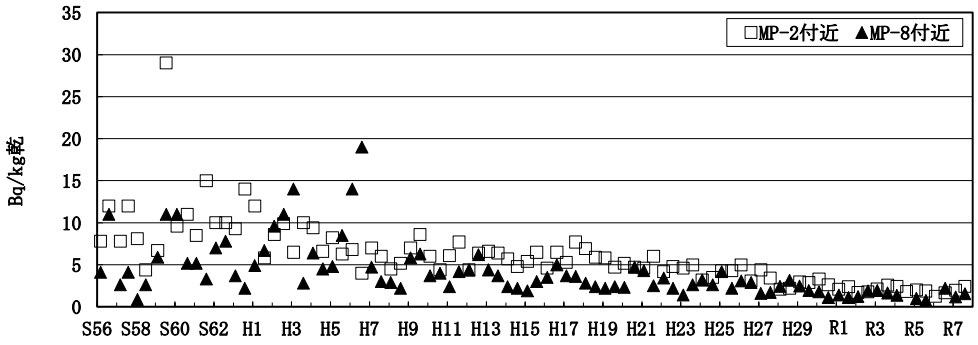


図３　土壌中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±８％～±27％

⑷ 精米

令和７年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

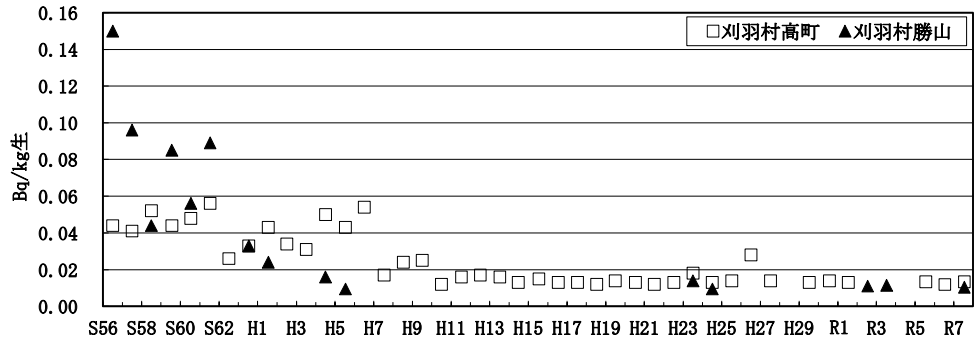


図４　精米中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±23％～±31％

⑸ キャベツ

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

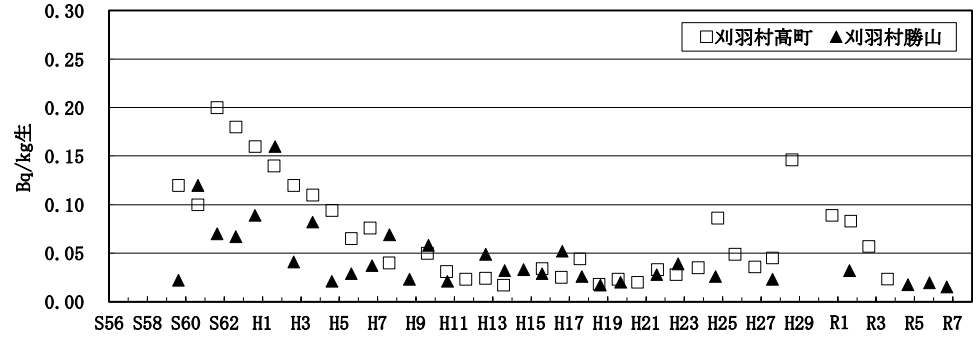


図５　キャベツ中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±９％～±30％

⑹ 大根

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

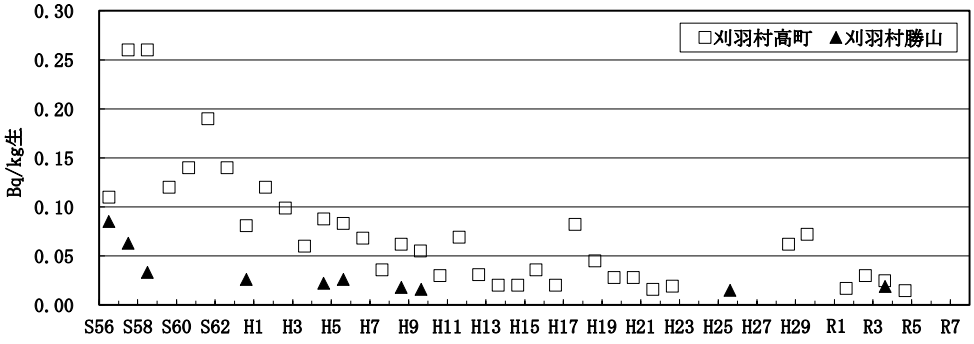


図６　大根中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±16%～±32%

⑺ 松葉

令和７年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

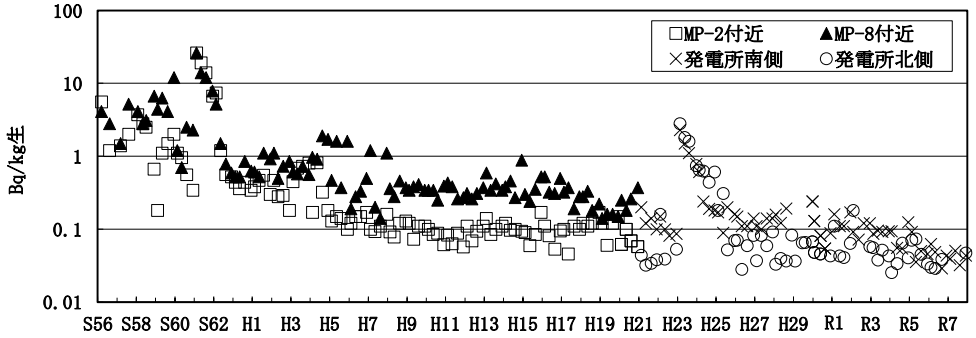


図７　松葉中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±６%～±33%

⑻ 海水

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

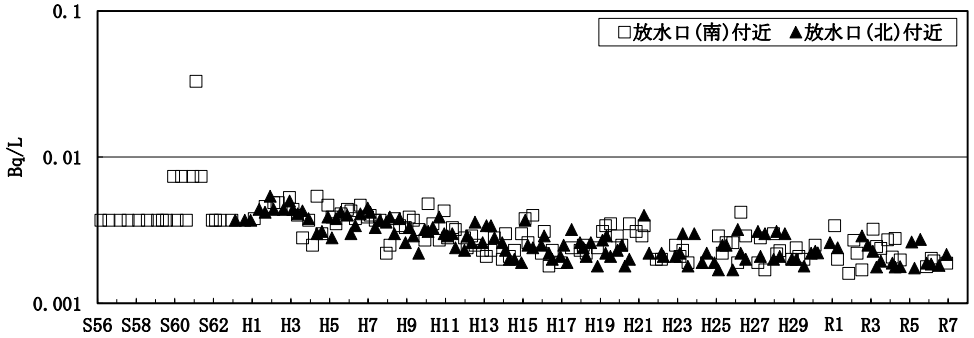


図８　海水中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±18%～±33%

⑼ 海底土

令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

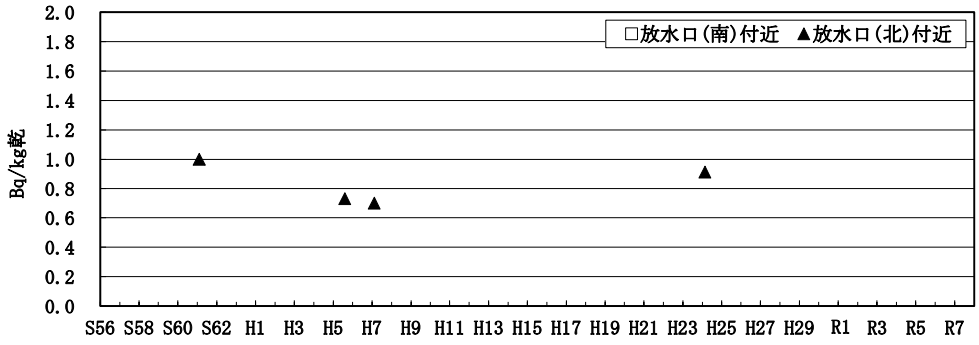


図９　海底土中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：－（Ｒ２～Ｒ７年度が検出下限値未満のため）

⑽海産物

令和７年度に検出されたセシウム 137 は、マダイとヒラメについては各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。サザエとワカメについては令和７年度にセシウム 137 は検出されず、その他の人工放射性核種も検出されなかった。

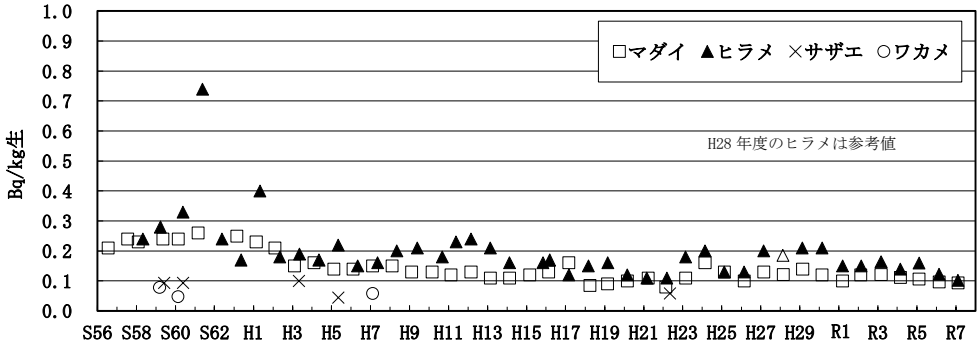


図10　海産物中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±７％～±12％

⑾ホンダワラ類

令和７年度に検出されたセシウム 137 は、各対照期間の測定値の範囲内であった。その他の人工放射性核種は検出されなかった。

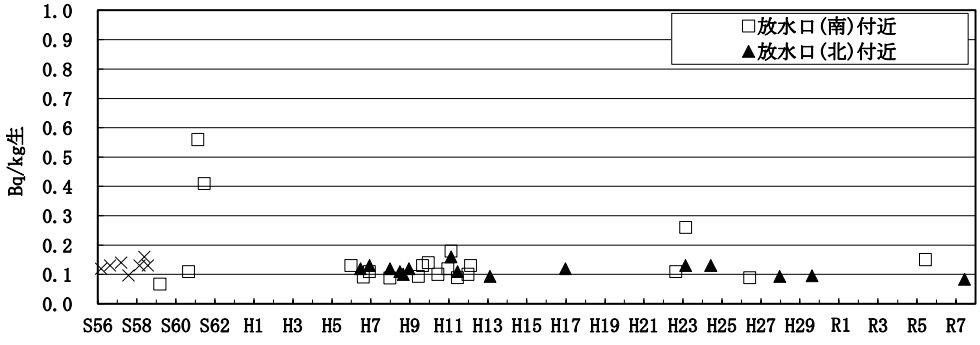


図11　ホンダワラ類中のCs-137濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±19％～±29％

２．ストロンチウム 90

(1) 飲料水

令和７年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。

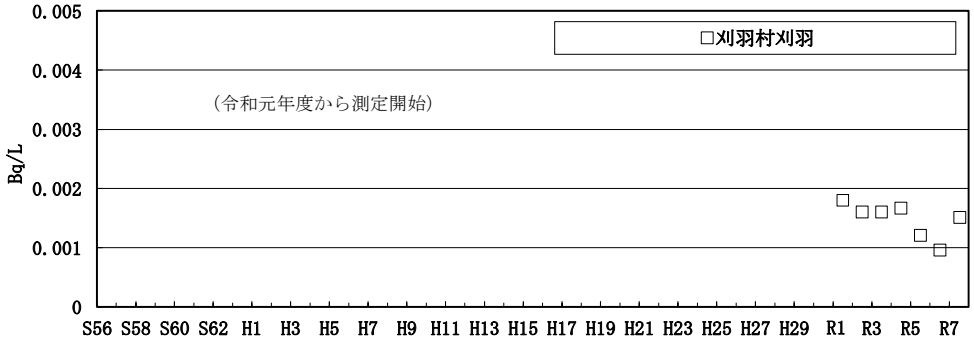


図12　飲料水中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±９％～±12％

(2) 土壌

令和７年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

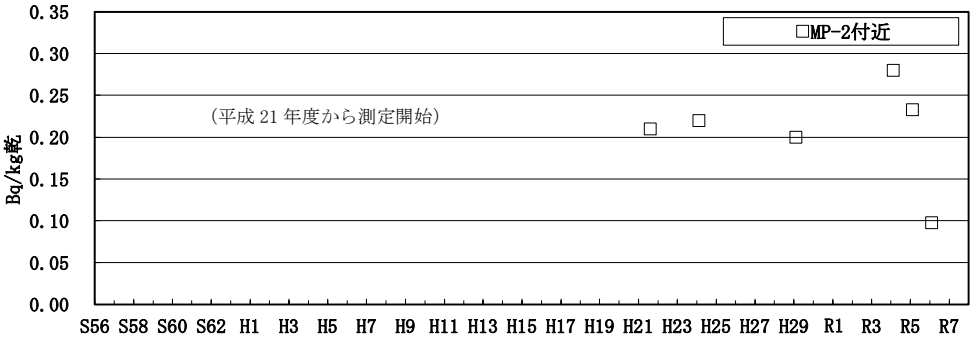


図13　土壌中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±25％～±29％

(3) 精米

令和７年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

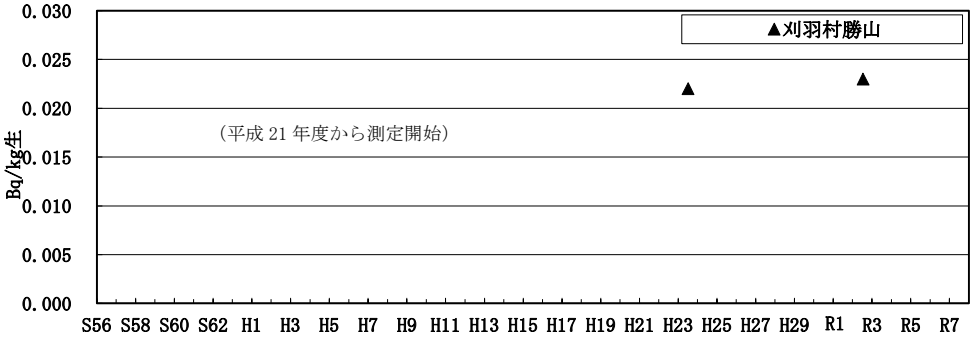


図14　精米中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±31％

⑷ キャベツ

令和７年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

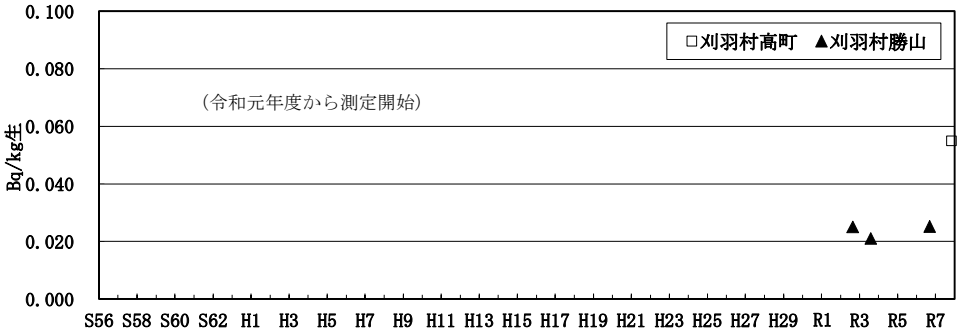


図15　キャベツ中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±12%～±33%

⑸ 大根

令和７年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間(直近)の測定値の範囲を超えた。

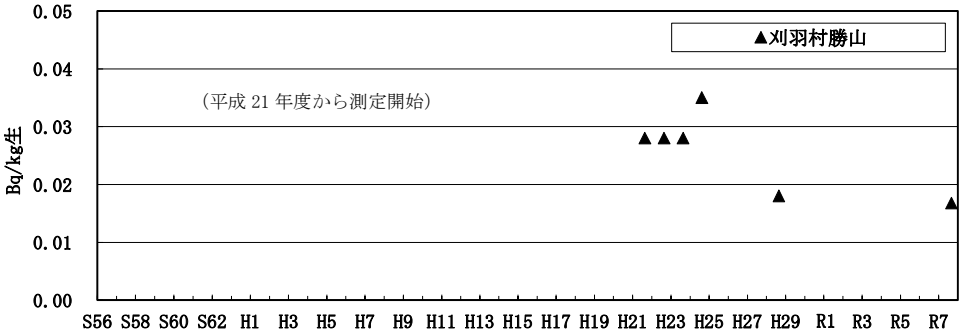


図16　大根中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±23%

⑹ 海水

令和７年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。

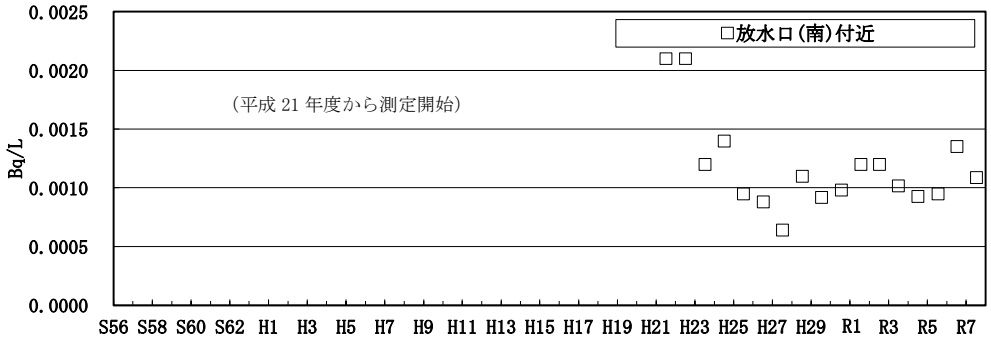


図17　海水中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±18%～±23%

(7) 海産物

令和７年度にストロンチウム 90 は検出されなかった。

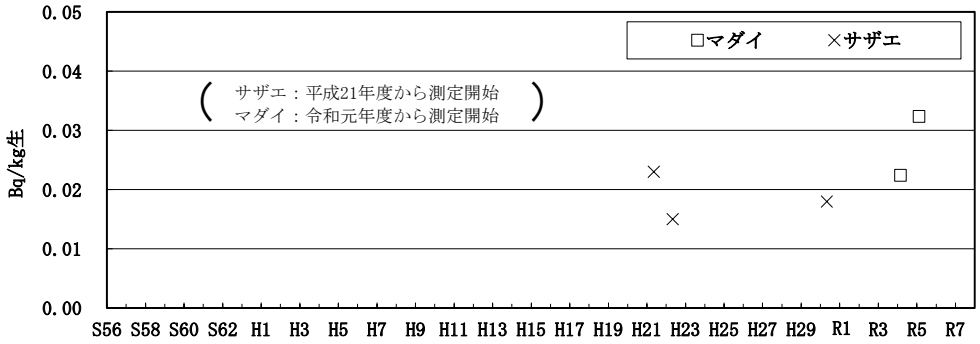


図18　海産物中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±23%～±29%

(8) ホンダワラ類

令和７年度に検出されたストロンチウム 90 は、対照期間の測定値の範囲内であった。

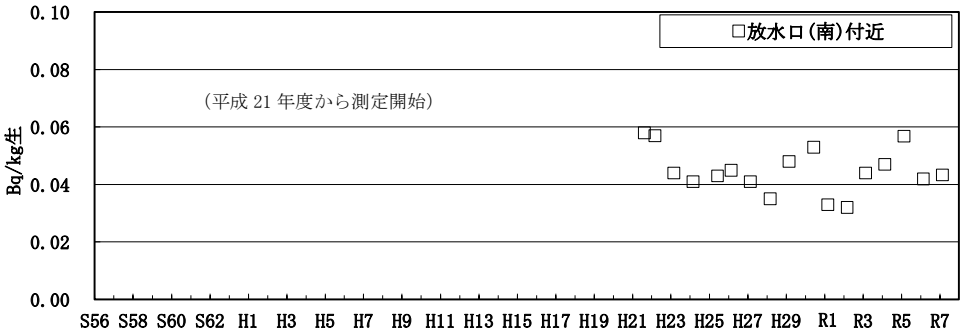


図19　ホンダワラ類中のSr-90濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±16%～±28%

３．トリチウム

(1) 飲料水

令和７年度に検出されたトリチウムは、対照期間(直近)の測定値と同程度であった。

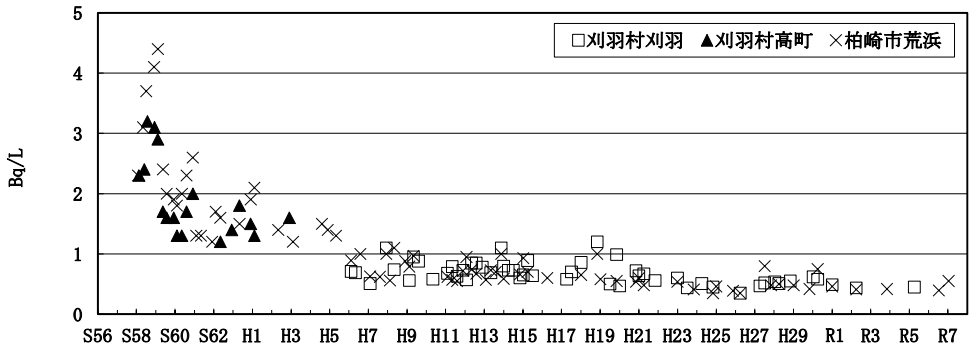


図20　飲料水中のH-3濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±25%～±33%

(2) 海水

令和７年度に検出されたトリチウムは、対照期間の測定値の範囲内であった。

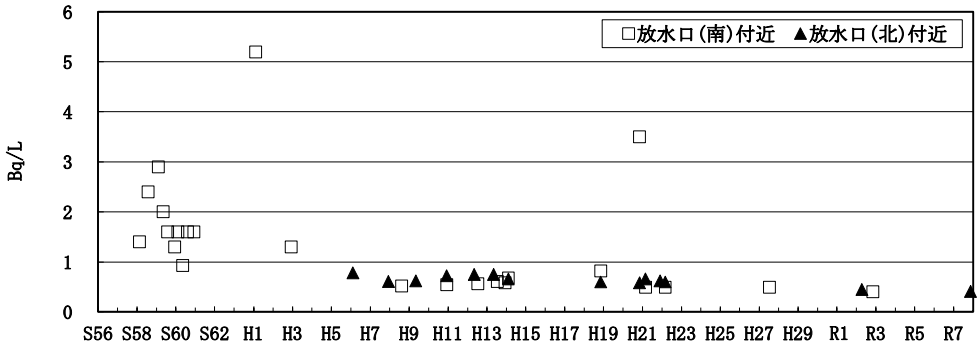


図21　海水中のH-3濃度の推移

直近５カ年及び当年度の各測定値の相対誤差：±27%～±33%